平成11年度後期企画展

中国・四国地方の装飾古墳

全国の装飾古墳シリーズ5

熊本県立 装飾古墳館

平成11年度後期企画展

中国・四国地方の装飾古墳

全国の装飾古墳シリーズ5

中国・四国地方の装飾古墳展開催にあたって

平成７年に全国を８ブロックに分け、全国装飾古墳シリーズと銘打った企画展を決定してから、今年で５回目の企画展を迎えます。

その当時、知られていない各地の装飾古墳を取り上げ県民の皆様に紹介するとともに、企画展を通して全国の装飾古墳に関する資料を集め、「装飾古墳のことなら、熊本県立装飾古墳館に行けばすべて分かる」と言われるような博物館にしたいという思いがありました。

過去4回の企画展で九州地区を終わり、このたびの企画展では、九州を離れ「中国・四国地方の装飾古墳展」を開催することとなりました。

熊本を遠ざかるにつれ、力の及ばない点も出てくると思いますが、学芸員一同初心を忘れずに、今後も努力を重ねて参りたいと思います。

今回の企画展では、遠く九州を離れた地域で装飾古墳を残した人々の、精神文化を紹介します。

また、今回の企画展から新たに、地下エントランスで企画展を開催することとなりました。

企画展示室の「装飾古墳の世界」と併せご覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、当企画展にご協力を賜りました関係機関に、心からお礼申し上げます。

平成11年10月19日

熊本県立装飾古墳館
館長　桑原　憲彰

目次

1 中国・四国地方の装飾古墳展開催にあたって

2 目次

3 凡例

4 中国・四国地方の装飾古墳分布図

8 第1章　現在の装飾古墳の研究について

13 装飾古墳エッセイ1　どうやって撮影するの？“装飾古墳”

14 第2章　中国地方の装飾古墳の分布と歴史的背景

19 装飾古墳エッセイ2　落書きしないで！　―落書きの歴史―

21 第3章　各地域の装飾古墳

22 中国地方

22 鳥取県

56 島根県

62 岡山県

62 山口県

63 四国地方

63 香川県

80 第4章　自由画風線刻画の描かれた地域

84 参考文献一覧

85 展示協力機関・撮影協力者一覧

1. この図録は、熊本県立装飾古墳館において開催する平成11年度後期企画展「全国の装飾古墳シリーズ5　中国・四国地方の装飾古墳」に際して発行する資料集である。
2. 資料集と展示の構成は必ずしも一致するものではない。
3. 掲載写真は、この企画展及び当館の全国装飾古墳調査研究事業の一環として、奈良国立文化財研究所 牛嶋 茂氏、西大寺フォト 杉本和樹氏による撮影及び撮影指導をいただき、当該市町村教育委員会及び各県教育委員会の協力を受け実施した。
4. 現時点で撮影が不可能なものについて、発掘調査時に撮影された写真を、当該教育委員会から提供を受け掲載し、本文中に提供機関名を記した。
5. 今回対象とした各地域の「装飾古墳一覧表」の中で、古墳の所在地に古代の律令行政区（国・郡）を併記した。これは、古墳築造時期の地域性を重視するためである。
6. 本文中で解説する石室壁面の左右は、羨道部より後室へ向かって左右と表記する。また、墳丘及び石室規模数値については本調査が行われていないものが多いため、現段階での概数である。
7. 対象とした地域で、装飾古墳が確認されていない地域（広島県、徳島県、愛媛県、高知県）は、第2章の歴史的背景では触れていないので注意されたい。
8. 本書に掲載した石室実測図は、それぞれの報告書や各種出版物掲載のものを再トレースして使用している。
9. 各章ごとに必要な、凡例についてはその都度表記した。
10. 本書の編集は学芸課、野田拓治の指導の下、林田登之・北原美和子の協力を得て、長谷部善一が行った。
11. なお、本書の装丁及び印刷データは以下の通りである。

印刷仕様

●判型／A4版

●頁数／88頁

●組版／写真写植（15級 明朝基本）

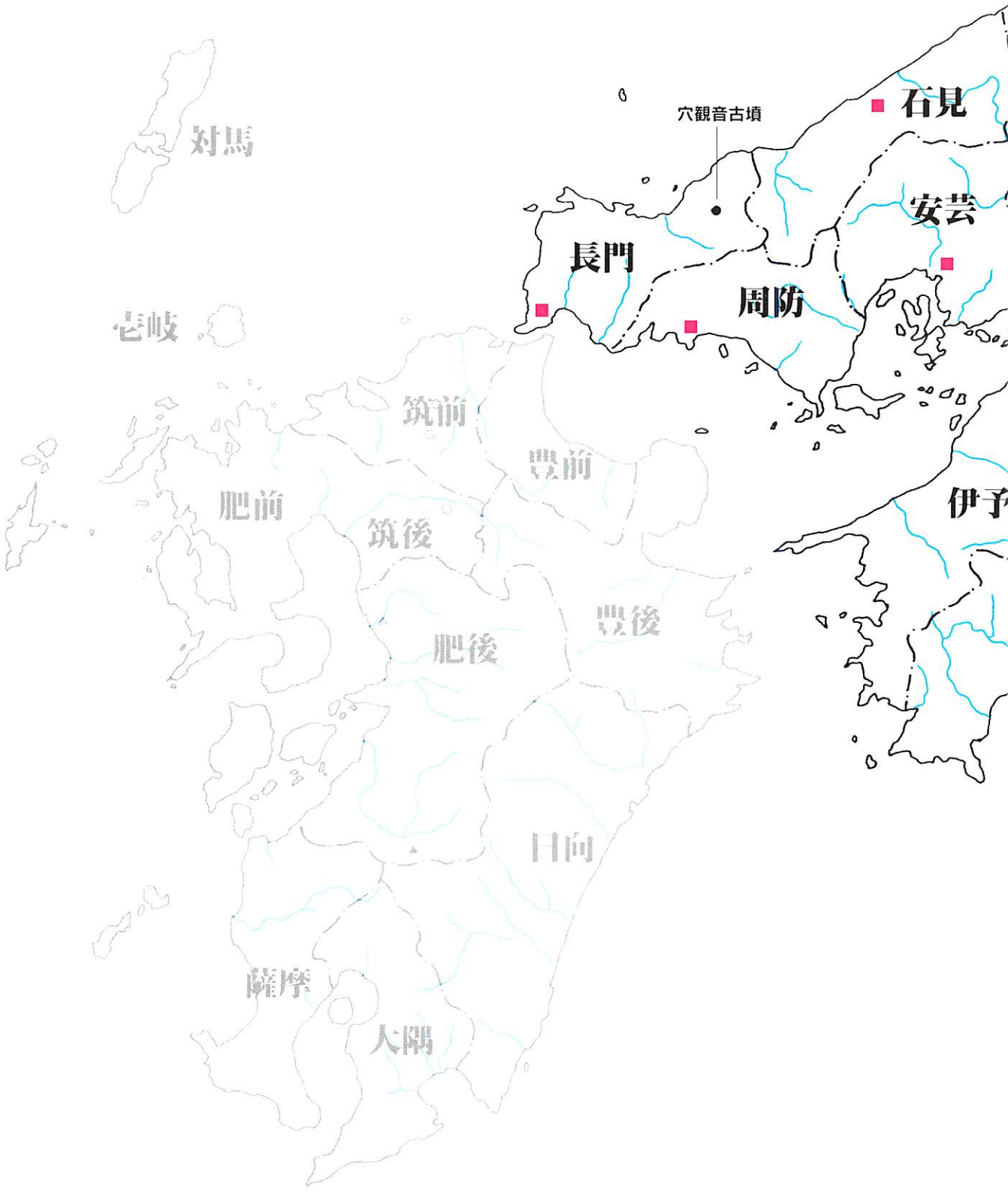
●印刷／オフセット印刷

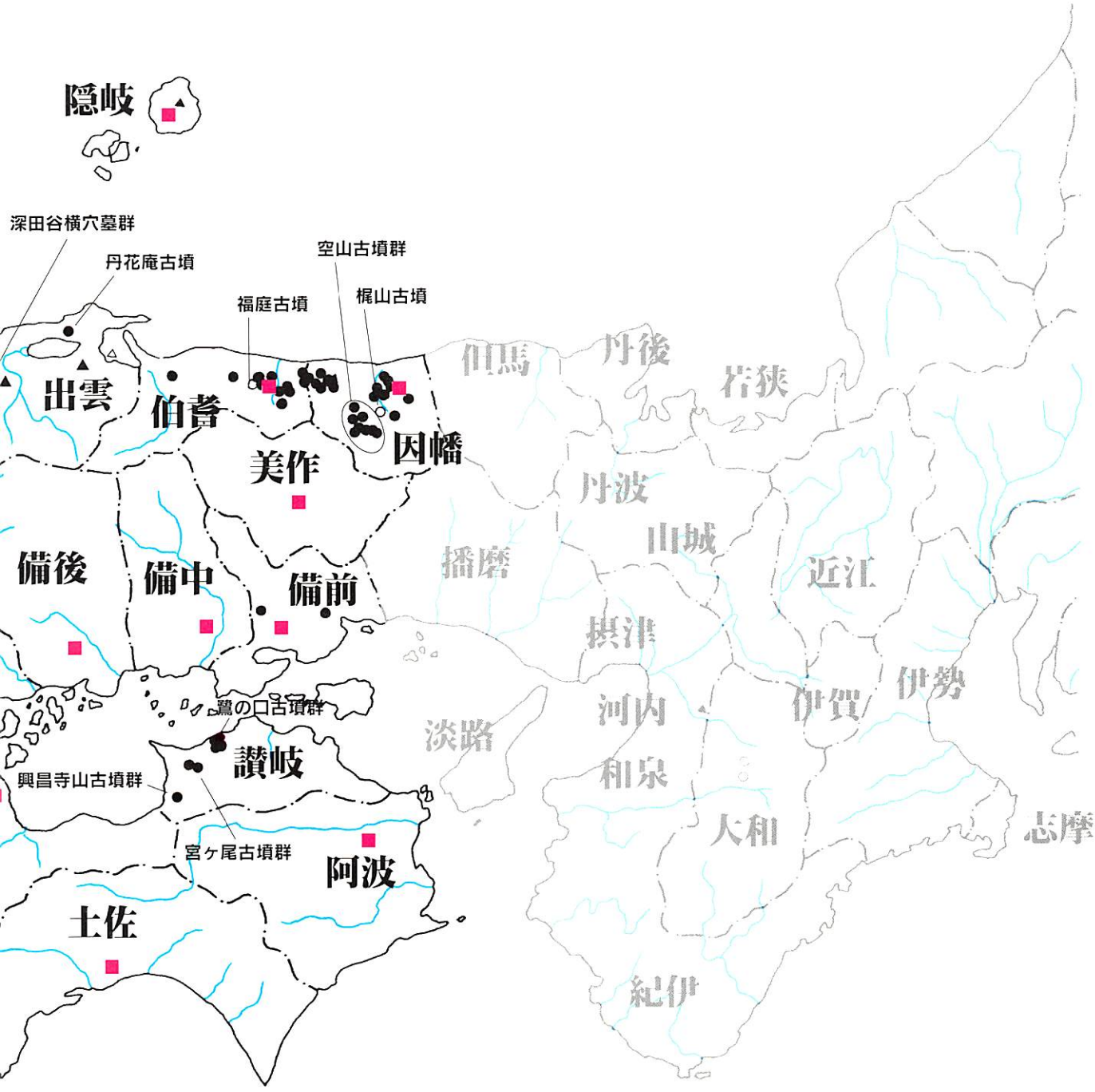
●製版／スクリーン線数200線で製版

●用紙／表紙（アートポスト4／6判200kg）
　　本文（マットコート4／6判135kg）

●製本／左無線綴じ

中国・四国地方の装飾古墳分布図




隠岐
深田谷横穴墓群
丹花庵古墳
空山古墳群
福庭古墳
梶山古墳
出雲
伯耆
因幡
美作
備後
備中
備前
鷲の口古墳群
讃岐
興昌寺山古墳群
宮ヶ尾古墳群
阿波
土佐
但馬
丹後
若狭
丹波
山城
播磨
近江
摂津
河内
伊賀
伊勢
淡路
和泉
大和
志摩
紀伊

一覧表

No.	古墳群名	古墳名	所在地	市・郡名	旧国名	旧郡名	墳墓形態	石室・石棺形態
1	高江古墳群	第6号墳	鳥取県	岩美郡	因幡	巨濃郡	円墳	横穴式石室
2	上野古墳群	第6号墳	鳥取県	岩美郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
3	美歎古墳群	第41号墳	鳥取県	岩美郡	〃	法美郡	円墳	横穴式石室
4	美歎古墳群	第43号墳	鳥取県	岩美郡	〃	〃	前方後円墳	横穴式石室
5	宮下古墳群	第19号墳	鳥取県	岩美郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
6	宮下古墳群	第20号墳	鳥取県	岩美郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
7	宮下古墳群	第22号墳	鳥取県	岩美郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
8	宮下古墳群	第52号墳	鳥取県	岩美郡	〃	〃	不明	横穴式石室
9	町屋古墳群	蛭山古墳	鳥取県	岩美郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
10	町屋古墳群	第30号墳	鳥取県	岩美郡	〃	〃	方墳	横穴式石室
11	栃本古墳群	第4号墳	鳥取県	岩美郡	〃	〃	不明	横穴式石室
12	畑山古墳群	第1号墳	鳥取県	岩美郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
13		梶山古墳	鳥取県	岩美郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
14	広岡古墳群	坊ヶ塚古墳	鳥取県	鳥取市	〃	〃	円墳	横穴式石室
15	広岡古墳群	第37号墳	鳥取県	鳥取市	〃	〃	円墳	横穴式石室
16	広岡古墳群	第48号墳	鳥取県	鳥取市	〃	〃	円墳	横穴式石室
17	越路古墳群	第54号墳	鳥取県	鳥取市	〃	〃	不明	横穴式石室
18	空山古墳群	第2号墳	鳥取県	鳥取市	〃	〃	円墳	横穴式石室
19	空山古墳群	第10号墳	鳥取県	鳥取市	〃	〃	円墳	横穴式石室
20	空山古墳群	第15号墳	鳥取県	鳥取市	〃	〃	円墳	横穴式石室
21	空山古墳群	第16号墳	鳥取県	鳥取市	〃	〃	円墳	横穴式石室
22	宇部野山古墳群	第13号墳	鳥取県	鳥取市	〃	〃	円墳	横穴式石室
23	宇部野山古墳群	第15号墳	鳥取県	鳥取市	〃	〃	円墳	横穴式石室
24	大平古墳群	第1号墳	鳥取県	八頭郡	〃	八上郡	円墳	横穴式石室
25	米岡古墳群	第2号墳	鳥取県	八頭郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
26	米岡古墳群	第58号墳	鳥取県	八頭郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
27	米岡古墳群	第68号墳	鳥取県	八頭郡	〃	〃	不明	横穴式石室
28	池田古墳群	第29号墳	鳥取県	八頭郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
29	福本古墳群	第4号墳	鳥取県	八頭郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
30	福本古墳群	大塚古墳	鳥取県	八頭郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
31	八東水古墳群	第55号墳	鳥取県	気高郡	〃	気多郡	不明	横穴式石室
32	土居古墳群	第5号墳	鳥取県	気高郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
33	山宮古墳群	第14号墳	鳥取県	気高郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
34	睦逢古墳群	第11号墳	鳥取県	気高郡	〃	〃	不明	横穴式石室
35	殿古墳群	第15号墳	鳥取県	気高郡	〃	〃	円墳	横穴式石室
36	殿古墳群	第25号墳	鳥取県	気高郡	〃	〃	不明	横穴式石室
37		漆谷横穴墓	鳥取県	気高郡	〃	〃	横穴墓	
38	西中園古墳群	第8号墳	鳥取県	気高郡	〃	〃	不明	寄棟式玄室
39	阿古山古墳群	第22号墳	鳥取県	気高郡	〃	〃	不明	横穴式石室
40	吉川古墳群	第43号墳	鳥取県	気高郡	〃	〃	不明	横穴式石室
41	向山古墳群	三明寺古墳	鳥取県	倉吉市	伯耆	久米郡	円墳	横穴式石室
42	大平山古墳群	福庭古墳	鳥取県	倉吉市	〃	〃	円墳	横穴式石室
43	上神古墳群	第48号墳	鳥取県	倉吉市	〃	〃	前方後円墳	横穴式石室
44	横手古墳群	第5号墳	鳥取県	東伯郡	〃	河村郡	不明	横穴式石室
45	長和田古墳群	第20号墳	鳥取県	東伯郡	〃	〃	不明	横穴式石室
46	久見古墳群	第17号墳	鳥取県	東伯郡	〃	〃	不明	横穴式石室
47	北福古墳群	第4号墳	鳥取県	東伯郡	〃	〃	不明	横穴式石室
48	西穂波古墳群	第9号墳	鳥取県	東伯郡	〃	八橋郡	不明	横穴式石室
49	西穂波古墳群	第27号墳	鳥取県	東伯郡	〃	〃	不明	横穴式石室
50	土下古墳群	第229号墳	鳥取県	東伯郡	〃	久米郡	不明	横穴式石室
51	福岡古墳群	天神垣神社古墳	鳥取県	西伯郡	〃	汗入郡	不明	横穴式石室
52	福岡古墳群	向山第4号墳	鳥取県	西伯郡	〃	〃	前方後円墳	横穴式石室
53		丹花庵古墳	島根県	松江市	出雲	意宇郡	方墳	長持形石棺
54	十王免横穴墓群	第1号墓	島根県	松江市	〃	〃	横穴墓	
55	十王免横穴墓群	第2号墓	島根県	松江市	〃	〃	横穴墓	
56	十王免横穴墓群	第7号墓	島根県	松江市	〃	〃	横穴墓	
57	深田谷横穴墓群	第1号墓	島根県	出雲市	〃	神門郡	横穴墓	
58	穴神横穴墓群	第1号墓	島根県	安来市	〃	意宇郡	横穴墓	平入横口式石棺
59	浜ノ崎遺跡	第2号横穴墓	島根県	八束郡	〃	〃	横穴墓	
60	飯ノ山横穴墓群	ー	島根県	隠岐郡	隠岐	周吉郡	横穴墓	
61	造山古墳群	千束古墳	岡山県	岡山市	備中	加夜郡	円墳	
62		鶴丸丸山古墳	岡山県	備前市	備前	和気郡	円墳	竪穴式石室
63		穴観音古墳	山口県	阿武郡	周防	阿武郡	方墳	横穴式石室
64	有岡古墳群	宮が尾古墳	香川県	善通寺市	讃岐	多度郡	円墳	横穴式石室
65	有岡古墳群	宮が尾第2号墳	香川県	善通寺市	〃	〃	円墳	横穴式石室
66	有岡古墳群	瓦谷第1号墳	香川県	善通寺市	〃	〃	円墳	横穴式石室
67	岡古墳群	第5号墳	香川県	善通寺市	〃	〃	円墳	横穴式石室
68	岡古墳群	第6号墳	香川県	善通寺市	〃	〃	円墳	横穴式石室
69	岡古墳群	第10号墳	香川県	善通寺市	〃	〃	円墳	横穴式石室
70	岡古墳群	第11号墳	香川県	善通寺市	〃	〃	円墳	横穴式石室
71	岡古墳群	第13号墳	香川県	善通寺市	〃	〃	円墳	横穴式石室
72	岡古墳群	夫婦岩第1号墳	香川県	善通寺市	〃	〃	円墳	横穴式石室
73	蛭の口古墳群	第1号墳	香川県	坂出市	〃	阿野郡	円墳	横穴式石室
74	山ノ神古墳群	綾織塚古墳	香川県	坂出市	〃	阿野郡	円墳	横穴式石室
75	山ノ神古墳群	第2号墳	香川県	坂出市	〃	〃	円墳	横穴式石室
76		揭原山古墳	香川県	坂出市	〃	?	円墳	横穴式石室
77	醍醐古墳群	号数不明	香川県	坂出市	〃	阿野郡	円墳	横穴式石室
78	興昌寺山古墳群	第1号墳	香川県	観音寺市	〃	刈田郡	円墳	横穴式石室

No.	図文の描かれた位置 羨道部	図文の描かれた位置 後室	施文方法	図文の描かれた位置 船	魚	鳥	綾杉	木葉	人物	家屋	平行線	格子	三角文	その他	特記事項
1	—	奥壁	線刻											動物？	
2	—	奥壁・右側壁	線刻											線刻文様不明	
3	—	右側壁	線刻	○							○				
4	—	奥壁・右側壁	線刻	○								○			
5	—	左側壁・天井	線刻					○				○			
6	—	奥壁	線刻											線刻文様不明	
7	右側壁・天井	左・右側壁	線刻	○											
8	—	左・右側壁	線刻			○									
9	左側壁	奥壁・左・右側壁	線刻	○	○	○					○				
10	—	右側壁	線刻	○											
11	—	左側壁	線刻	○											
12	—	右側壁・天井	線刻						○			○		動物（鹿？）	
13	—	奥壁	彩色（赤）		○								○	同心円文・曲線	
14	右側壁・天井	奥壁・左・右側壁	線刻						○					弓・幾何学文	弓を引く人物
15	—	左側壁	線刻											線刻文様不明	
16	—	—	線刻									○		斜格子文	墳丘裾部列石
17	—	奥壁・左側壁	線刻			○	○				○		○		
18	—	右側壁・天井石側面	線刻					○						弓？	
19	—	左側壁・袖石上部	線刻			○	○	○	○		○				大刀を持つ武人
20	—	奥壁・左側壁	線刻	○	○		○	○						星形	
21	—	奥壁・右側壁・石材の上面	線刻	○		○					○	○		斜格子文	
22	右側壁	右側壁	線刻											線刻文様不明	
23	—	左・右側壁	線刻											線刻文様不明	
24	—	—	線刻											線刻文様不明	
25	—	左・右側壁・天井	線刻				○		○			○			
26	—	奥壁・左・右側壁・天井	線刻									○			
27	—	—	線刻									○			
28	—	—	線刻											線刻文様不明	
29	—	奥壁・左・右側壁	線刻		○		○				○			弓	
30	—	—	線刻											線刻文様不明	
31	—	—	線刻											線刻文様不明	
32	—	奥壁・右側壁	線刻											線刻文様不明	
33	左袖石	—	線刻											幾何学文	
34	—	左側壁	線刻			○									
35	—	天井	線刻									○			
36	—	左側壁	線刻											線刻文様不明	
37	奥壁	奥壁・左・右側壁	線刻				○								
38	—	左側壁	線刻											線刻文様不明	
39	—	左・右側壁	線刻	○										星形	
40	—	右側壁	線刻	○											
41	左側壁	—	線刻					○							
42	—	奥壁上部	彩色（赤）								○		○		
43	—	奥壁	線刻			○	○								
44	—	奥壁・右側壁	線刻											線刻文様不明	
45	天井	奥壁・左側壁	線刻									○			
46	—	左・右側壁	線刻				○	○				○			
47	—	奥壁・右側壁	線刻											斜格子文	消滅
48	—	奥壁・左側壁	線刻	○										弓・矢	消滅
49	—	奥壁・左・右側壁	線刻	○											
50	—	左・右側壁	線刻		○									放射状文	
51	左側壁	—	線刻								○				
52	左側壁	—	線刻											線刻文様不明	
53	—	—	線刻										○		長持形石棺蓋
54	—	—	線刻	○										弓・矢	消滅
55	—	—	線刻					○					○	弓・矢	消滅
56	—	位置不明	線刻	○										弓・矢	弓を射る狩人
57	—	奥壁・右側壁	線刻						○	○					消滅
58	—	前面右側板	彩色（赤）											不明	
59	—	奥壁	線刻						○						消滅
60	—	—	線刻											線刻文様不明	消滅
61	—	石障（左側壁・奥壁）	線刻											直弧文	
62	—	—	線刻											円文	長持形石棺蓋
63	左・右側壁	袖石	線刻						○					弓？	
64	左側壁	奥壁・左・右側壁	線刻	○					○	○	○			馬・武人・騎馬人物	
65	左側壁	—	線刻							○					
66		奥壁	線刻						○						
67		奥壁・左側壁	線刻	○				○		○	○	○			
68	左側壁	—	線刻							○					
69	左・右側壁	玄門上部	線刻					○		○	○				
70	左・右側壁	—	線刻					○		○	○				
71	—	左・右側壁	線刻							○		○			
72	羨道部	左・右側壁・天井	線刻						○	○	○				
73	左側壁	奥壁・左・右側壁	線刻	○				○		○					
74	—	側壁	線刻					○		○					
75	左側壁	羨道部左側壁	線刻					○							
76	—	—	線刻	○				○				○			
77	—	—	線刻											線刻文様不明	
78	—	左側壁	線刻	○				○							

第1章　現在の装飾古墳研究について

九州地方に代表される装飾古墳は現在まで、多くの研究者に注目され、それぞれの時代に研究・集成が行われその数は、徐々に増加している。

1964年（昭和39年）に小林行雄氏（注1）により135基、1973年（昭和48年）に斎藤　忠氏（注2）により232基、1974年（昭和49年）に乙益重隆氏により244基、1985年（昭和60年）に森貞次郎氏により294基（注3）がそれぞれ報告されている。

さらに、1992年（平成2年）熊本県立装飾古墳館開館当時に484基、1993年（平成5年）国立歴史民俗博物館開館10周年記念企画「装飾古墳の世界」展開催時に577基（注4）の報告がある。

近年の調査によると九州で新たな装飾古墳が確認されてきている。

1998年4月には佐賀県教育委員会により佐賀県鳥栖市で開発に伴う発掘調査が行われ、奥壁に赤で彩色された円文等を施す「ヒャーガンサン古墳」が発見されている。

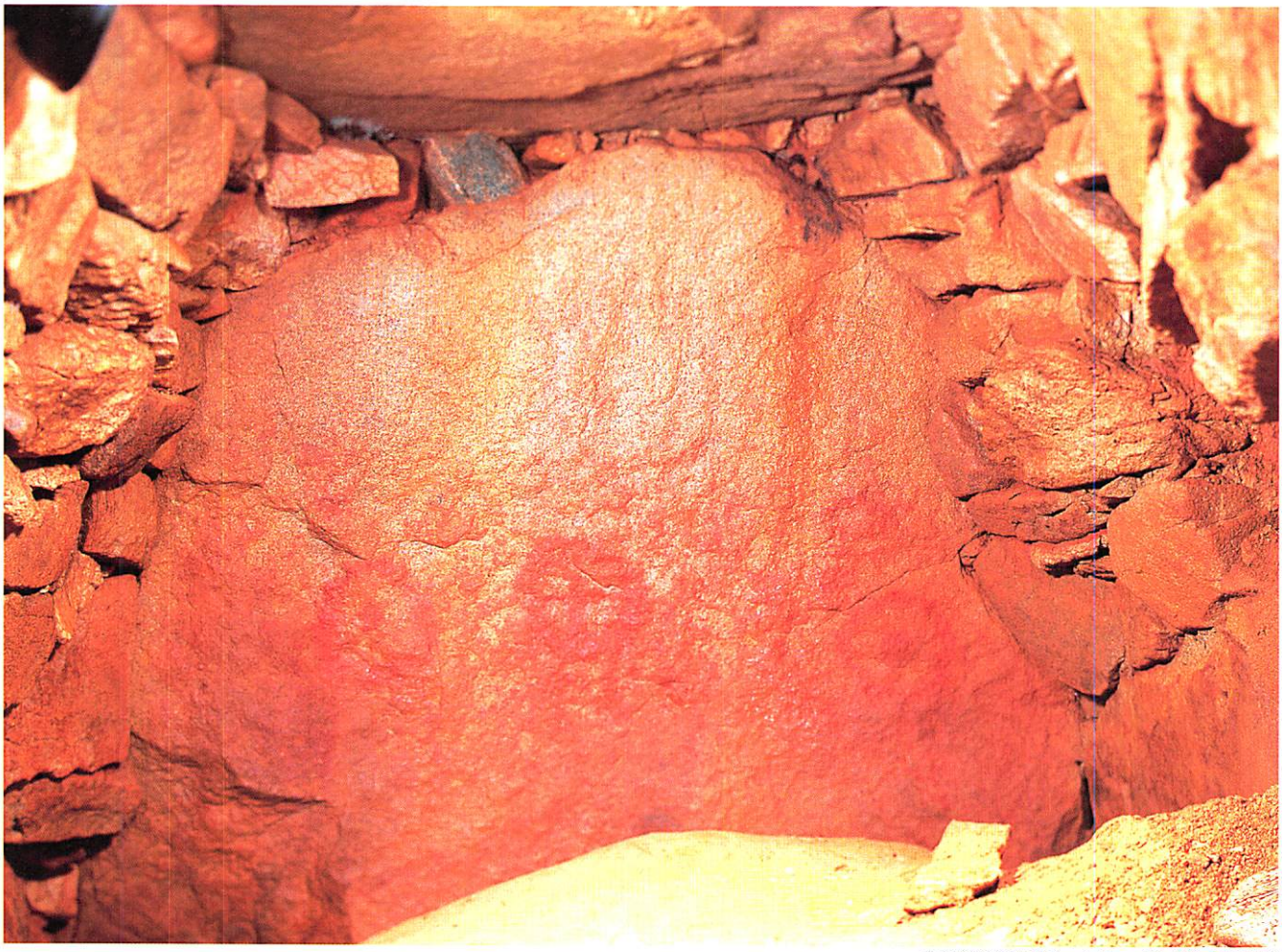
同年12月には宮崎大学の調査により宮崎県宮崎市「蓮ヶ池横穴墓群第53号墓」で7世紀前半のものと想定される鬼面文・葬送の船・人物像などが発見されている。

さらに、1999年（平成11年）4月には、福岡県那珂川町の「丸ノ口古墳群」で、石室壁面をのみのようなもので叩いて窪ませ、円文を描いた装飾古墳が2基、当該町教育委員会により発見されている。

一方、福岡県直方市では装飾横穴墓として確認されていた「水町横穴墓群」の史跡整備が進み、当該市教育委員会によるシンポジウムなど装飾古墳に関する啓発活動が行われた。

また、福岡県鞍手町では国指定史跡「古月横穴墓群」整備のための詳細調査が行われており、本格的な装飾横穴墓の整備手法が確立することと思われる。

開発等による本調査や各地の教育委員会による



九州の装飾古墳1　ヒャーガンサン古墳奥壁

詳細な分布調査、確認調査が増加している現在、歴博10周年「装飾古墳の世界」展（国立歴史民俗博物館）の数字を超える装飾古墳（装飾横穴墓）が確認されていることと思われる。

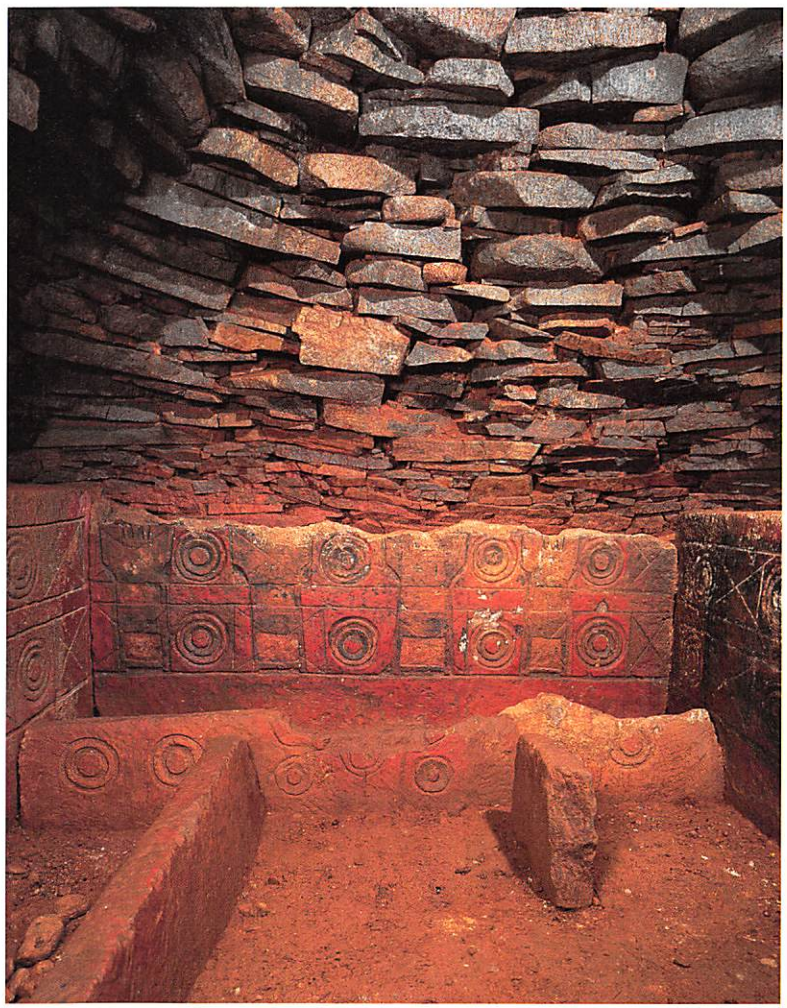
装飾古墳とは

装飾古墳という言葉の持つ概念については、上記歴博での「装飾古墳の世界」の中で、白石太一郎氏により「5・6世紀を中心にその内部の石造りの墓室壁面に、彩色や線刻の絵画や彫刻で装飾を施したものが見られる。また、石棺の外面、あるいは内面に浮き彫りや線刻の装飾をもつもの、さらに山や丘陵の崖面に墓室を直接掘り込んだ横穴墓の内外面に、線刻あるいは彩色で絵画を描いたり、浮き彫りの彫刻を施したものもある。こうした古墳の墓室の内部や石棺などに絵画や彫刻の装飾を施したものを装飾古墳という」と明確に規定されている。

これ以前には乙益重隆氏により「今、あえて装飾古墳の概念を規定しようとすると、それは、古墳の盛土内に設けた石棺の内外面や、石室の内壁、および石室の床にたてめぐらした石障とよばれる仕切り石の内面、あるいは崖面に掘られた横穴の外面や内部に、文様や絵画を彫刻・線刻したり、彩色したりしたもの、ということができよう」とされ、諸説ある中でほぼ現在まで踏襲されてきた装飾古墳の概念を言い表されている。

このように、装飾古墳とは5世紀から、7世紀前半にかけて、石室内・石棺内外面・横穴墓内外壁面に、彩色・線刻・彫刻手法を用い、死者の眠る神聖な空間を、辟邪（へきじゃ）や鎮魂を願い描いた、一種の葬送形態と言えよう。

日本の装飾古墳の源流といわれている、朝鮮半島の高句麗では、日本の装飾古墳に先行する、3世紀～4世紀に、墓室内に死者の生前の姿を描いたものが見られ、多くの壁画古墳が残されている。



九州の装飾古墳2　千金甲古墳群第1号墳後室

日本では、岩肌に直接描くという手法が中心となり、その文様は生前の姿を写すことよりも、死後の世界を守るという辟邪思想が伺われ、その思想は一貫して発生段階から終末期まで見ることができる。

また、九州地方で見られる、いわゆる装飾古墳とは違う古墳の葬送形態の一つに石人・石馬がある。

森貞次郎氏によると「阿蘇溶岩を以って石棺を作るに慣れた工人が埴輪を模して製作するとする説に異存はない」とされ、また、小田富士雄氏は「岩戸山古墳の調査で、埴輪の人物・鳥・馬などが石人・石馬と同じ表現であり、同類であることが認められた」と、石人・石馬が、埴輪とほぼ同じ用法を持ち使用されていたとしている。

このことから、九州地方で多く見られる石人・

石馬は、表飾を目的として古墳の墳丘上に立ててあり、その役割は形象埴輪などと同じと考えられる。

しかし、横穴墓等で見られる彫刻手法で施されている鍋田横穴墓群第27号墓の装飾などは、石人・石馬と構図が同じで、掘り抜いてあるか、掘り付けてあるかの違いしかなく、4世紀後半に出現する盾・靫・甲冑などの器財埴輪と同じモチーフが施される。

これらが横穴墓に持ち込まれるのは、墳丘上での祭儀を示すもので、単に辟邪的な思想だけではなかったのではなかろうか。

また、古墳に付属する施設として本来的な機能が簡略化されたもので、装飾文様とは別に考えなければならない施設に「刀掛突起（注5）」・「縄掛突起（注6）」がある。

熊本県嘉島町に所在する井寺古墳石室内には、石室築造段階で突起状に後室奥壁・右・左側壁に石材で作り付けてある、いわゆる刀掛突起の例や、熊本県不知火町に所在する国越古墳（彩色系装飾古墳）に見られる平入り式家形石棺奥壁に見られる上下2個ずつ2段に並ぶ計4個の、いわゆる刀掛突起などの例がある。

また、舟形石棺や割竹形石棺など、蓋に作りつけられた短い棒状の突起である縄掛突起など、本来は目的を持った機能的な部位であったものが、時代が下るごとに簡略化され、形式的に付属するものとして存在している。

島根県地方で多く築造されている石棺式石室（注7）に、閉塞石として用いられる把手を浮彫り状に施したものがある。

この閉塞石について、九州地方では、国越古墳に見られる把手を浮彫りにした例があるが、島根県地方で見られるものは、国越古墳のものとは浮彫りにされている構造がやや違い、一概に比較はできないが、本来石室で追葬を行う際に開閉する門の名残と思われる。

井寺古墳や、国越古墳のいわゆる刀掛突起や舟形石棺に見られる縄掛突起と同様に、本来の機能を形式化し作り付けられたもので、一見、装飾と思われる門も、装飾文様とは区別して考える必要があろう。

これまでのように、装飾古墳の研究を進める上では、その周囲に関連する問題が数多く残されている。

最後に、今回対象とする地域で多く見られる、線刻画だけで構成される装飾古墳は、彩色と違い石室内に入ることができれば、いつの時代でも追刻ができるものだけに、その真偽のほどは慎重に取り扱わなければならない。

武装石人　三宮古墳（熊本県荒尾市）

九州の装飾古墳３　チブサン古墳石室

注1）小林行雄編 藤本四八撮影『装飾古墳』平凡社1964（昭和39年）地名表による。
注2）斎藤　忠『日本装飾古墳の研究』 株式会社講談社 1973（昭和48年）地名表による。
注3）森貞次郎『装飾古墳』教育社歴史新書＜日本史＞=41 教育社 1985 地名表による。
注4）この両方の数字については相当の違いがあるが、装飾古墳の概念の違いにより若干の相違があったと思われる。
注5）いわゆる刀掛突起とは、横穴式石室の壁面に左右1基ずつの突起を造り付け、石障の表面に突起を浮彫り状に施したりしたものである。乙益重隆氏は、熊本県装飾古墳総合調査報告書中、国越古墳解説文中に「託架（たか）状突起」として紹介されている。
注6）石棺の蓋の縁部や身の上部の前後両端・側面に作られた短い棒状で方形の突起部。一般に刳り抜きの割竹形木棺・舟形石棺などには蓋・身ともに前後両端に見られ、長持形石棺などには蓋・身と前後・側面にも見られる。家形石棺になると形式化して蓋のみとなる。名称は突起部に縄をかけて運搬したと想定したことに由来する。本来は蓋と身の緊縛封鎖用施設であり、それが形式化して存続したものと思われる。
注7）石棺式石室とは、6世紀後半から7世紀前半まで島根県松江市を中心とする地域で盛行する石室形態の一種。玄室の四壁と天井、床石を原則として1枚の切石で造る。さらに玄門は前壁を刳り抜いて作り、天井石は内面のみならず、盛土に埋もれてしまう外面まで家形に造作する。あたかも巨大な家形石棺を土中に埋めたかのような、その形態からこのように呼ばれている。

参考文献

小林行雄編・藤本四八撮影『装飾古墳』平凡社 1964（昭和39年）
乙益重隆編 古代史発掘⑧『装飾古墳と文様』古墳時代 3 1972（昭和49年）
斎藤　忠『日本の装飾古墳』株式会社講談社1973（昭和48年）
国立歴史民族博物館編『装飾古墳の世界』図録　朝日新聞社 1993
森貞次郎　歴史新書 41『装飾古墳』教育社 1985
大塚初重・戸沢充則編『最新 日本考古学用語辞典』柏書房 1996
熊本県教育委員会『熊本県装飾古墳総合調査報告書』熊本県文化財調査報告第68集 1984
県史43『熊本県の歴史』株式会社山川出版社 1999
森貞次郎　美術文化シリーズ『竹原古墳』中央公論美術出版 1968（昭和43年）
善通寺市文化財保護協会『史跡有岡古墳群（宮が尾古墳）調査報告』1993年3月
辰巳和弘『古代絵画にみるシンボリズム』『考古学による日本歴史』12　芸術・学芸とあそび 雄山閣 1998

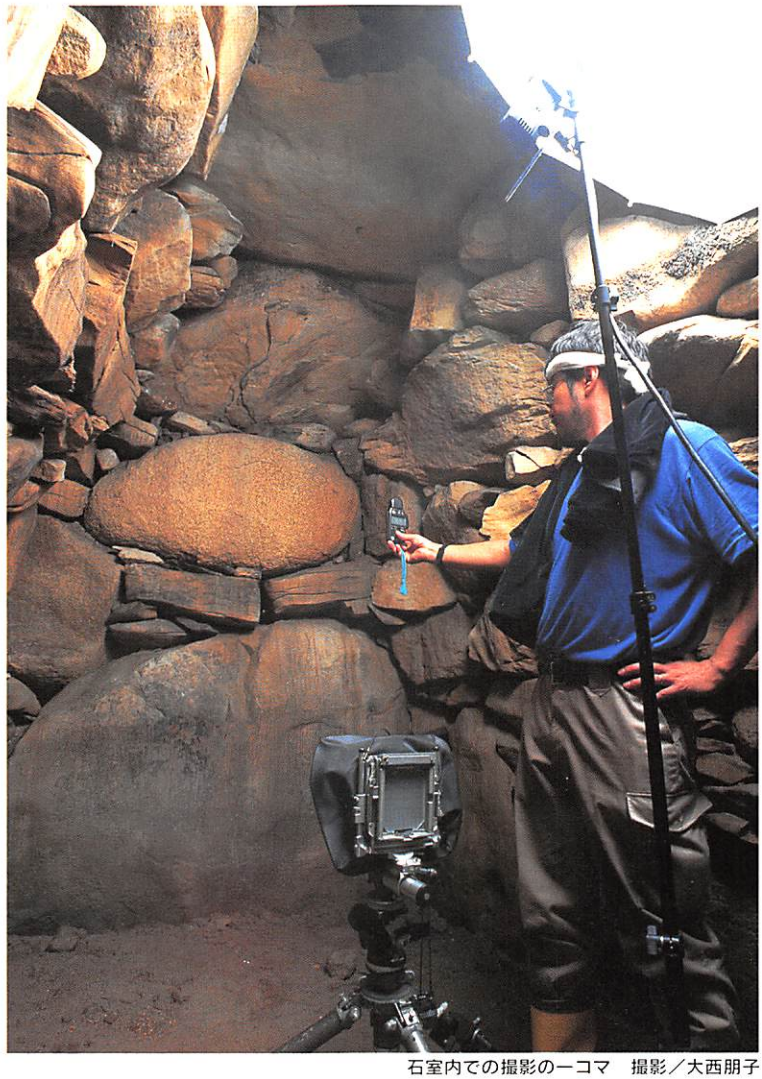
装飾古墳エッセイ 1　どうやって撮影するの？“装飾古墳”

古墳の中に入ったことはありますか。
古墳の石室の中は普通、畳1畳から広くても2畳くらいの広さで人が立って入られる所から、しゃがまないと頭を打つところまでさまざまです。

このような狭い空間で大型カメラを構え、人工光であるストロボを使い撮影をします。ここで使用するカメラは、一般的に利用されている一眼レフ（35㎜）のカメラではなく、フィルムサイズ4×5インチ（10.2㎝×12.7㎝）を使用する大型カメラです。このカメラは、蛇腹を動かすことで形を補正する機能を持ったカメラです。

このカメラを使い、約1500年前に彩色されたり、線刻され、風化が進む装飾文様を撮影します。その際、石室全面に均一に光が届くような大きな光量を持つストロボ（2400w）を使います。

通常、線刻画を撮影するときは1灯でライティングし、レフ板で光を拡散させて撮影を行いますが、それぞれの古墳で一番効果的なライティングを行うため、多くの経験と古墳に対する専門的知識が必要です。



石室内での撮影の一コマ　撮影／大西朋子

第2章　中国地方の装飾古墳の分布と歴史的背景

鳥取県

弥生時代

山陰地方の墓制の特色は、弥生時代後期に発生する、全国的にも特異な四隅突出型墳丘墓である。

この墳丘墓は方形の四隅が突き出た形をし、山陰地方を中心として北陸まで広がりを持つ地域色の濃い埋葬施設である。

鳥取県内では、発生の起源が最も古いとされる尾高浅山1号墓（米子市）など、弥生時代後期初頭に築造されたものがあり、その後、西桂見墳丘墓（鳥取市）に至っては一辺が約64mを超える墳丘墓が出現し、古墳時代における方墳を伺わせる規模となる。

古墳時代

古墳時代に入ると、内陸部に前方後円墳が築造され、近畿地方や吉備地方の影響を受けたと思われる古墳が出現し始める。その中でも、普段寺古墳群第1号墳は、西伯郡会見町に所在する前方後円墳で全長約23mあり、安来市大成古墳、大阪府高槻市阿為神社所蔵鏡（伝将軍塚出土鏡）と同笵の三角縁神獣鏡が出土し、当時広範囲に及ぶ交流があったことを伺わせる。

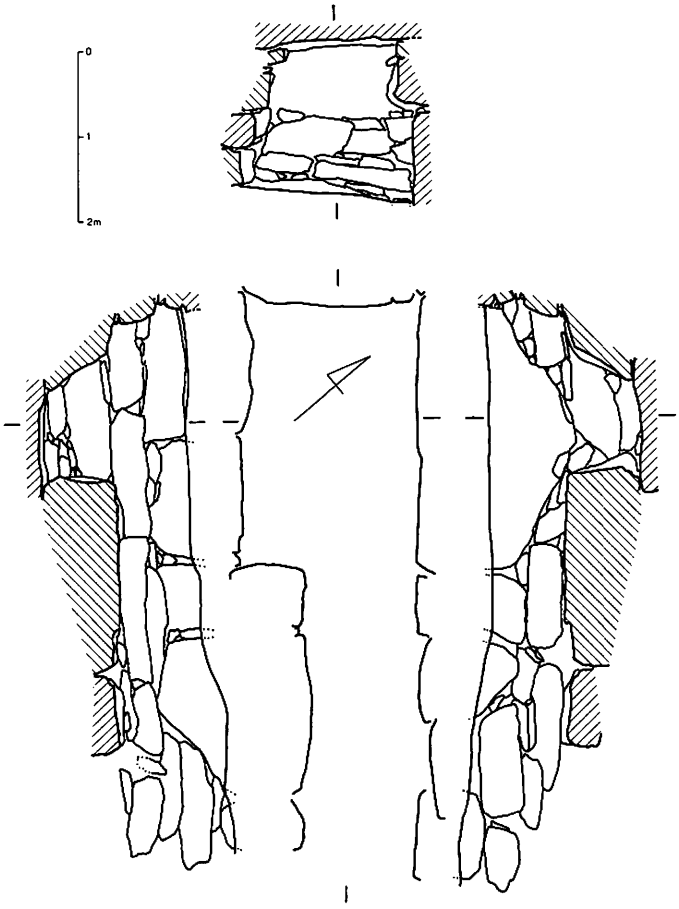
さらに、畿内地方の結び付きを強く感じさせられる大型の前方後円墳が、東伯郡羽合町に出現する。

全長約110m（推定）の馬山古墳群第4号墳で、墳丘は全面に葺石を施し、円筒埴輪・朝顔型埴輪を立て巡らせ、主体部には竪穴式石槨（長さ8.5m）を施し、石槨内に長さ2.7mの長大な割竹形木棺が安置されており、畿内の古墳と比較しても遜色のない規模・施設が見られる。

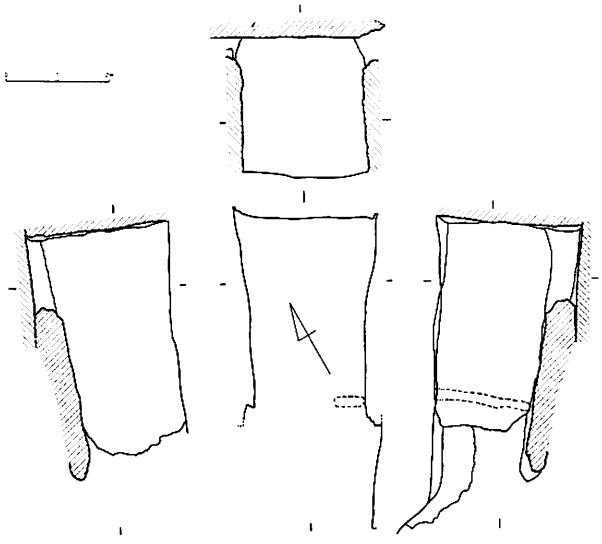
その後、6世紀の前半頃から各地で作られはじめる横穴式石室を導入した後期古墳や群集墳は、その石室形態から北部・中部九州の影響を強く受けたものと思われる。それとともに、石室内への線刻及び彩色による装飾技法が導入される。

また、古墳時代前期から作られてきた、この地方特有の方墳はほとんど見られなくなり、円墳を主流とした後期古墳が盛行することとなる。

この中で、6世紀後半から7世紀にかけ、因幡地方東部ではこの地域特有の中高天井式石室（注1）が生まれ、東伯耆地方では扁平板石組石室（注2）、西伯耆地方では、島根県の影響を強く受けた石棺式石室（注3）があり中高天井式石室、偏平板石組石室に、多くの線刻画が見られる。



（坊ヶ塚古墳石室実測図　中高天井式石室）



（阿古山22号墳石室実測図　扁平板石組石室）

注1）平面形が長方形を呈する玄室の天井を、前後3枚の板石を置いて作るが、真中の石を前後の石の上にかけ渡し1段高くしている石室。

注2）石室平面形が方形で、玄室の奥壁と左右の側壁を大型の立石3枚で構築される石室。

注3）玄室の四壁と天井、床石を原則として1枚の切石で作り、さらに玄門は前壁を刳り抜き天井石は内面のみならず盛土に埋もれて隠れてしまう外面まで家型に造作する石室形態。

参考文献

加藤和江「線刻画研究ノート①」－鳥取県における実態と分析－
同志社大学考古学シリーズⅢ『考古学と地域文化』1987年発行
真田廣幸「鳥取県のあけぼの」『県史31 鳥取県の歴史』株式会社山川出版社　1997
森　浩一企画　野田久男、清水真一共著『日本の古代遺跡 9　鳥取』保育社 1983（昭和58年）

古代

鳥取県は古代の律令制行政区分において県東部にあたる因幡国、県西部にあたる伯耆国に区分される。

因幡国は、法美郡稲羽郷から広西郷（現 岩美郡国府町）にかけて国府が置かれている。

延喜式によると因幡国は、巨濃郡、法美郡、邑美郡、高草郡、気多郡、八上郡、智頭郡の7郡からなり古くは国名に「稲羽」「稲葉」を当てていたようである。

この因幡国国府では、天平宝字三年正月一日、因幡国司 大伴家持により万葉集の最後の歌となる新しき年の始めの初春の

今日降る雪のいや重け吉事

と読まれた因幡国庁に当たる。

伯耆国は河村郡・久米郡・八橋郡・汗入郡・会見郡・日野郡の6郡からなり国府を久米郡八代郷（現 倉吉市）に設置している。

島根県

弥生時代

広島県と島根県の県境にあたる中国山地で発生したといわれる、山陰地方独自の四隅突出型墳丘墓は、弥生時代後期の埋葬施設として出雲平野、安来平野を中心とし、幅広い分布が見られる。

代表的な遺跡として仲仙寺墳墓群（安来市西赤江町）や宮山墳墓群（仲仙寺墳墓群宮山支群）、西谷墳墓群（出雲市大津町）が確認されており、前期古墳の発生とも密接な関係が考えられる。

古墳時代

島根県内での出現期の古墳は、景初3年銘三角縁神獣鏡出土神原神社古墳（大原郡加茂町）にみることができる。墳形は方墳を呈し主体部に小口積み竪穴式石室が作られ割竹形木棺があったことが確認されている。さらに、安来平野では仲仙寺墳墓群や宮山墳墓群の系譜を引き継ぐ形で、大成古墳・造山古墳群第1号墳が、神原神社古墳が立地する斐伊川中流域では前方後方墳を始めとする前期古墳が形成されている。

古墳時代後期には、宍道湖を中心とする東側地域で、山代双子塚古墳（松江市）に代表される首長墓の系譜と、宍道湖西側に位置する上塩治築山古墳（出雲市）や大念寺古墳の首長墓の系譜に大別され、東西両勢力下で大規模な古墳群が形成されている。

山代双子塚古墳を中心とする地域では、6世紀後半から7世紀初頭にかけて、この地方特有の石室形態である「石棺式石室」と呼ばれる地域色の強い石室が作られるようになる。

古代

島根県は、律令制行政区分において現在の島根県東部の出雲国、県西部の石見国、隠岐諸島からなる隠岐国の3地域に分けられる。

出雲国は、天平5年（733）の『出雲国風土記』によると、意宇郡・嶋根郡・秋鹿郡・楯縫郡・出雲郡・神門郡・飯石郡・仁多郡・大原郡の9郡からなり、国府は松江市大草町六所神社周辺とされ、近接地域で国分寺・国分尼寺の遺構が確認されている。

石見国は、『延喜式』によると安濃郡・邇摩郡・那賀郡・邑知郡・美濃郡・鹿足郡の6郡からなり国府推定地は、現在の邇摩郡・浜田市・江津市のいずれかに置かれたとされている。また、国分寺は、現在の浜田市国分町と推定される。

隠岐国は隠岐諸島に位置し、周吉郡・隠地郡・海部郡・知夫郡の4郡からなり、国府は周吉郡（現在の西郷町下西）と推定されている。

参考文献
森　浩一企画　前島己基著『日本の古代遺跡20　島根』
保育社 1985
島根県教育委員会・朝日新聞社 『古代出雲文化展-神々の国 悠久の遺産-』1997

岡山県

弥生時代

弥生時代の吉備国は、楯築遺跡（倉敷市）で確認された末期の墳丘墓など、大規模な墳丘墓が多く作られている。

王墓山遺跡群（倉敷市）においては古墳発生前後の墳墓及び古墳群が形成されるなど、古墳時代へと続く首長墓の系譜が見られる。

また、この地方は「真金吹く吉備」と呼ばれ、北部地域で鉄生産が行われ、他の地域に対し独自の文化圏を形成していた。

古墳時代

弥生時代からの大きな勢力が古墳時代に入り、大規模な古墳の造営へと向かっていく。

5世紀には全国第4位の規模を誇る造山古墳（岡山市）、第9位の作山古墳（総社市）などの大型前方後円墳を造営し、畿内に対する吉備文化が花開いた時期でもあった。

しかし、5世紀後半には畿内勢力に取り込まれ、その後の国造・屯倉・部民などの各制度を受け入れるに至り完全に中央集権体勢に組み入れられた。

古　代

7世紀末に吉備国は備前・備中・備後（現：広島県東部）の3国に分けられ、さらに和銅6年（713）に備前の北部6郡が美作国として分立する。

備前国は、和気郡・磐梨郡・邑久郡・赤坂郡・上道郡・御野郡・津高郡・児島郡の8郡からなり、上道（現在の岡山市高島）に国府が置かれた。

備中国は、都宇郡・窪屋郡・賀夜郡・下道郡・浅口郡・小田郡・後月郡・哲多郡・英賀郡からなり、国府は賀夜（現在の総社市金井戸）に置かれた。

美作国は、備前北部の英多郡・勝田郡・苫田郡・久米郡・大庭郡・眞島郡を分割して成立したが、美作国成立後苫田郡が苫東・苫西に分割され7郡となり、国府は苫東（現在の津山市総社付近）に置かれた。

参考文献
新全国歴史散歩シリーズ33『新版 岡山県の歴史散歩』
岡山県高等学校教育研究会社会科部会 山川出版社 1991
森　浩一企画　著『日本の古代遺跡20　島根』保育社 1985

山口県

弥生時代

弥生時代、大陸文化の影響を強く受けた地域である山口県下において、最大規模をほこる集団墓である土井ヶ浜遺跡や、後期から古墳時代まで墳墓群が継続して営まれた朝田墳墓群などがある。

古墳時代

山口県地方では、『国造本記』によると大島・周防・都怒・穴門・阿武に国造がいたとされ、律令制以前の地方有力豪族の分布を読み取ることができる。

県下で、前期古墳として宮ノ洲古墳（下松市）、京都府椿井大塚山古墳から出土している三角縁四神四獣鏡の同笵鏡を出土している竹島御家老屋敷古墳（新南陽市）、長光寺山古墳（厚狭郡山陽町）などが見られ、早い段階での大和政権との結び付きが想定される。

中期には、県内最大の前方後円墳と言われる全長110mの白鳥古墳（熊毛郡平生町）、綾羅木遺跡内に位置する若宮古墳（下関市）がある。

さらに、後期では横穴式石室を持つ小規模な円

墳が多数出現するが、依然として前方後円墳も一部では見られる。横穴墓の様相としては、弥生時代後期後半から古墳時代後期まで連綿と続き、墓制変化を辿ることの出来る朝田古墳群（山口市）において墳丘（後背丘）を持つ横穴墓が確認されている。

古　代

山口県域は、周防（周芳）と長門（穴門）の2国が置かれた。

周防国は、大島郡・玖珂郡・熊毛郡・都濃郡・佐波郡・吉敷郡の6郡からなり国府は、佐波郡（現在の防府市）に置かれた。

また長門国は、厚狭郡・豊浦郡・美禰郡・大津郡・阿武郡の5郡からなり国府は、豊浦郡（現在の下関市長府）に置かれた。

また、熊毛郡（現 熊毛郡大和町）には朝鮮式山城の一種と言われる城山神籠石が築かれている。

このような中で、この地方は古墳時代から、古代にかけて前方後円墳の築造や神籠石など畿内の影響を強く感じさせられる地域である。

参考文献
森　浩一企画　小野忠熙著『日本の古代遺跡30　山口』
保育社 1986

香川県

弥生時代

瀬戸内海に面し、長い海岸線を有する香川県は、全国的にも古くから製塩遺跡が多く確認されている地域の一つである。

この地域では、農耕社会の祭祀に使用された祭器である、銅鐸が数多く出土している。代表的なものとして「臼と杵を使った脱穀風景」が描かれた、大橋家旧蔵（伝讃岐出土）銅鐸がある。

また、弥生時代中期末の遺跡である、紫雲出山遺跡は高地性集落研究で学史的に重要な遺跡として知られている。

古墳時代

高松市周辺は安山岩の板石、塊石を積み上げて墳丘を作る「積石塚」が数多く作られている地域である。

岩清尾山古墳群は、高松市を望む丘陵上に位置し、双方中円墳2基、前方後円墳9基、方墳1基、円墳10基以上の多様な墳丘が見られる。

また、観音寺市の丸山古墳では、九州産石材を使用した舟形石棺が確認されており、また四国で唯一装飾古墳が確認されている地域である。

古　代

香川県は、律令制区分によると、大内郡・寒川郡・三木郡・山田郡・香川郡・阿野郡・鵜足郡・那珂郡・多度郡・三野郡・刈田郡の11郡からなり、讃岐国府は阿野郡（現在の坂出市府中町）に置かれた。

装飾古墳エッセイ2　落書きしないで！　―落書きの歴史―

今回の中国地方の装飾古墳だけでなく、全国各地に残されている古墳にも言えることだが、古くから開口している古墳にはさまざまな後世の落書きが見られます。

落書きに多く書かれる内容は、①日付け、②自分の名前、③当時の流行がベスト3です。落書きがはっきりとわかりやすく書いてあれば装飾文様かどうか確認できるが、恥ずかしいのか後ろめたいのか、古墳時代の人々の文様と紛らわしい線が多いようです。下の写真は、鳥取県倉吉市の上神古墳群48号墳石室の奥壁です。「1972年 ☺」この当時流行していたのでしょう。

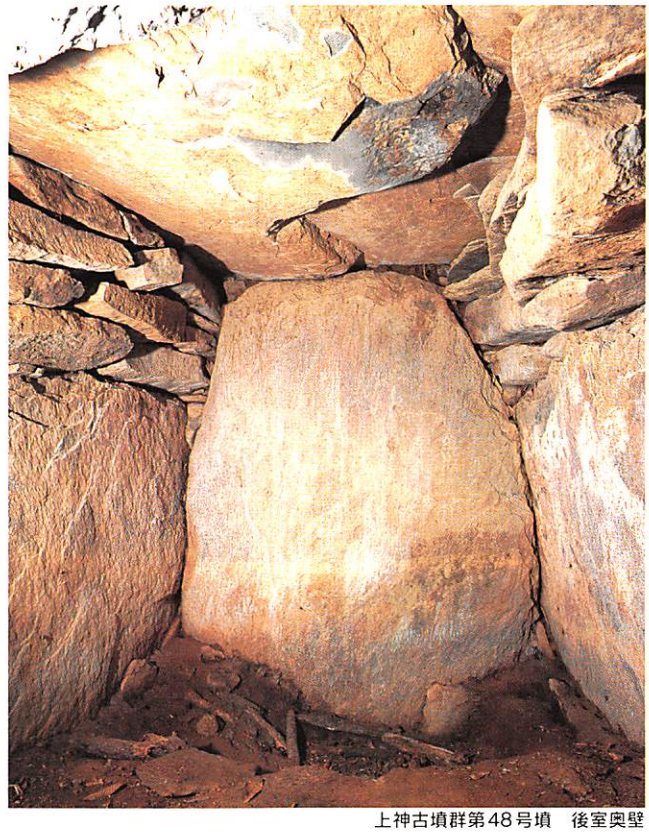
落書きする人々は、見学に来た記念に、自分の存在の証にと暗い石室内で一生懸命描いていたのでしょう。

落書きは、最近に限ったことではなく江戸時代の人々も数多く残しています。鳥取県鳥取市に所在する坊ヶ塚古墳には「天明五年　広岡村…」と年号を伴い、恐らく住所・氏名まで書いていたであろう記録が壁面に残されています。

落書きは、線刻画を主体とする装飾古墳にとっては致命傷となる場合が多く、その信憑性に関わり、地域の歴史を不明確にすることだけは確かです。

各地で、数多く見られる落書きは現代に続いて江戸時代のものが多く見られ、それ以前の時代の落書きはあまり見つかっていません。

九州でも多く見られる江戸時代後期に属する年号入りの落書きが、なぜ急に増加するのか気になります。



上神古墳群第48号墳　後室奥壁

装飾古墳一覧 目次

鳥取県

1 高江古墳群第6号墳 …… 22
2 上野古墳群第6号墳 …… 22
3 美歎古墳群第41号墳 …… 22
4 美歎古墳群第43号墳 …… 23
5 宮下古墳群第19号墳 …… 23
6 宮下古墳群第20号墳 …… 23
7 宮下古墳群第22号墳 …… 23
8 宮下古墳群第52号墳 …… 23
9 町屋古墳群鷲山古墳 …… 24
10 町屋古墳群第30号墳 …… 27
11 栃本古墳群第4号墳 …… 27
12 畑山古墳群第1号墳 …… 27
13 梶山古墳 …… 27
14 広岡古墳群坊ヶ塚古墳 …… 28
15 広岡古墳群第37号墳 …… 30
16 広岡古墳群第48号墳 …… 30
17 越路古墳群第54号墳 …… 31
18 空山古墳群第2号墳 …… 31
19 空山古墳群第10号墳 …… 32
20 空山古墳群第15号墳 …… 34
21 空山古墳群第16号墳 …… 35
22 宇部野山古墳群第13号墳 …… 36
23 宇部野山古墳群第15号墳 …… 36
24 大平古墳群第1号墳 …… 36
25 米岡古墳群第2号墳 …… 36
26 米岡古墳群第58号墳 …… 38
27 米岡古墳群第68号墳 …… 38
28 池田古墳群第29号墳 …… 38
29 福本古墳群第4号墳 …… 38
30 福本古墳群大塚古墳 …… 38
31 八束水古墳群第55号墳 …… 38
32 土居古墳群第5号墳 …… 38
33 山宮古墳群第14号墳 …… 38
34 睦逢古墳群第11号墳 …… 39
35 殿古墳群第15号墳 …… 40
36 殿古墳群第25号墳 …… 41
37 漆谷横穴墓 …… 42
38 西中園古墳群第8号墳 …… 44
39 阿古山古墳群第22号墳 …… 44
40 吉川古墳群第43号墳 …… 46
41 向山古墳群三明寺古墳 …… 47
42 大平山古墳群福庭古墳 …… 48
43 上神古墳群第48号墳 …… 50
44 横手古墳群第5号墳 …… 52
45 長和田古墳群第20号墳 …… 52
46 久見古墳群第17号墳 …… 53
47 北福古墳群第4号墳 …… 53
48 西穂波古墳群第9号墳 …… 54
49 西穂波古墳群第27号墳 …… 54
50 土下古墳群第229号墳 …… 54
51 福岡古墳群天神垣神社古墳 …… 55
52 福岡古墳群向山第4号墳 …… 55

島根県

53 丹花庵古墳 …… 56
54 十王免横穴墓群第1号墓 …… 57
55 十王免横穴墓群第2号墓 …… 57
56 十王免横穴墓群第7号墓 …… 57
57 深田谷横穴墓群第1号墓 …… 57
58 穴神横穴墓群第1号墓 …… 59
59 浜ノ崎遺跡第2号横穴墓 …… 60
60 飯ノ山横穴墓群 …… 61

岡山県

61 造山古墳群千足古墳 …… 62
62 鶴丸丸山古墳 …… 62

山口県

63 穴観音古墳 …… 62

香川県

64 有岡古墳群宮が尾古墳 …… 63
65 有岡古墳群宮が尾第2号墳 …… 65
66 有岡古墳群瓦谷第1号墳 …… 66
67 岡古墳群第5号墳 …… 67
68 岡古墳群第6号墳 …… 69
69 岡古墳群第10号墳 …… 70
70 岡古墳群第11号墳 …… 71
71 岡古墳群第13号墳 …… 73
72 岡古墳群夫婦岩第1号墳 …… 74
73 鷲の口古墳群第1号墳 …… 76
74 山ノ神古墳群綾織塚古墳 …… 77
75 山ノ神古墳群第2号墳 …… 78
76 揚原山古墳 …… 78
77 醍醐古墳群号数不明 …… 78
78 興昌寺山古墳群第1号墳 …… 78

第3章　各地域の装飾古墳

凡例

1.古墳名は各報告書、研究書、解説書などによりさまざまな表記がある。本書では、古墳を古墳群の中の一古墳として捉えるため古墳群名と古墳名を並列して表記することにした。

2.各古墳の詳細については、既に出版されている文献を基に編集し、不明な部分は当該教育委員会文化財担当者のご教示を受けた部分がある。

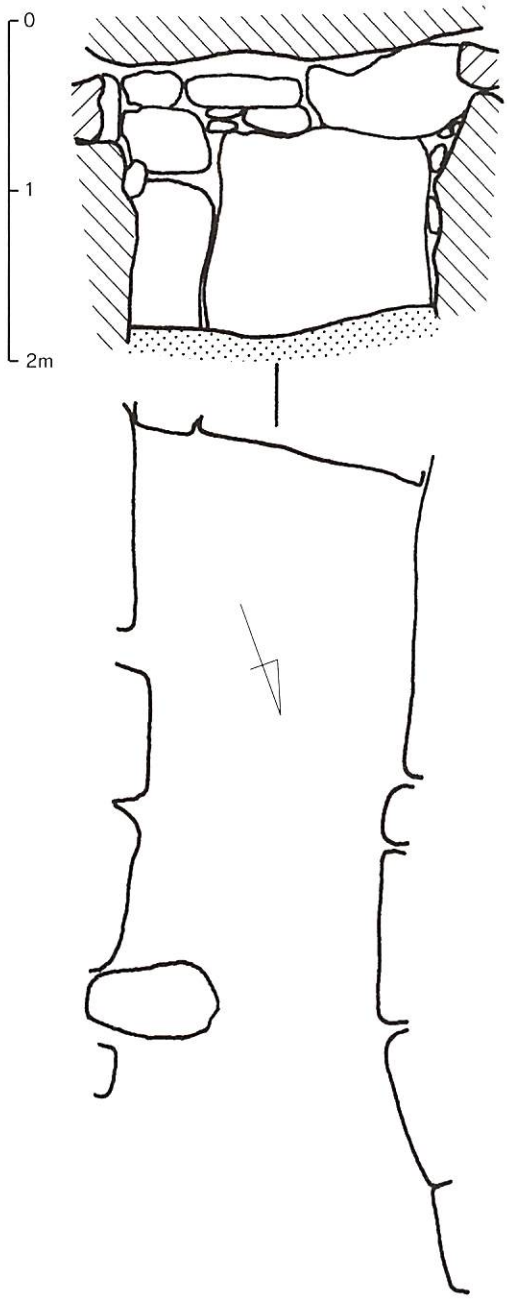
3.本書中に掲載している装飾古墳の写真は、その古墳の装飾文様の特徴あるものを選び掲載している。今回撮影した中には、掲載したもの以外にも撮影したカットがある。

4.なお、参考文献は巻末に掲載しているので参考にされたい。

1. 高江（たかえ）古墳群第6号墳

岩美郡福部村大字高江

■墳丘　円墳（直径約12.3m）
■装飾・位置　後室（奥壁）
■手法　線刻
■文様　動物ほか
■出土遺物　不明
■その他　羨道部埋没・石室露出

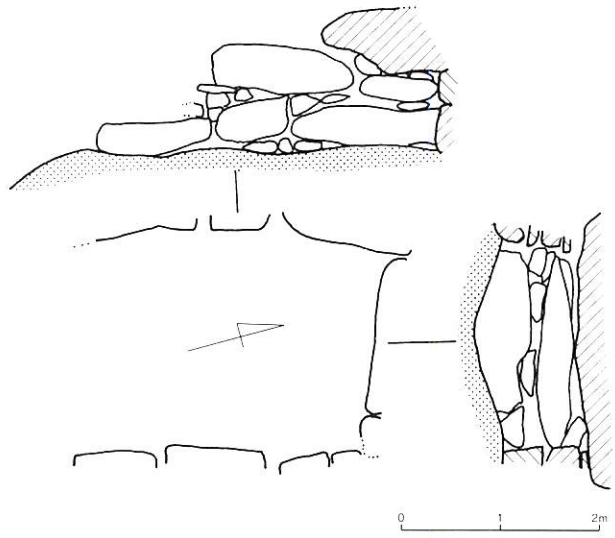


高江古墳群第6号墳石室実測図

2. 上野（うえの）古墳群第6号墳

岩美郡福部村大字左近

■墳丘　円墳（直径約10.0m）
■装飾・位置　後室（奥壁・右側壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他　羨道部崩壊

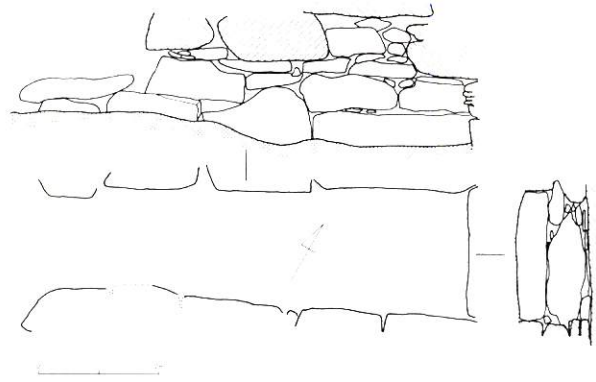


上野古墳群第6号墳石室実測図

3. 美歎（みたに）古墳群第41号墳

岩美郡国府町大字美歎

■墳丘　円墳（直径約16.0m）
■装飾・位置　後室（右側壁）
■手法　線刻
■文様　船・平行線
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没



美歎古墳群第41号墳石室実測図

4. 美歎古墳群第43号墳
岩美郡国府町大字美歎

■墳丘　前方後円墳（全長約22.5m）
■装飾・位置　後室（奥壁・右側壁）
■手法　線刻
■文様　船・魚・三角文
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没

5. 宮下古墳群第19号墳
岩美郡国府町大字宮下

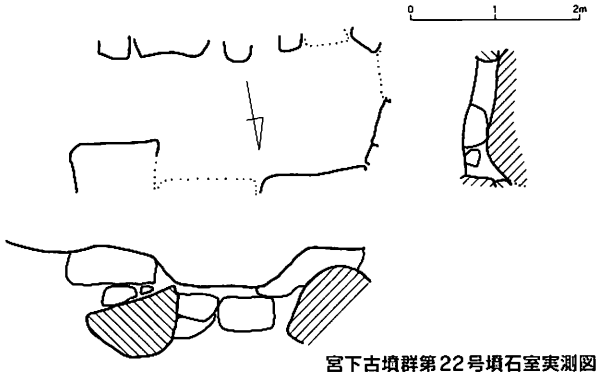
■墳丘　円墳（直径約22.5m）
■装飾・位置　後室（奥壁・左側壁・天井）
■手法　線刻
■文様　格子文・木の葉文
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没

6. 宮下古墳群第20号墳
岩美郡国府町大字宮下

■墳丘　円墳
■装飾・位置　後室（奥壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没

7. 宮下古墳群第22号墳
岩美郡国府町大字宮下

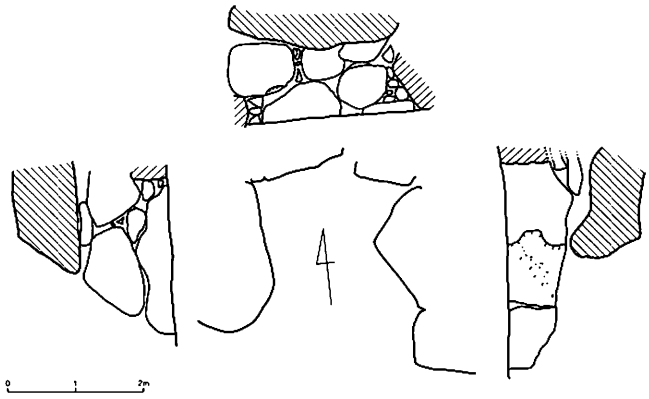
■墳丘　円墳（直径約12.0m）
■装飾・位置　羨道部（右側壁・天井）、後室（右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　船
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没



宮下古墳群第22号墳石室実測図

8. 宮下古墳群第52号墳
岩美郡国府町大字宮下

■墳丘　不明
■装飾・位置　後室（右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　鳥
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没



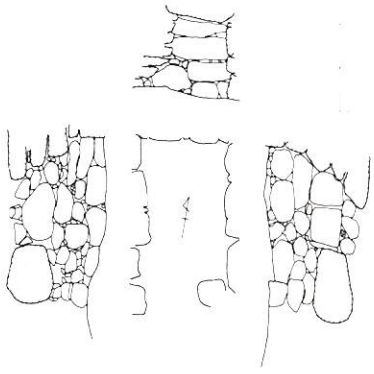
宮下古墳群第52号墳石室実測図

鳥取県

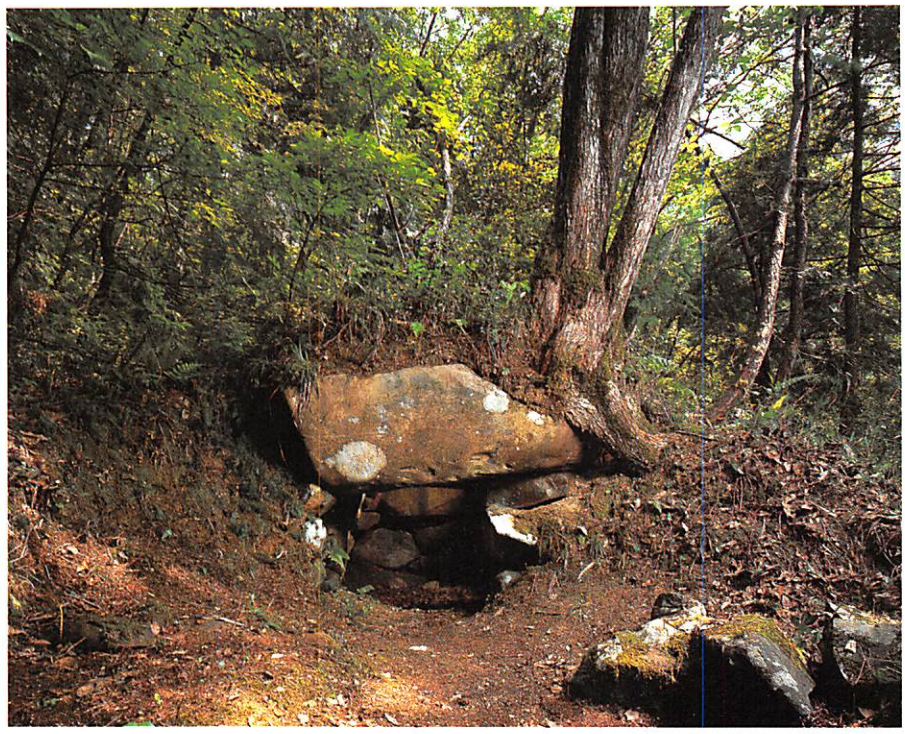
9. 町屋古墳群鷺山古墳【県指定史跡】

岩美郡国府町大字町屋

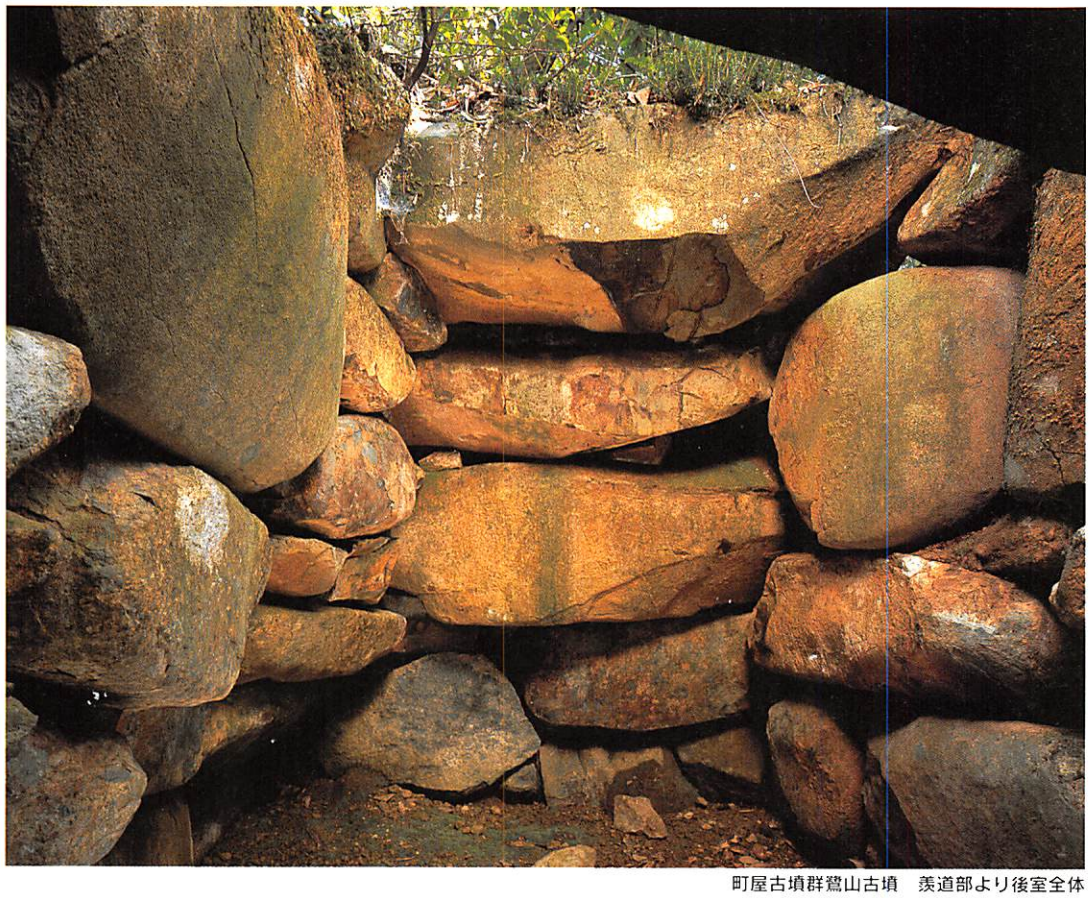
■墳丘　円墳（直径約10.0m）
■装飾・位置　羨道部（左側壁）
　後室（奥壁・右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　船・魚・鳥
■出土遺物　須恵器
■その他　天井石一部抜き取り



町屋古墳群鷺山古墳石室実測図

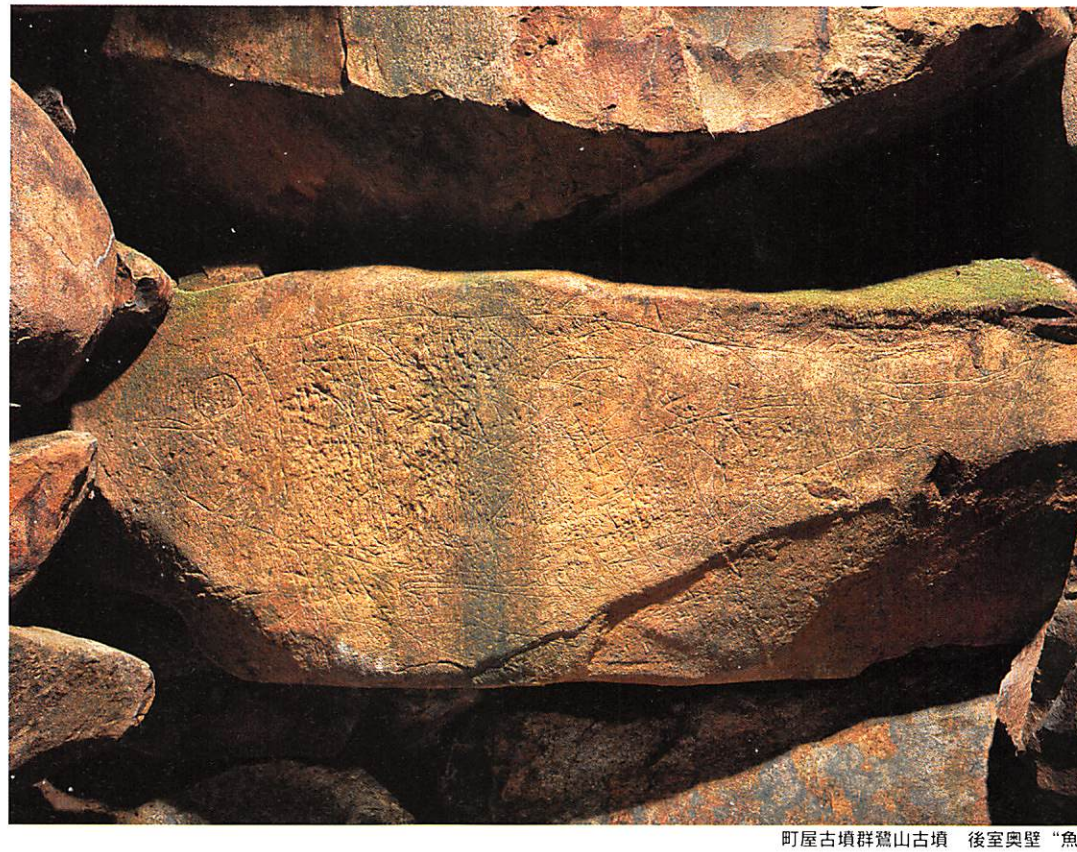


町屋古墳群鷺山古墳　墳丘全景



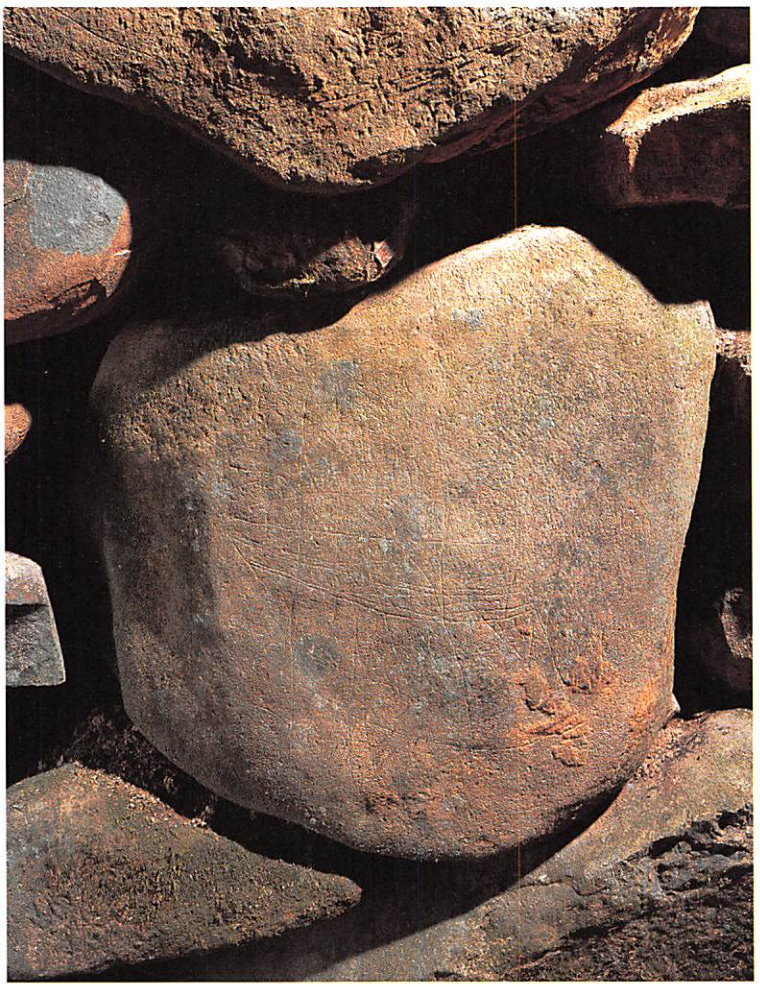
町屋古墳群鷺山古墳　羨道部より後室全体

町屋古墳群鵞山古墳　線刻“鳥”

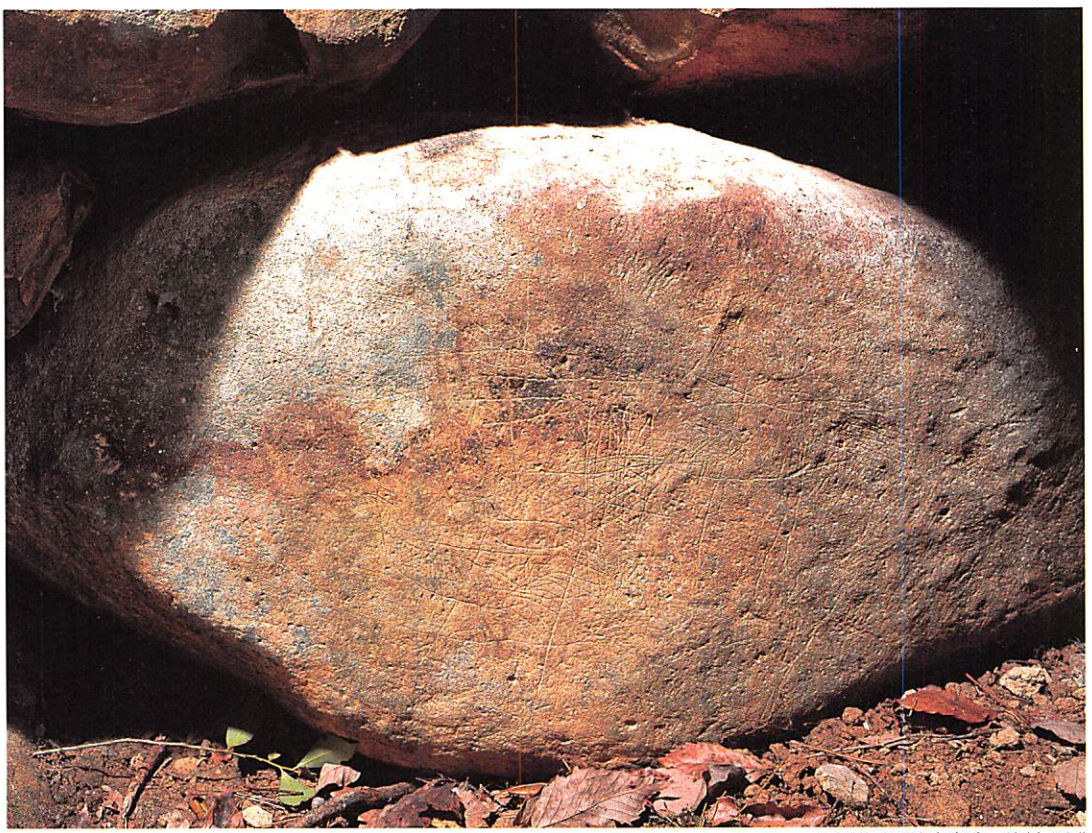


町屋古墳群鵞山古墳　後室奥壁“魚”

鳥取県



町屋古墳群鷲山古墳　線刻“船”

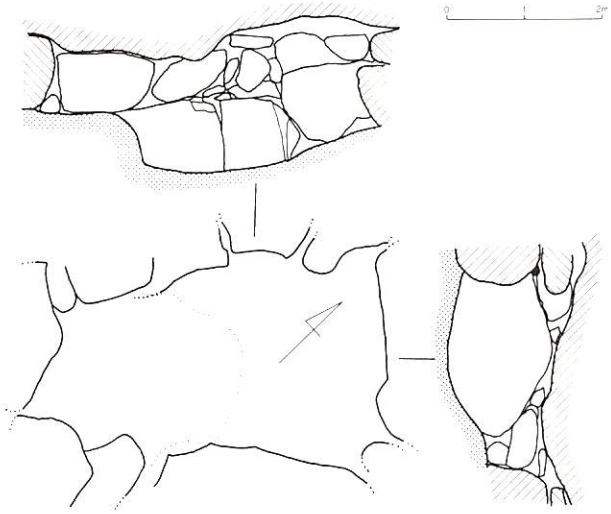


町屋古墳群鷲山古墳　線刻“鳥”

10.町屋古墳群第30号墳

岩美郡国府町大字町屋

■墳丘　方墳（約15.7m×20.0m）
■装飾・位置　後室（右側壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没

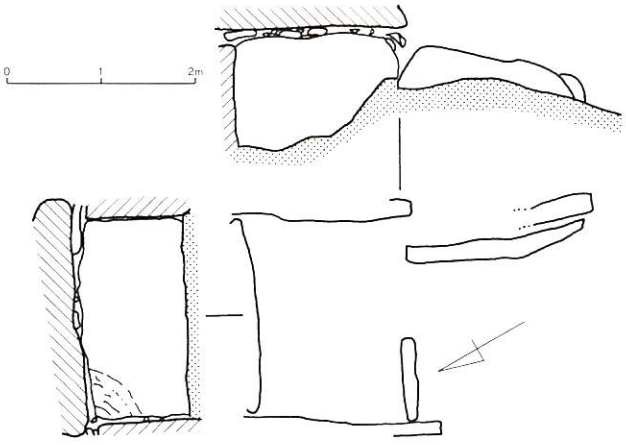


町屋古墳群第30号墳石室実測図

11.栃本（とちもと）古墳群第4号墳

岩美郡国府町大字栃本

■墳丘　不明
■装飾・位置　後室（左側壁）
■手法　線刻
■文様　船
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没



栃本古墳群第4号墳石室実測図

12.畑山古墳群第1号墳

岩美郡国府町大字神垣

■墳丘　円墳（直径約17.0m）
■装飾・位置　後室（右側壁・天井）
■手法　線刻
■文様　人物
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没

13.梶山（かじやま）古墳【国指定史跡】

岩美郡国府町大字岡益字梶山ノ上

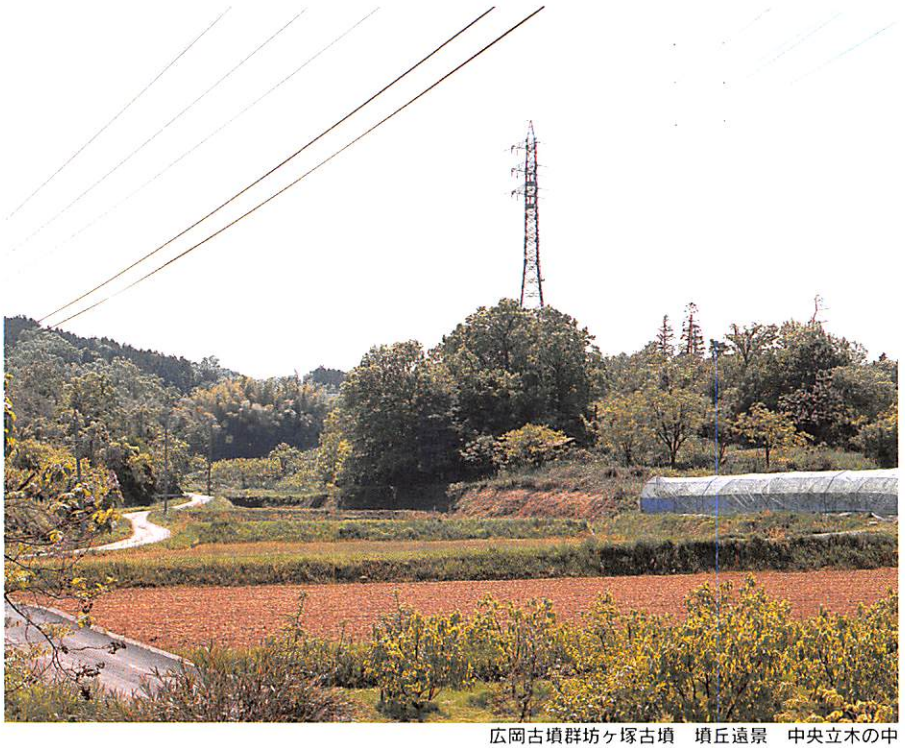
■墳丘　円墳（直径約20.0m）切石式
■装飾・位置　後室（奥壁）
■手法　彩色（赤）
■文様　同心円文・三角文・曲線・魚
■出土遺物　須恵器・土師器・鉄製品・棺飾金具等
■その他　第二酸化鉄で彩色か？

現在の梶山古墳　墳丘整備後

14.広岡古墳群坊ヶ塚古墳【県指定史跡】

鳥取市大字広岡

■墳丘　円墳（直径約13.0m）
■装飾・位置　羨道部（右側壁）
　後室　（奥壁・右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様
　弓を引く武人・幾何学文様
■出土遺物　不明
■その他
　後室右側壁に「□□廣岡村人
　時　天明五年」の落書き有り



広岡古墳群坊ヶ塚古墳　墳丘遠景　中央立木の中

広岡古墳群坊ヶ塚古墳　墳丘全体

広岡古墳群坊ヶ塚古墳　羨道部より後室全体

広岡古墳群坊ヶ塚古墳　羨道部右側壁“弓を引く人物”

鳥取県

15.広岡古墳群第37号墳

鳥取市大字広岡

■墳丘　円墳（直径約16.0m）
■装飾・位置　後室（左側壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没

16.広岡古墳群第48号墳

鳥取市大字越路

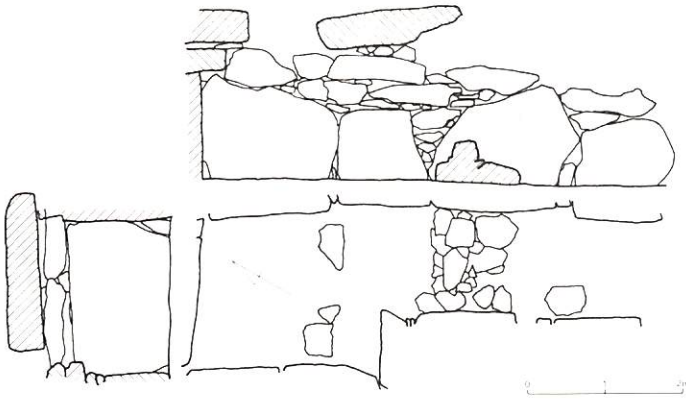
■墳丘　円墳
■装飾・位置　墳丘裾部列石
■手法　線刻
■文様　斜格子文
■出土遺物　不明
■その他　消滅　装飾石材のみ鳥取市教育福祉振興会埋蔵文化財調査センターに保管

広岡古墳群第48号墳　墳丘列石装飾石材

17.越路古墳群第54号墳

鳥取市大字久末

■墳丘　不明
■装飾・位置　後室（奥壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　格子文
■出土遺物　不明
■その他　側壁2枚のみ残存



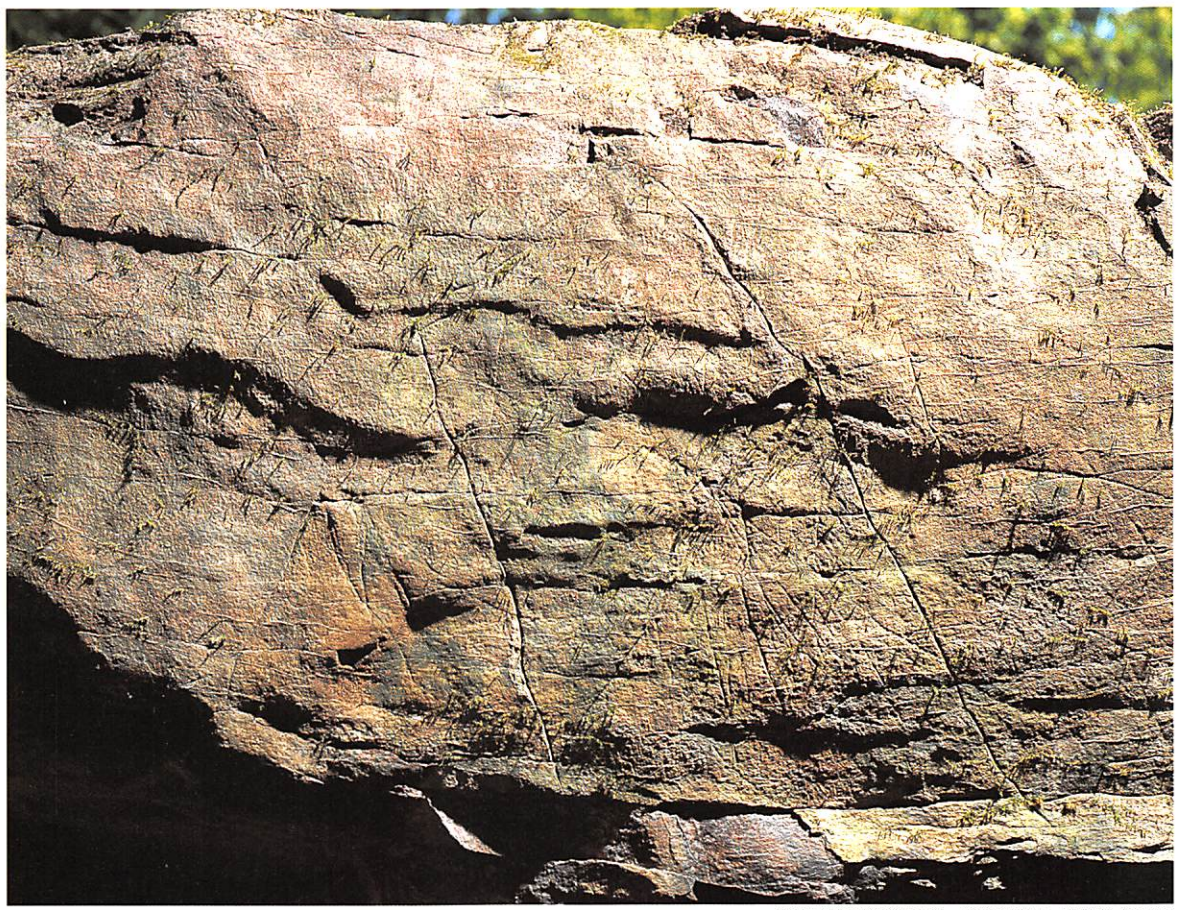
空山古墳群第2号墳石室実測図

18.空山（そらやま）古墳群第2号墳

【県指定史跡】7世紀初頭

鳥取市大字久末

■墳丘　円墳（中高天井式石室）
■装飾・位置　羨道部（左側壁）
後室（右側壁・左側壁・天井石側面）
■手法　線刻
■文様　連続三角文・綾杉文・鳥
■出土遺物
須恵器（杯・蓋・長頸壺・短頸壺・横瓶・椀）・土師器（高杯）・金環
■その他　鳥取県内の線刻画研究の契機となった古墳群



空山古墳群第2号墳　後室天井石“連続三角文”

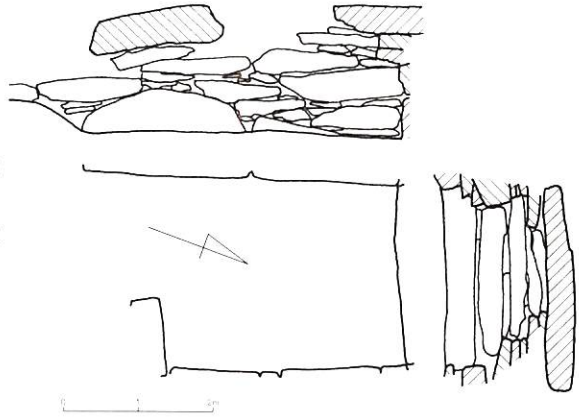
鳥取県

19.空山古墳群第10号墳

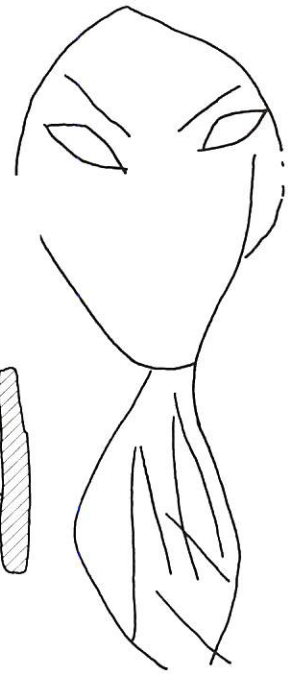
【県指定史跡】古墳時代終末期

鳥取市大字久末

■墳丘　円墳（直径約12.5m）
■装飾・位置　羨道部
　後室（右側壁・左側壁・袖石上部）
■手法　線刻
■文様　直線・四角・綾杉文
　木の葉文・鳥・人物（太刀を帯びる武人）
■出土遺物　不明
■その他　鳥取県内の線刻画研究の契機となった古墳群



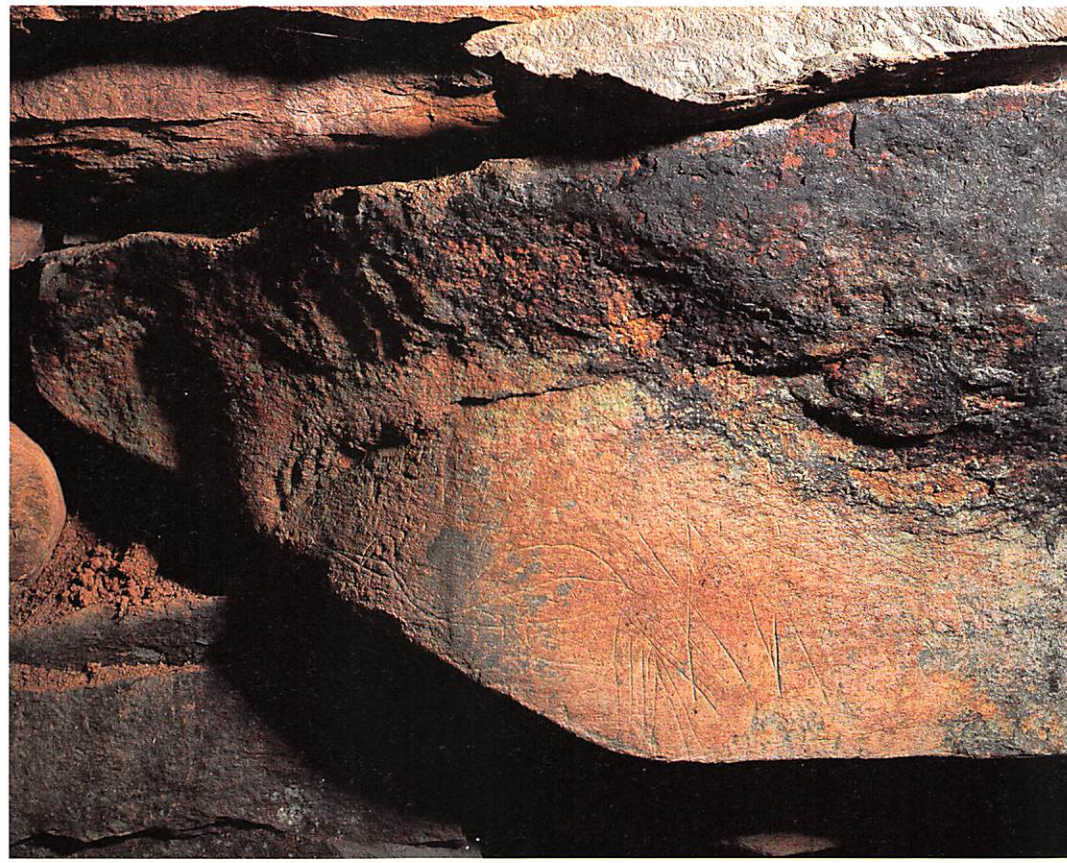
空山古墳群第10号墳石室実測図



空山古墳群第10号墳　右側壁“人物像”

空山古墳群第10号墳　石室露出状況

空山古墳群第10号墳　後室右側壁“太刀を帯びる人物（左）・顔だけ大きく描いた人物（右）”



空山古墳群第10号墳　後室左側壁“鳥”

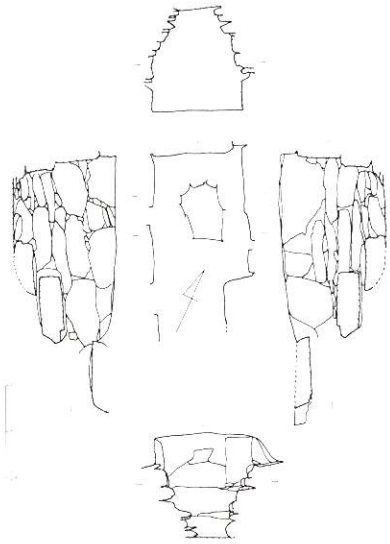
鳥取県

20.空山古墳群第15号墳

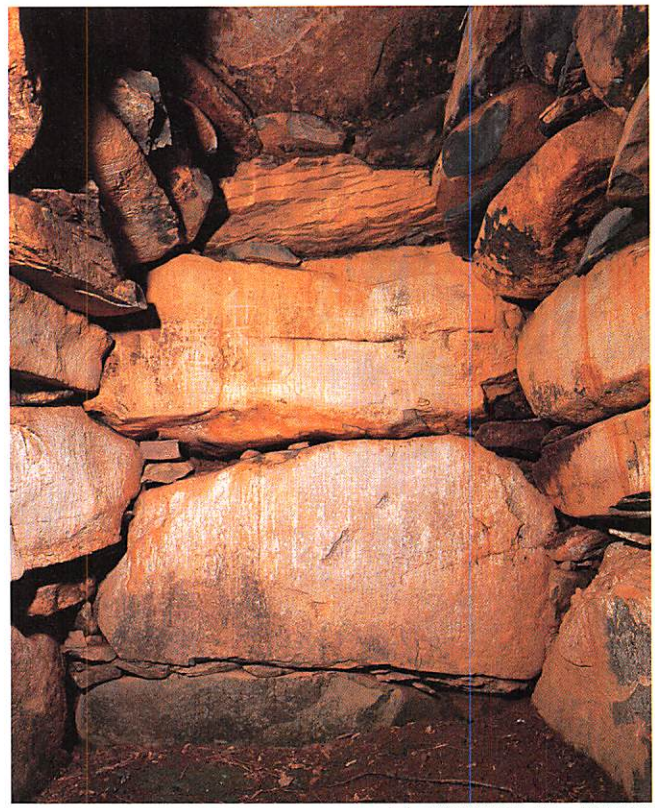
【県指定史跡】古墳時代終末期

鳥取市大字久末

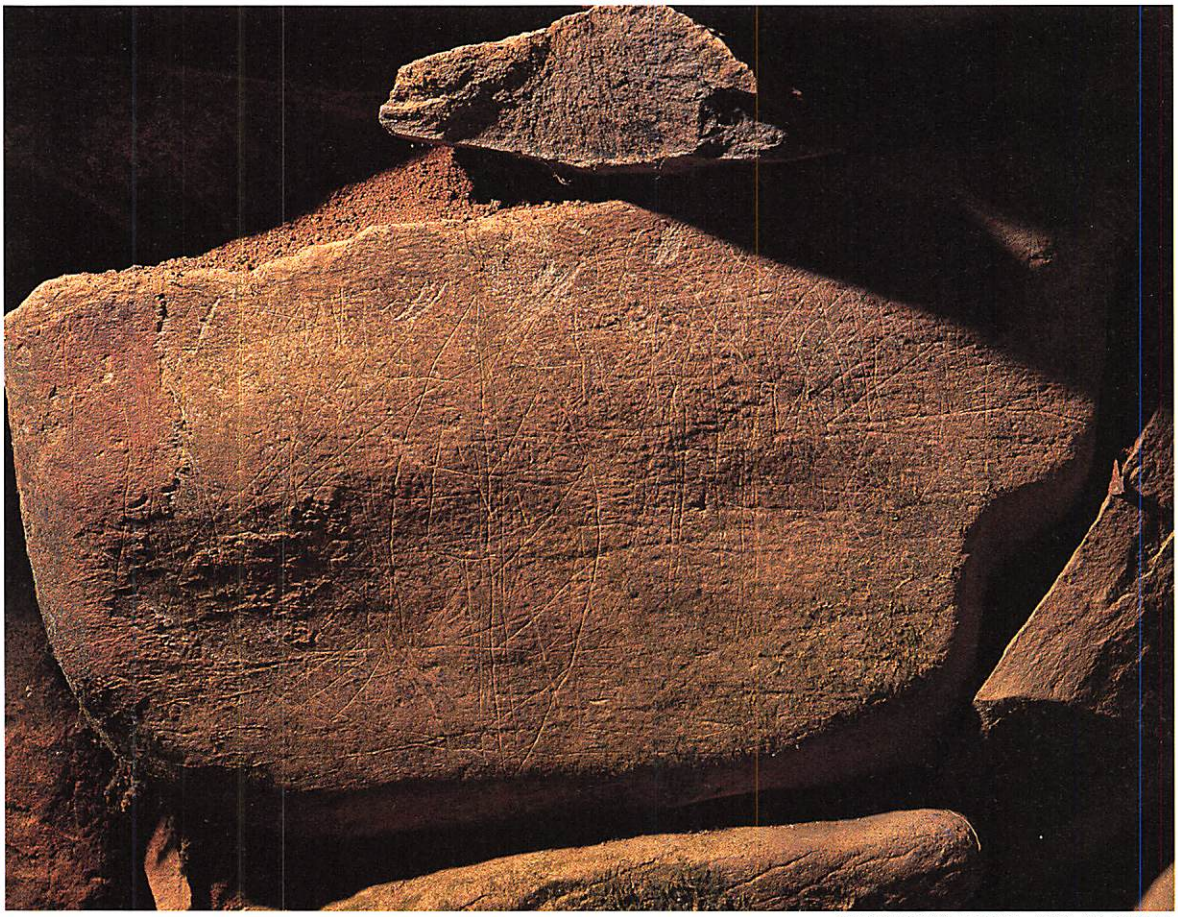
■墳丘　円墳（直径約12.0m）
■装飾・位置　後室（奥壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　直線・梯子状文・木の葉文
　魚・綾杉文・星形
■出土遺物　不明
■その他



空山古墳群第15号墳石室実測図



空山古墳群第15号墳　後室奥壁



空山古墳群第15号墳　線刻“木の葉文”

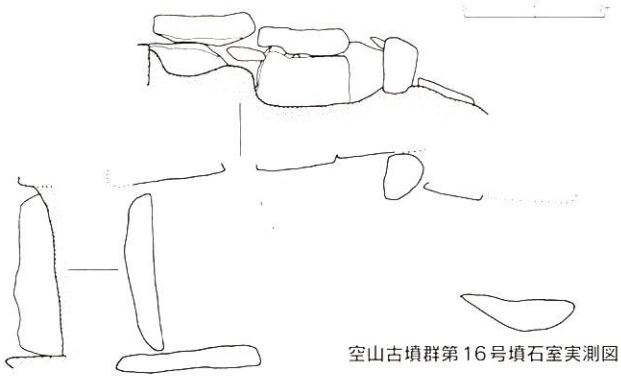
21.空山古墳群第16号墳

【県指定史跡】古墳時代終末期

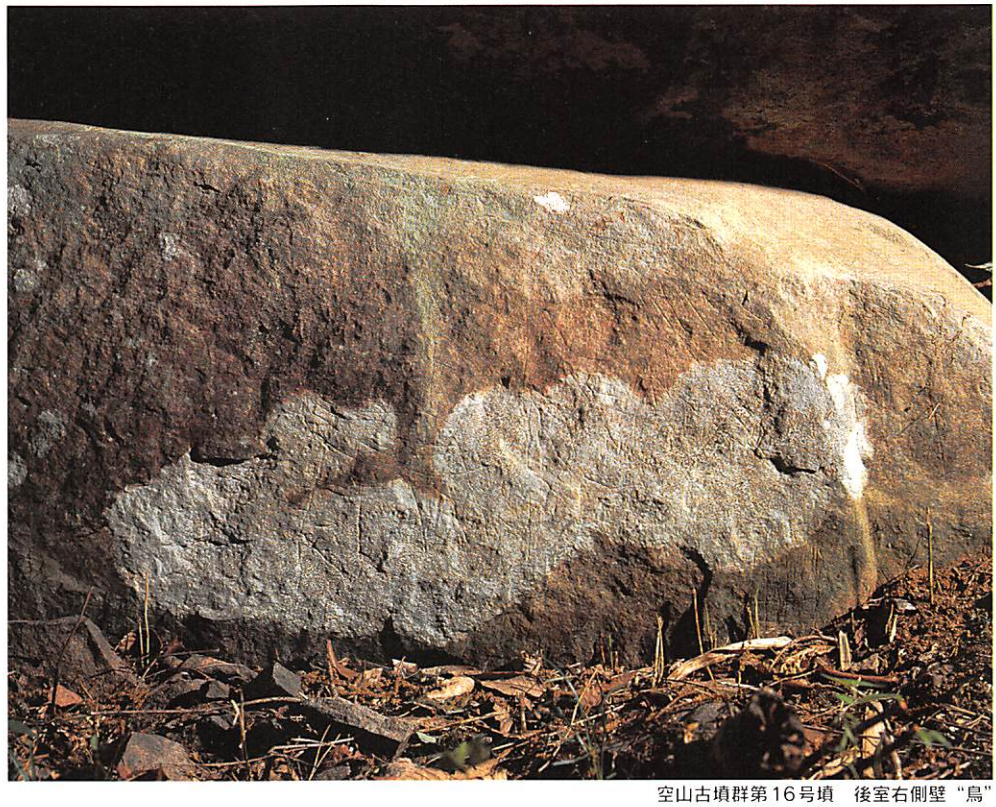
鳥取市大字久末

■墳丘　円墳（直径約15.0m）
■装飾・位置
後室（奥壁・右側壁石材の上面・右側壁腰石）
■手法　線刻
■文様　船・鳥・平行線・格子文・斜格子文
■出土遺物　不明
■その他　石材の上面、いわゆる上部の石を積み上げる以前でないと描けない場所にノミ状の工具を用い線刻を描いている

空山古墳群第16号墳　石室露出状況



空山古墳群第16号墳石室実測図



空山古墳群第16号墳　後室右側壁“鳥”

鳥取県

22.宇部野山古墳群第13号墳

鳥取市大字滝山

■墳丘　円墳（直径15.8m）
■装飾・位置　羨道部（右側壁）、後室（右側壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他　別名：スクモ塚古墳

23.宇部野山古墳群第15号墳

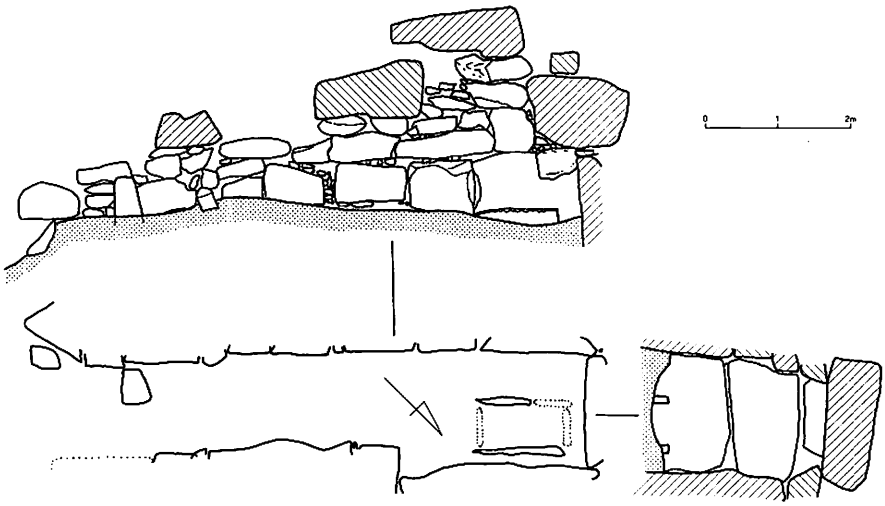
鳥取市大字滝山

■墳丘　円墳（直径15.0m）
■装飾・位置　後室（右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他　羨道部埋没

24.大平古墳群第1号墳

八頭郡河原町大字佐貫

■墳丘　円墳（規模不明）
■装飾・位置　羨道部
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他

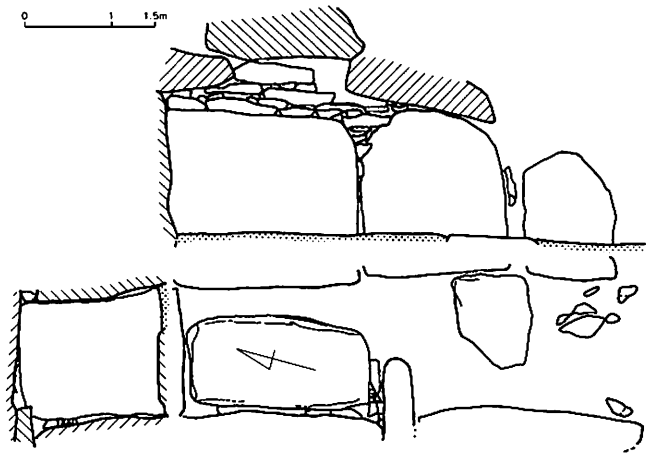


大平古墳群第1号墳石室実測図（中高天井式石室）

25.米岡古墳群第2号墳

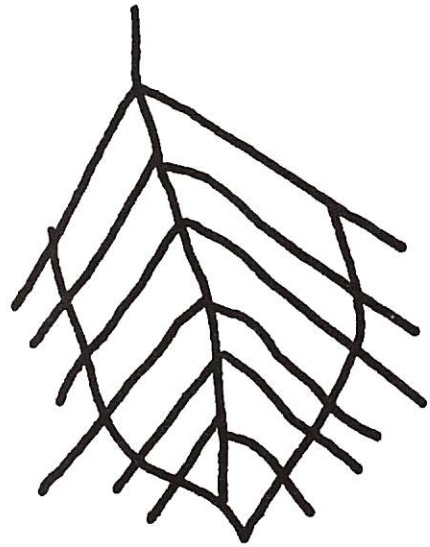
八頭郡郡家町大字米岡

■墳丘　円墳（規模不明）
■装飾・位置　後室（右側壁・左側壁・天井部）
■手法　線刻
■文様　綾杉文・格子文・人物
■出土遺物　須恵器・土師器・鉄製品
■その他　旧名称：米岡1号墳

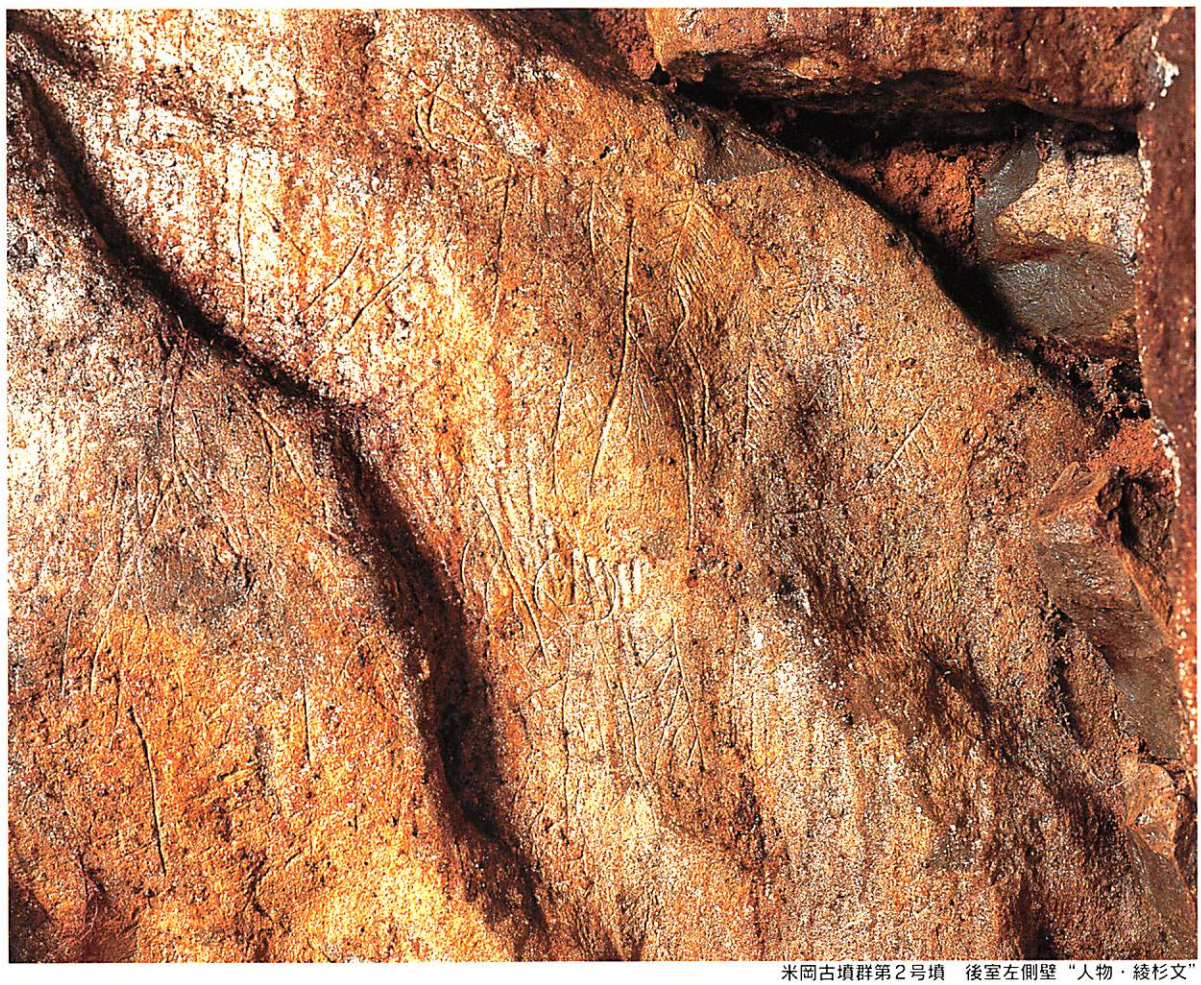


米岡古墳群第2号墳石室実測図（扁平板石組石室）

米岡古墳群第２号墳　石室全景



米岡古墳群第２号墳　“綾杉文”



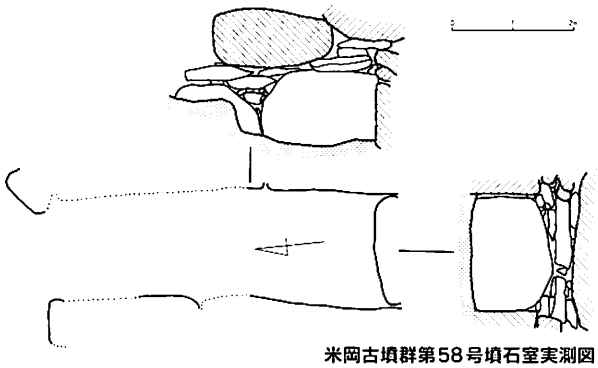
米岡古墳群第２号墳　後室左側壁“人物・綾杉文”

鳥取県

26.米岡古墳群第58号墳

八頭郡郡家町大字土師百井

■墳丘　円墳（直径約12.3m）
■装飾・位置　後室（奥壁・右側壁・左側壁・天井部）
■手法　線刻
■文様　格子文
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没



米岡古墳群第58号墳石室実測図

27.米岡古墳群第68号墳

八頭郡郡家町大字土師百井

■墳丘　不明
■装飾・位置　不明
■手法　線刻
■文様　格子文
■出土遺物　不明
■その他　石室倒壊

28.池田古墳群第29号墳

八頭郡郡家町大字池田

■墳丘　円墳（直径約13.0m）
■装飾・位置　後室（奥壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他　後室天井石落下

29.福本古墳群第4号墳

八頭郡郡家町大字福本

■墳丘　円墳（直径約12.0m）
■装飾・位置　後室（奥壁・右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　鳥・綾杉文・平行線・弓
■出土遺物　不明
■その他　羨道部埋没

30.福本古墳群大塚古墳

八頭郡郡家町大字福本

■墳丘　円墳（直径約18.0m）
■装飾・位置　不明
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他

31.八束水（やつかみ）古墳群第55号墳

気高郡気高町大字八束水

■墳丘　不明
■装飾・位置　不明
■手法　不明
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他　主体部埋没

32.土居（どい）古墳群第5号墳

気高郡気高町大字土居

■墳丘　円墳（直径約15.0m）
■装飾・位置　後室（奥壁・右側壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他　羨道部埋没

33.山宮古墳群第14号墳

気高郡気高町大字山宮字松ヶ谷

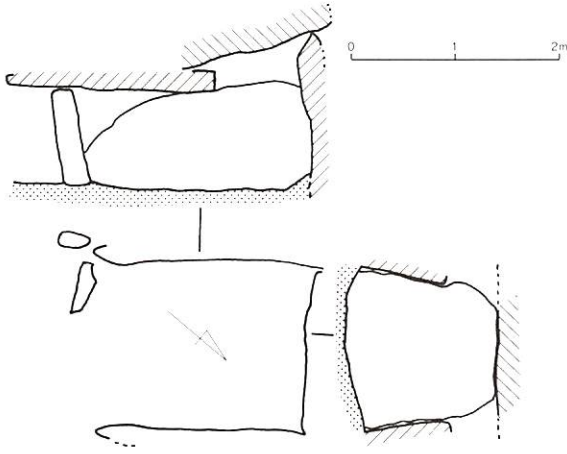
■墳丘　円墳（直径約10.0m）
■装飾・位置　左袖石
■手法　線刻
■文様　幾何学文
■出土遺物　須恵器
（杯蓋・杯身・短頸壺・横瓶・高杯）
■その他　本調査後、消滅

34.睦逢（むつお）古墳群第11号墳

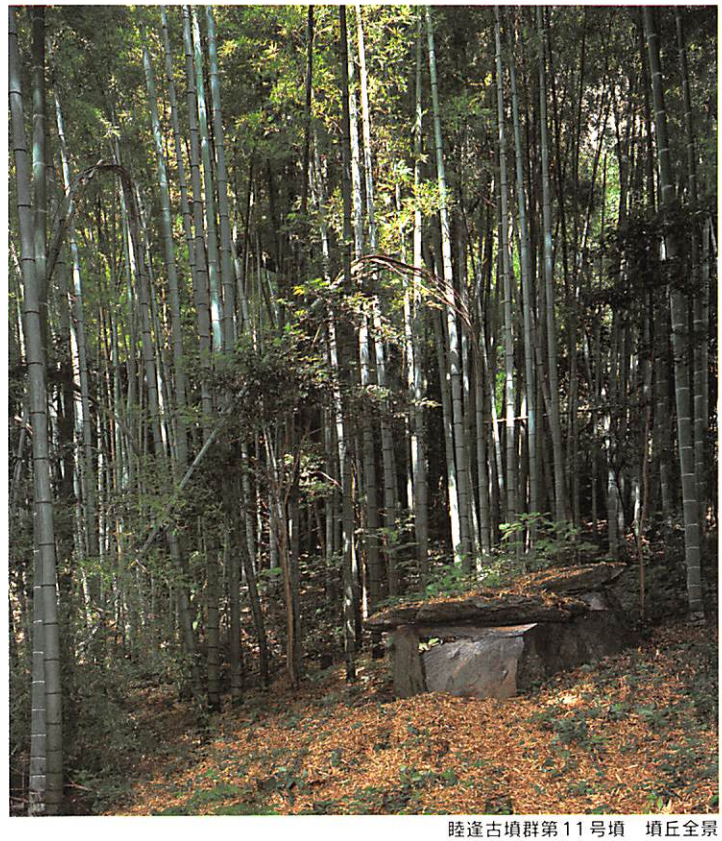
【町指定史跡】

気高郡気高町大字睦逢字大平

■墳丘　円墳
■装飾・位置　後室（左側壁）
■手法　線刻
■文様　鳥
■出土遺物　不明
■その他　石室露出



睦逢古墳群第11号墳石室実測図



睦逢古墳群第11号墳　墳丘全景

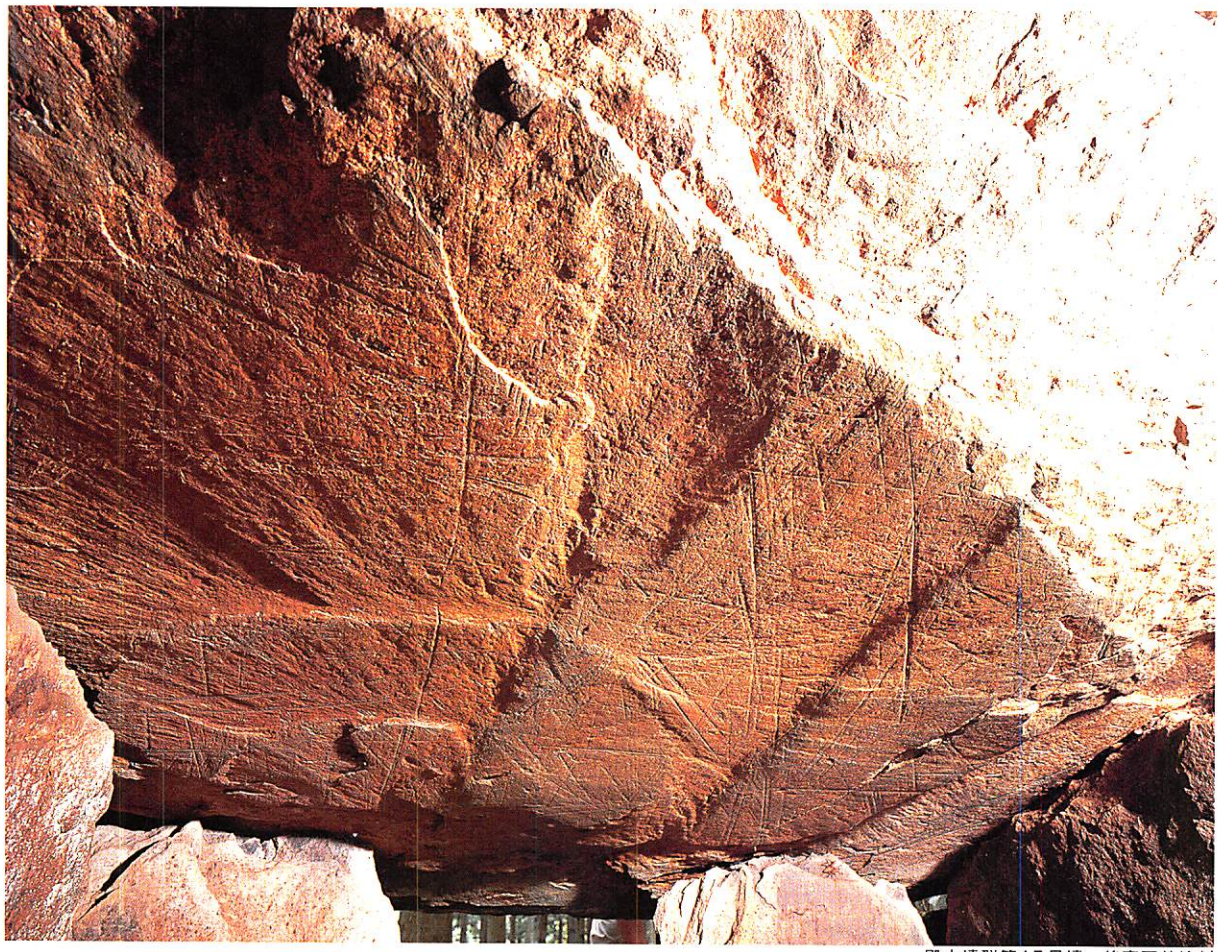
睦逢古墳群第11号墳　後室左側壁“鳥”

35.殿（との）古墳群第15号墳
【町指定史跡】

気高郡気高町大字殿字石谷

■墳丘　円墳
■装飾・位置　後室（天井）
■手法　線刻
■文様　格子文
■出土遺物　不明
■その他

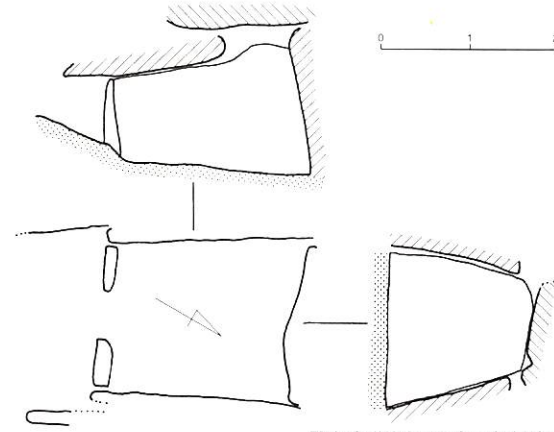
殿古墳群第15号墳　墳丘全景


殿古墳群第15号墳　後室天井線刻

36.殿古墳群第25号墳【町指定史跡】

気高郡気高町大字殿字石谷

■墳丘　不明
■装飾・位置　後室（左側壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他



殿古墳群第25号墳石室実測図

殿古墳群第25号墳　石室全景

37.漆谷横穴墓（基数不明）

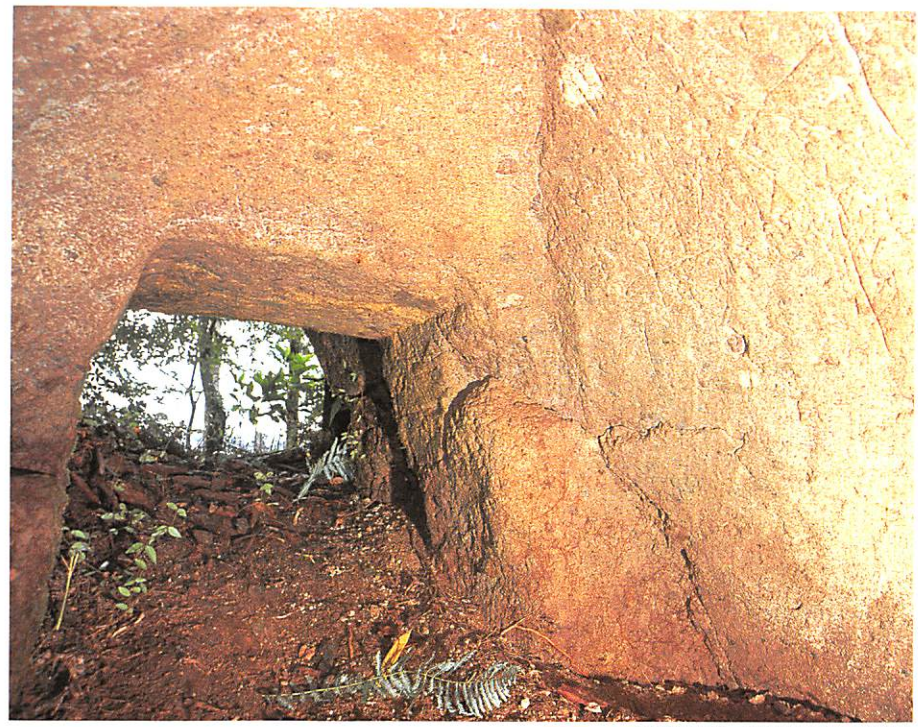
気高郡気高町大字重高

■装飾・位置　玄室
（奥壁・右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　綾杉文
■出土遺物　不明
■その他

漆谷横穴墓石室実測図

漆谷横穴墓　平野より遠景

漆谷横穴墓　横穴墓入口



漆谷横穴墓　玄室から入口を望む

漆谷横穴墓　玄室左側壁線刻“綾杉文”

鳥取県

38.西中園（にしなかその）古墳群第8号墳

気高郡鹿野町大字宮方

■墳丘　円墳（直径約12.0m）
■装飾・位置　後室（左側壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　須恵器・鉄製品（鎌・鏃・刀子・刀等）
■その他

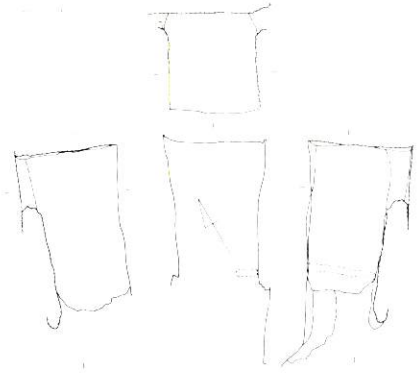
39.阿古山（あこやま）古墳群第22号墳

【県指定史跡】

気高郡青谷町大字青谷

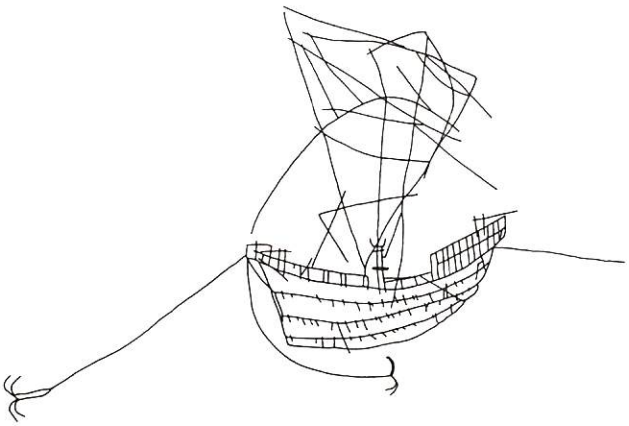
■墳丘　円墳　扁平板石組石室
■装飾・位置　後室（右側壁・左側壁）、天井石
■手法　線刻
■文様　船（4艘）
■出土遺物　不明
■その他　石室露出

阿古山古墳群第22号墳　墳丘遠景

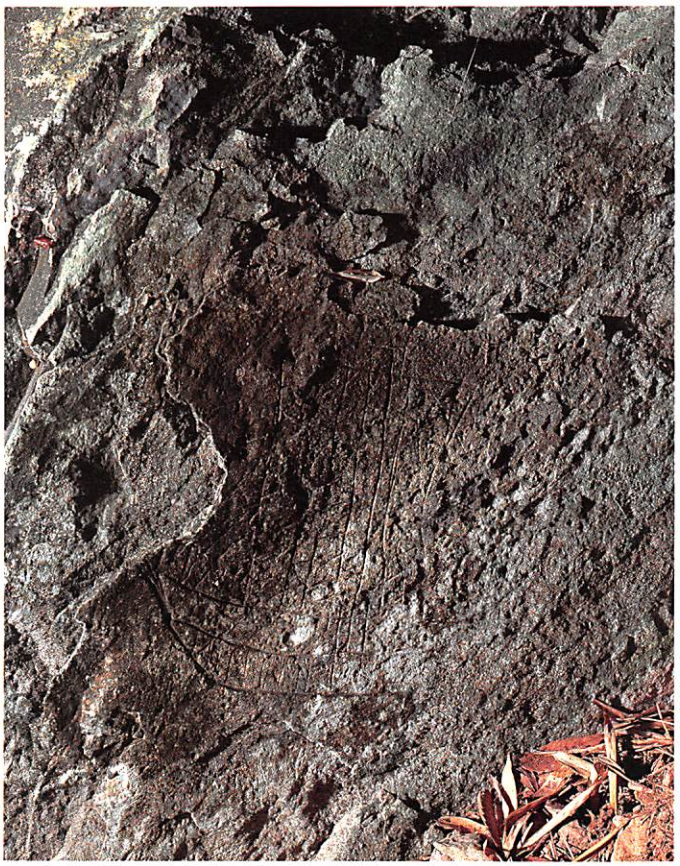


阿古山古墳群第22号墳石室実測図（扁平板石組石室）

阿古山古墳群第22号墳　扁平板石組石室



阿古山古墳群第22号墳　後室右側壁“船”



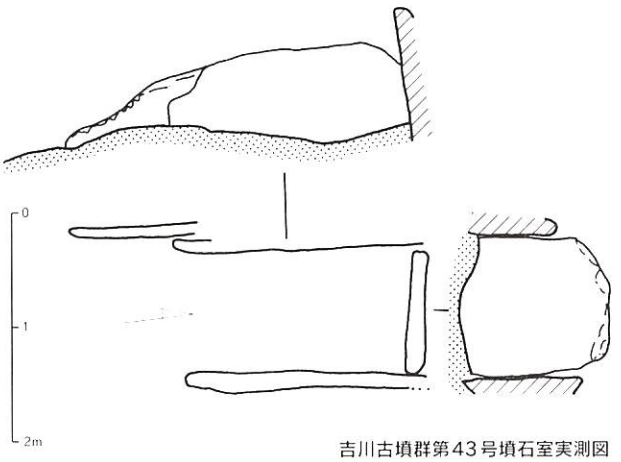
阿古山古墳群第22号墳　右側壁外面“船”

阿古山古墳群第22号墳　後室右側壁“船”

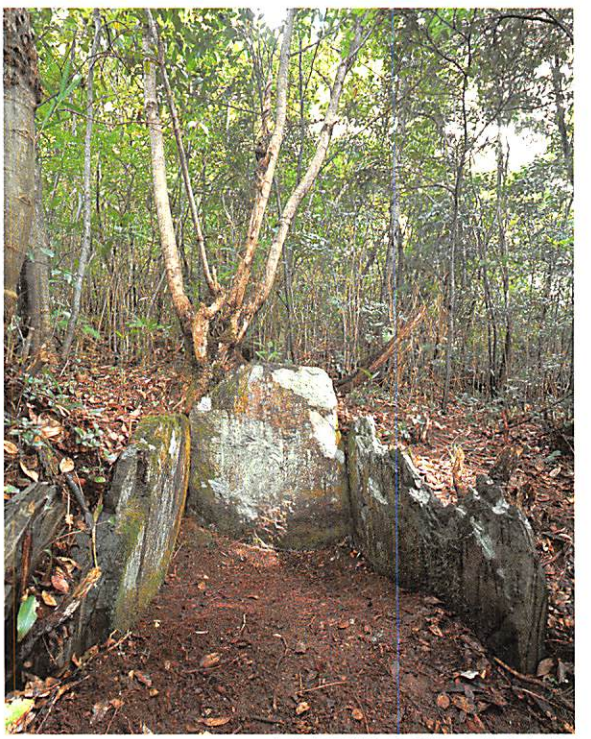
40.吉川古墳群第43号墳

気高郡青谷町大字吉川

■墳丘　不明
■装飾・位置　後室（右側壁）
■手法　線刻
■文様　船
■出土遺物　不明
■その他　旧名称：吉川26号墳



吉川古墳群第43号墳石室実測図



吉川古墳群第43号墳　石室露出状況

吉川古墳群第43号墳　後室左側壁“船”

41.向山古墳群三明寺古墳

【国指定史跡】

倉吉市大字巌城

■墳丘　円墳（直径約18.0m）
■装飾・位置　羨道部（左側壁）
■手法　線刻
■文様　船・木の葉文
■出土遺物　不明
■その他　志津賀石窟：石室内部には
　岩屋延命地蔵が祭られる

向山古墳群三明寺古墳　墳丘全景

向山古墳群三明寺古墳　羨道部左側壁線刻“木の葉文”

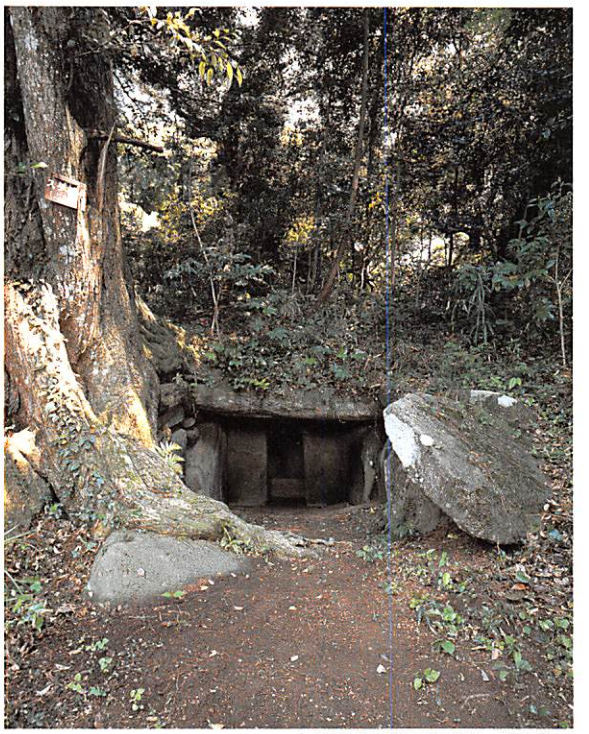
鳥取県

42.大平山古墳群福庭古墳

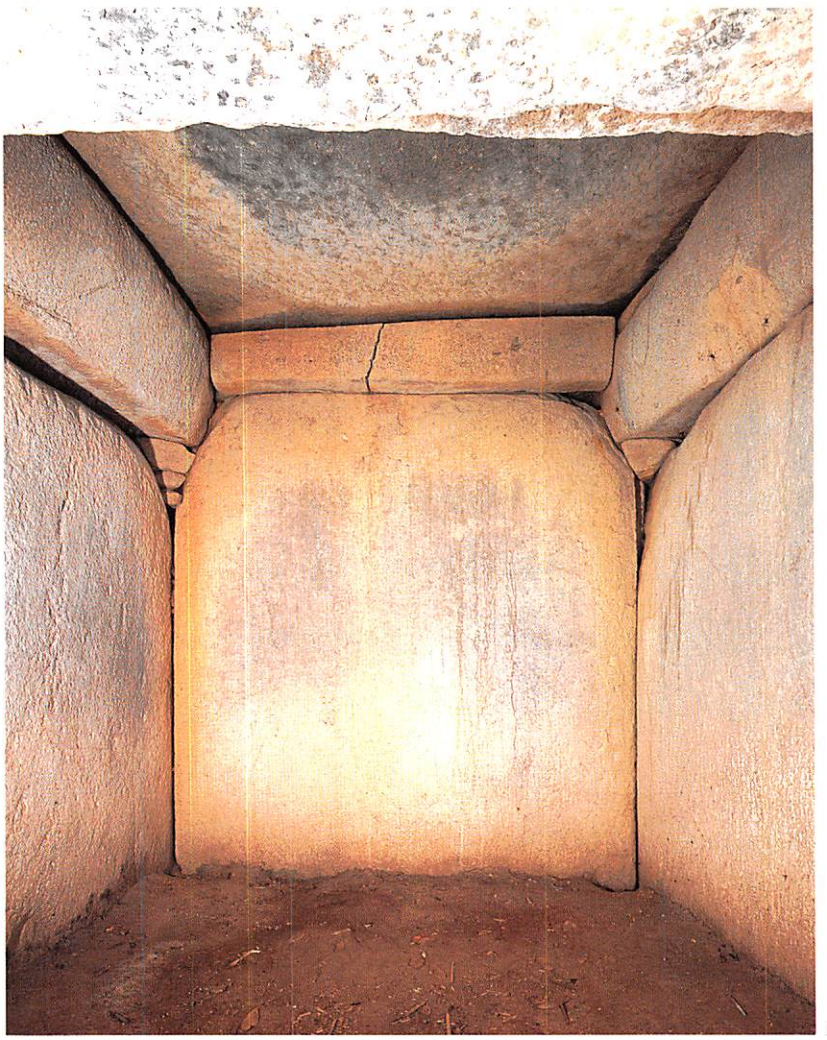
【県指定史跡】

倉吉市大字福庭

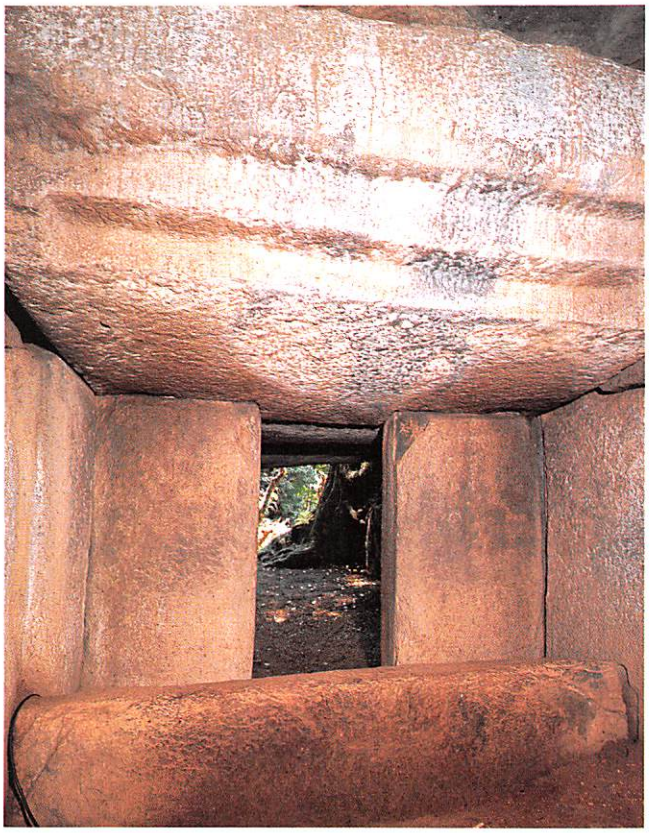
■墳丘　円墳（直径約35.0m）安山岩切石式
■装飾・位置　後室（奥壁）
■手法　彩色（赤）
■文様　連続三角文・平行線
■出土遺物　不明
■その他　伯耆一の宮「波波伎神社」境内に立地



大平山古墳群福庭古墳　墳丘全景



大平山古墳群福庭古墳　切石横穴式石室奥壁



大平山古墳群福庭古墳　後室から羨道部を望む

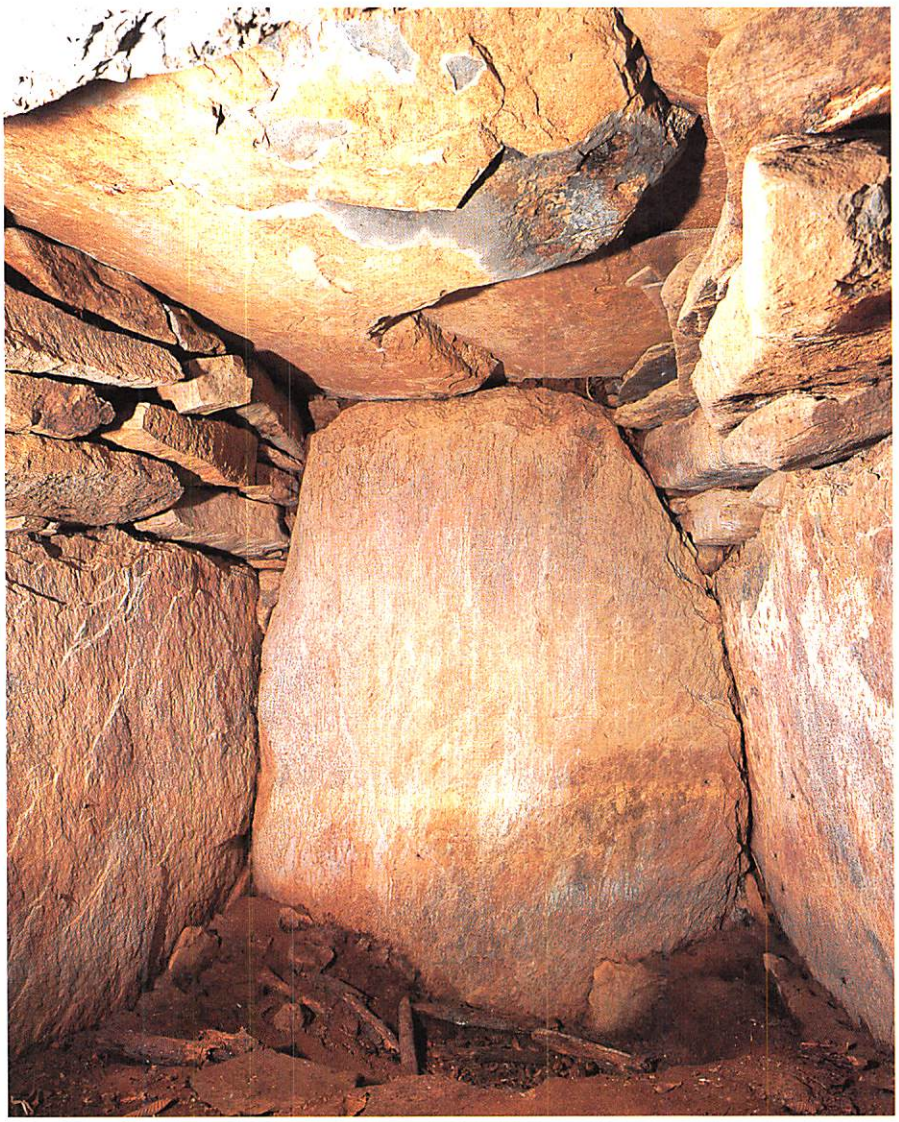
大平山古墳群福庭古墳　奥壁彩色部分（連続三角文をなす、赤色文様がわずかに残る）

43.上神（かずわ）古墳群第48号墳

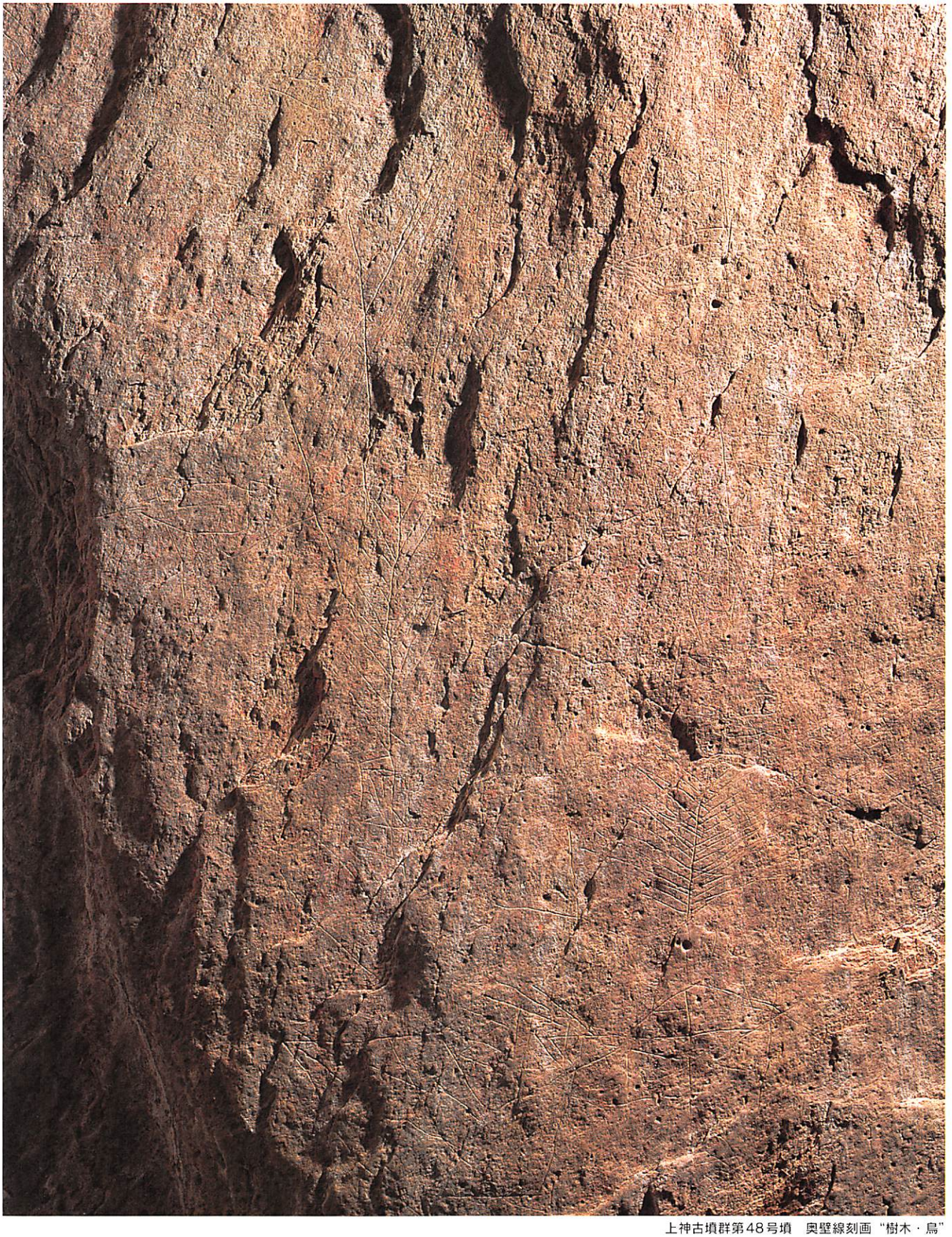
倉吉市大字上神

■墳丘　前方後円墳（全長約34.0m）
■装飾・位置　後室（奥壁）
■手法　線刻
■文様　鳥・綾杉文
■出土遺物　須恵器
■その他

上神古墳群第48号墳　墳丘全景



上神古墳群第48号墳　後室奥壁



上神古墳群第48号墳　奥壁線刻画“樹木・鳥”

鳥取県

44.横手古墳群第5号墳

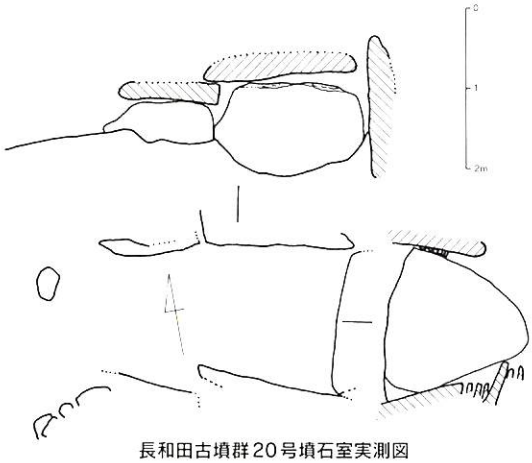
東伯郡三朝町大字横手

■墳丘　円墳（直径約10.0m）
■装飾・位置　後室（奥壁・右側壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　須恵器
■その他　羨道部埋没

45.長和田古墳群第20号墳

東伯郡東郷町大字長和田

■墳丘　円墳（直径約11.0m）
■装飾・位置　羨道部（天井）
　後室（奥壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　不明
■出土遺物　不明
■その他



長和田古墳群20号墳石室実測図

長和田古墳群20号墳　石室露出状況

長和田古墳群20号墳　奥壁“格子文？”

46.久見古墳群第17号墳

東伯郡東郷町大字田畑

■墳丘　円墳（直径約20.0m）
■装飾・位置　後室（右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　格子文・綾杉文・木の葉文
■出土遺物　不明
■その他

47.北福古墳群第4号墳

東伯郡東郷町大字北福

■墳丘　不明
■装飾・位置　後室（奥壁・右側壁）
■手法　線刻
■文様　斜格子文
■出土遺物　不明
■その他　石室露出

北福古墳群第4号墳　石室露出状況

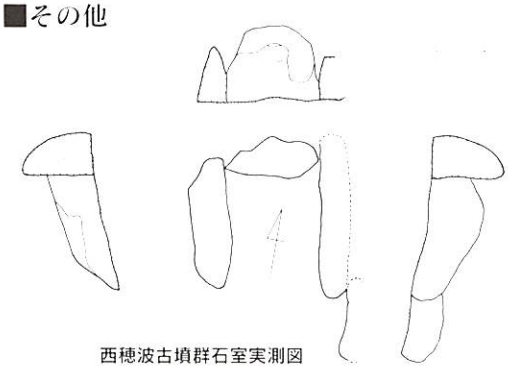
北福古墳群第4号墳　後室右側壁“斜格子文”

鳥取県

48.西穂波古墳群第9号墳

東伯郡大栄町大字六尾

■墳丘　不明
■装飾・位置　後室（奥壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　船・弓・矢
■出土遺物　不明
■その他



西穂波古墳群石室実測図

49.西穂波古墳群第27号墳

東伯郡大栄町大字六尾

■墳丘　円墳（直径約10.0m）
■装飾・位置　後室（奥壁・右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　船
■出土遺物　不明
■その他

土下古墳群第229号墳　石室露出状況

50.土下古墳群第229号墳

東伯郡北条町大字土下

■墳丘　円墳（直径約15.3m）
■装飾・位置　後室（右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　魚・放射状文
■出土遺物　不明
■その他

土下古墳群第229号墳　後室左側壁“放射状文”

51.福岡古墳群天神垣神社古墳

西伯郡淀江町大字福岡

■墳丘　不明
■装飾・位置　羨道部（左側壁）
■手法　線刻
■文様　平行線
■出土遺物　須恵器・鉄製品
■その他

52.福岡古墳群向山第4号墳

西伯郡淀江町大字福岡

■墳丘　前方後円墳（全長約50.0m）
■装飾・位置　羨道部（左側壁）
■手法　不明
■文様　不明
■出土遺物　金銅製冠・鈴・三輪玉・柄頭・須恵器
■その他　別名：長者ヶ平（ちょうじゃがだい）古墳

53.丹花庵古墳

松江市古曽志町字丹花庵372番地

■墳丘　方墳（一辺約49.0m・二段築成）
■装飾・位置　長持形石棺
■手法　線刻（浮彫り）
■文様　鋸歯文（連続三角文）
■出土遺物　鉄製品（鉄剣・大刀）
　短甲（三角板革綴短甲）・円筒埴輪
■その他

丹花庵古墳　墳丘遠景

丹花庵古墳　長持形石棺蓋部“連続三角文”

54.十王免横穴墓群第1号墓
松江市山代町大字十王免

■横穴墓（37基確認後、10基消滅）
■装飾・位置　不明
■手法　線刻
■文様　矢・弓・船
■出土遺物　不明
■その他　古墳時代終末期

55.十王免横穴墓群第2号墓
松江市山代町大字十王免

■横穴墓（37基確認後、10基消滅）
■装飾・位置　玄室（奥壁）
■手法　線刻
■文様　三角文・木の葉文・弓・矢
■出土遺物　不明
■その他　古墳時代終末期

56.十王免横穴墓群第7号墓
松江市山代町大字十王免

■横穴墓（37基確認後、10基消滅）
■装飾・位置　玄室
■手法　線刻
■文様　弓・人物（弓を引く人物）
■出土遺物　不明
■その他　古墳時代終末期

57.深田谷横穴墓群第1号墓
出雲市芦渡町字深田谷

■横穴墓（2基確認）
■装飾・位置　玄室（奥壁・右側壁）
■手法　線刻
■文様　（冠帽を被った人物・人物多数・家屋文）
■出土遺物　不明
■その他　7世紀前半

深田谷横穴墓群第1号墓　横穴墓群が開口する丘陵

深田谷横穴墓群第1号墓　横穴墓開口状況

島根県

深田谷横穴墓群第１号墓　奥壁　冠帽を被る人物像

深田谷横穴墓群第１号墓　奥壁　人物像

深田谷横穴墓群第１号墓　玄室右側壁　家屋文

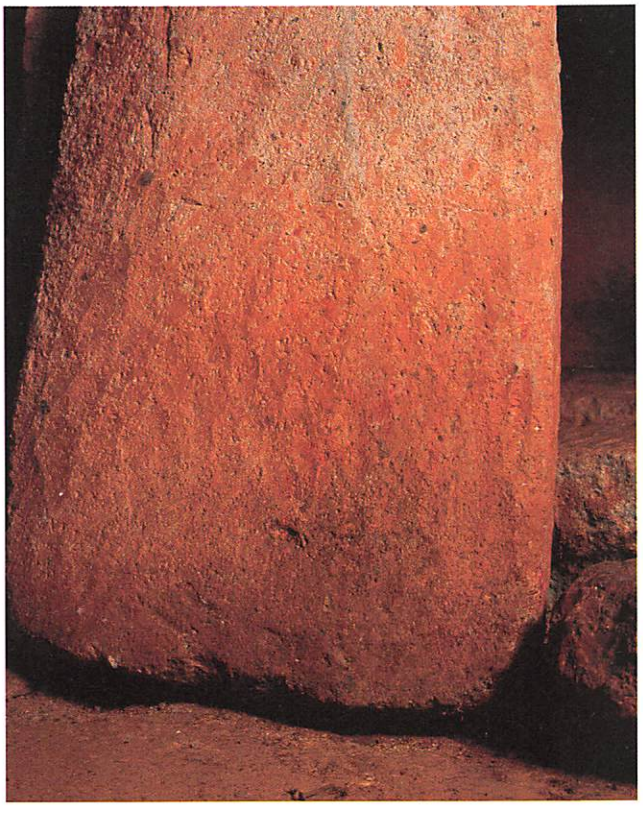
58.穴神（あながみ）横穴墓群第１号墓

安来市吉佐町

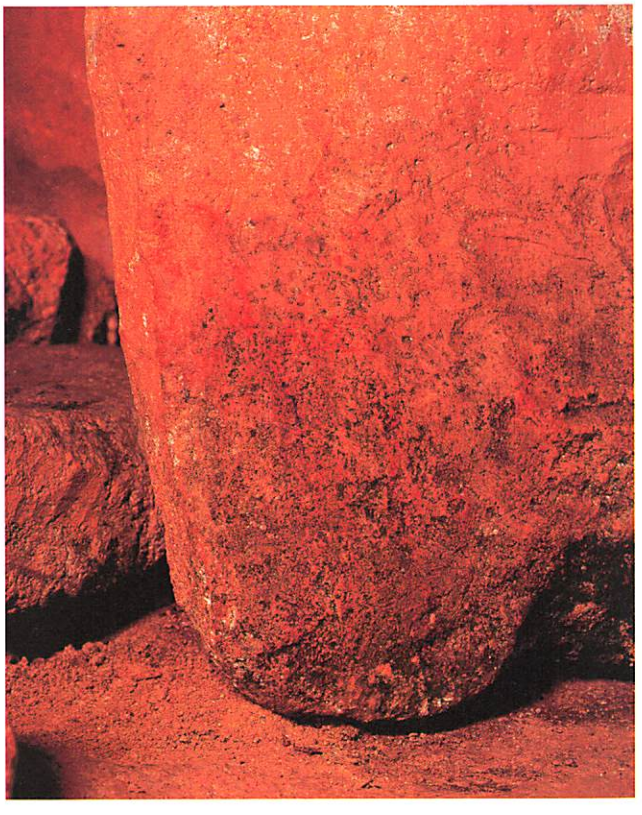
■墳丘　横穴墓
（後背丘直径約７～8.0m、３基確認）
■装飾・位置　平入横口式石棺
■手法　彩色（赤）・線刻（どちらが先か不明）
■文様　蕨手文？人物
■出土遺物　須恵器（杯身・蓋・無頸壺
大型壺・広口壺・有蓋高杯・円盤状土製品）
■その他　７世紀前半

穴神横穴墓群第１号墓　玄室　平入横口式石棺　島根県教育庁埋蔵文化財センター提供

穴神横穴墓群第１号墓　左側板装飾　島根県教育庁埋蔵文化財センター提供



穴神横穴墓群第１号墓　右側板装飾　島根県教育庁埋蔵文化財センター提供



59.浜ノ崎遺跡 第2号横穴墓

八束郡宍道町佐々布

■墳丘　横穴墓（2基確認）
■装飾・位置　奥壁
■手法　線刻
■文様　人物
■出土遺物　不明
■その他　凝灰質砂岩（来待石）
古墳時代のものなのか、
確証は得られていない

浜ノ崎遺跡第2号横穴墓　玄室奥壁“人物”

浜ノ崎遺跡第2号横穴墓　玄室奥壁“人物”

60.飯ノ山横穴墓群

隠岐郡西郷町大字西町字飯ノ山

■墳丘　横穴墓（大正年間には60基～70基あったが、土取り作業で消滅）
■装飾・位置　不明
■手法　線刻
■文様　人物　動物・盾
■出土遺物　須恵器（蓋杯・長頸壺）
■その他　出土遺物から、山陰本土で横穴墓が作られなくなった奈良時代においても、
隠岐では継続して作られていたようである

中国地方の装飾古墳　岡山県

61.造山古墳群千足（せんそく）古墳
【国指定史跡】

岡山市高松町大字本庄下千足

■墳丘　前方後円墳（全長約74.0m）
■装飾・位置　後室（石障右・左・奥壁）
■手法　線刻（浮彫り）
■文様　直弧文
■出土遺物　不明
■その他　造山古墳の陪冢（はいちょう）の一つ

造山古墳群千足古墳　後室石障“直弧文”　岡山市教育委員会提供

62.鶴丸丸山古墳【国指定史跡】

備前市鶴山

■墳丘　円墳（直径約60.0m）竪穴式石室
■装飾・位置　長持形石棺蓋
■手法　線刻
■文様　円文・家屋文
■出土遺物　石製四脚付盒子・盒子・坩・器台・鉄製品（刀・鏃・斧・刀子）・内行花文鏡4・変形四神鏡2・変形獣帯鏡1・二神二獣鏡2・四神四獣鏡1・三神三獣鏡1・変形神獣鏡2・盤竜鏡1・変形四禽鏡2・変形五獣鏡1（すべて彷製鏡）
■その他　中国製の三角縁二神二獣鏡が出土したという説もある。内行花文鏡のうち2面は同笵と推定される

中国地方の装飾古墳　山口県

63.穴観音古墳【県指定史跡】

阿武郡むつみ村高佐下1459番地及び495番地の2

■墳丘　方墳（13.5m×12.8m）
■装飾・位置　羨道部（右側壁・左側壁）、袖石
■手法　線刻
■文様　人物・弓（弓を射る武人像？）
■出土遺物　不明
■その他　6世紀末～7世紀初頭

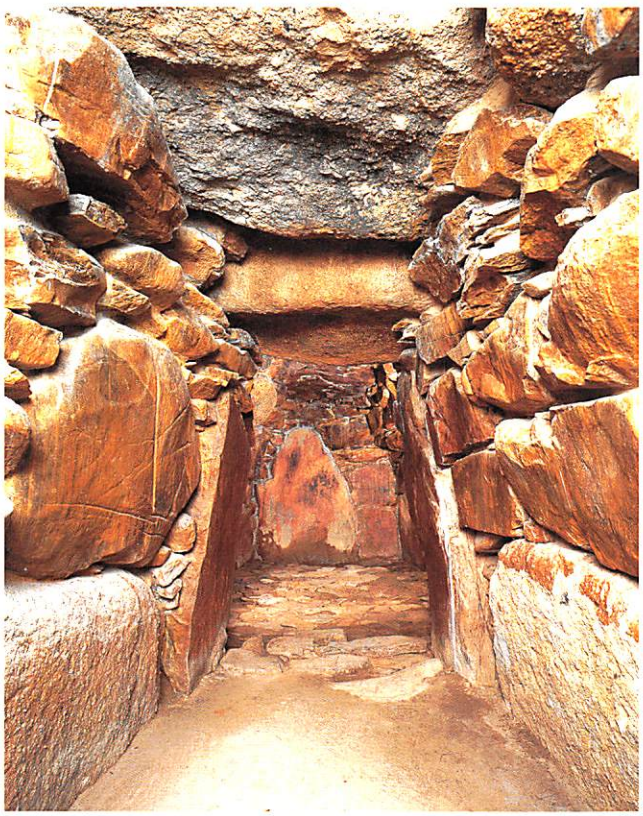
四国地方の装飾古墳　香川県

64.有岡古墳群宮が尾古墳

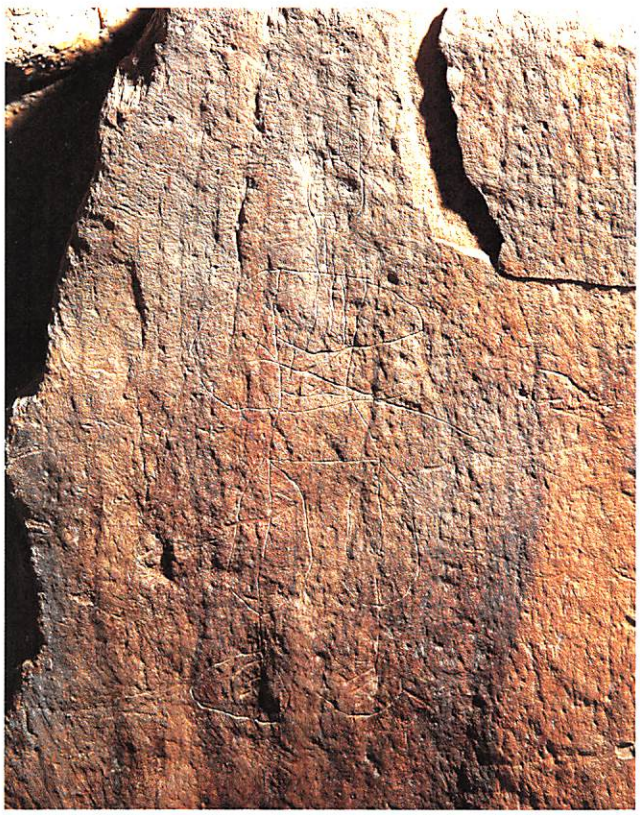
善通寺市宮が尾3214-13

■墳丘　円墳（直径約20.0m）
■装飾・位置　羨道部（左側壁）
後室（奥壁・左側壁・右側壁）
■手法　線刻
■文様　人物（乗船した人物・騎馬人物
武人）・船（船団）
■出土遺物　須恵器（高杯蓋）
鉄製品（刀子）・耳環
■その他　墳丘内出土石材が、2号墳羨道部
石材と接合、6世紀末

有岡古墳群宮が尾古墳　復元整備後の墳丘（背後の山は我拝師山）



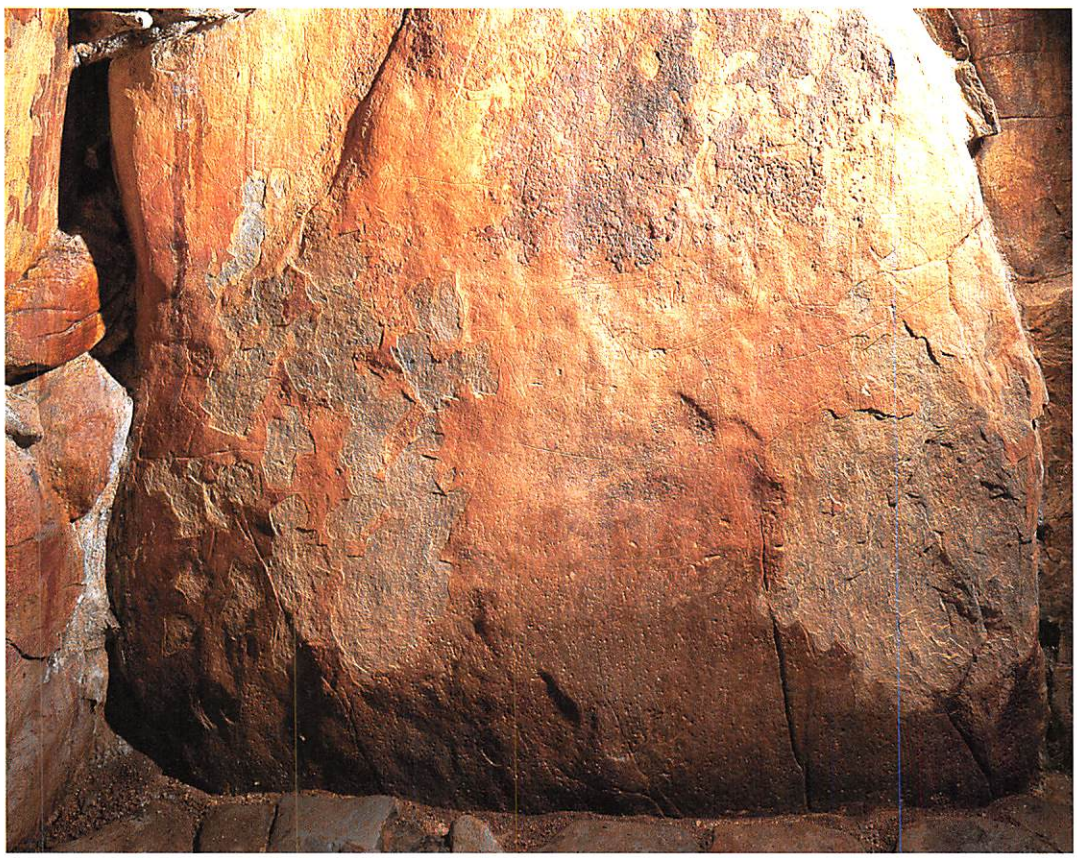
有岡古墳群宮が尾古墳　羨道部より後室を望む



有岡古墳群宮が尾古墳　後室左側壁“武人像”

香川県

有岡古墳群宮が尾古墳　奥壁上部“人物・船”



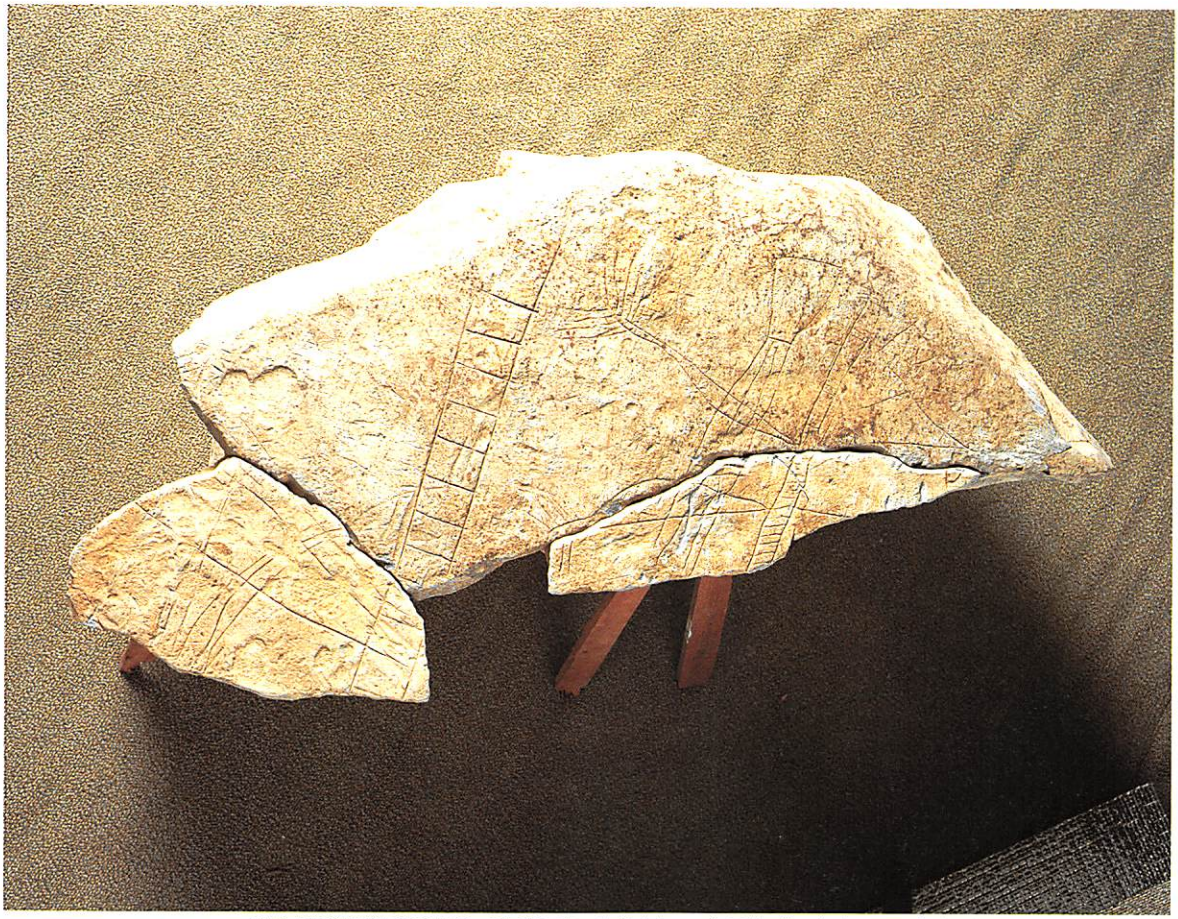
有岡古墳群宮が尾古墳　奥壁下部“人物・船団”

65.有岡古墳群宮が尾第2号墳

善通寺市宮が尾

■墳丘　円墳（直径約12.0～13.0m）
■装飾・位置　羨道部（左側壁）
■手法　線刻
■文様　船？
■出土遺物　須恵器（高杯・高杯蓋・杯身
無頸壺・横瓶・蛸壺）・装飾品
鉄製品（馬具・武器・鉗子状鉄器）
■その他　羨道部石材と1号墳墳丘内石材が接合
6世紀末

有岡古墳群宮が尾第2号墳　発掘調査後、整備された横穴式石室



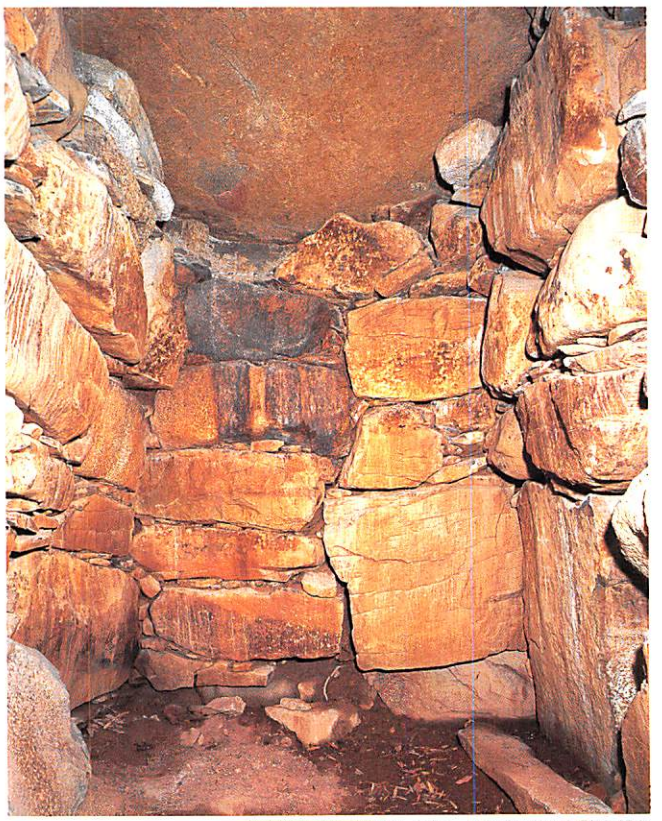
有岡古墳群宮が尾第2号墳　2号墳石室で使用されていた石材（左下）と、1号墳墳丘内から出土した接合石材

香川県

66.有岡古墳群瓦谷（かわらたに）第1号墳

善通寺市善通寺町大字瓦谷

■墳丘　円墳
■装飾・位置　後室（奥壁）
■手法　線刻
■文様　人物
■出土遺物　不明
■その他



有岡古墳群瓦谷第1号墳　羨道部より奥壁を望む

有岡古墳群瓦谷第1号墳　奥壁線刻“人物”

67.岡古墳群第5号墳

善通寺市大麻町大字岡

■墳丘　円墳
■装飾・位置　羨道部(右側壁・左側壁)
　後室（奥壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　家屋文・木の葉文・平行線・船
■出土遺物　不明
■その他

岡古墳群第5号墳　背後は大麻山

岡古墳群第5号墳　横穴式石室入口

香川県

岡古墳群第５号墳　羨道部右側壁“家屋文”

岡古墳群第５号墳　羨道部左側壁“家屋文”

68.岡古墳群第6号墳

善通寺市大麻町大字岡

■墳丘　円墳
■装飾・位置　羨道部（左側壁）
■手法　線刻
■文様　家屋文
■出土遺物　不明
■その他

岡古墳群第6号墳　墳丘全景

岡古墳群第6号墳　羨道部“家屋文”

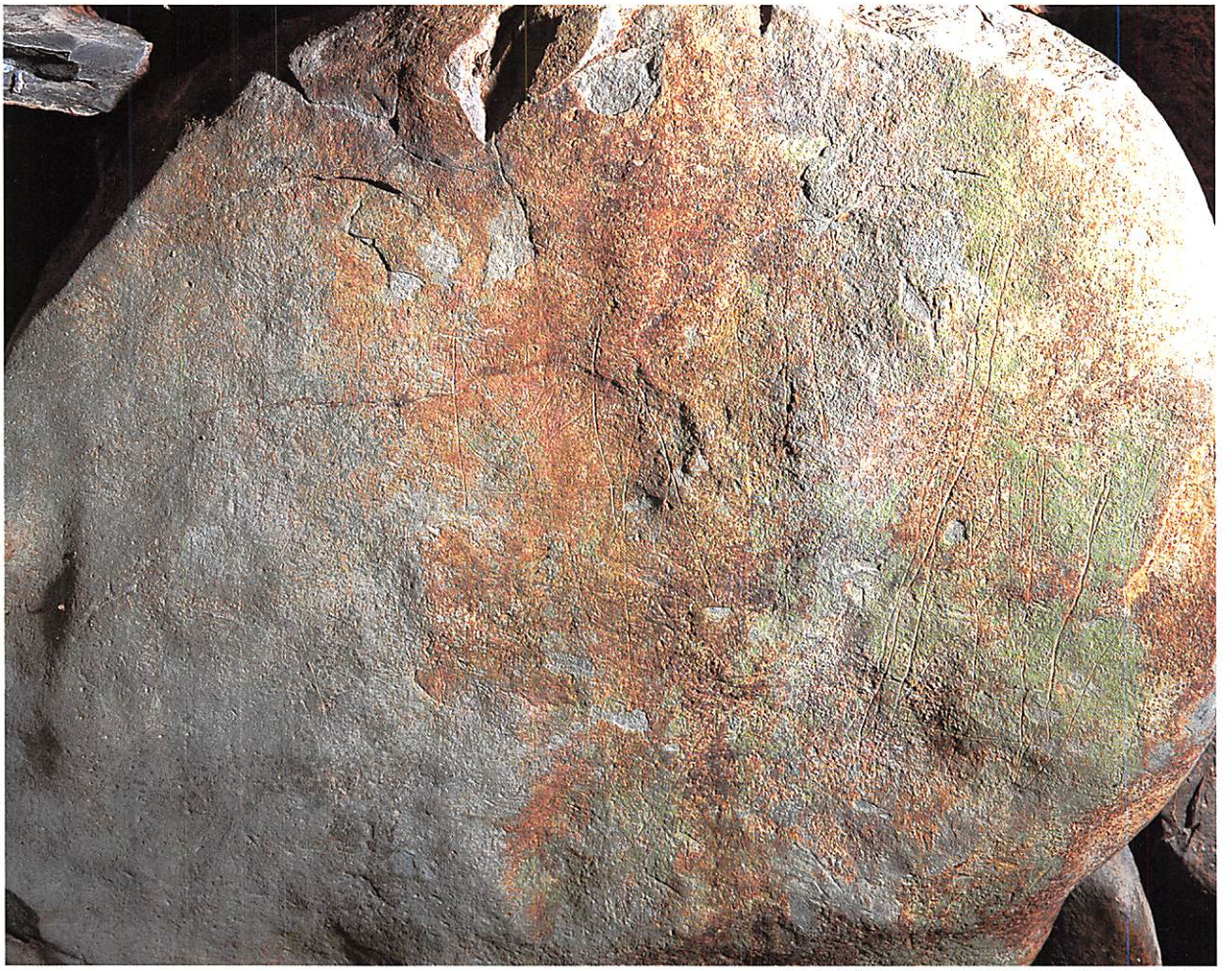
香川県

69.岡古墳群第10号墳

善通寺市大麻町大字岡

■墳丘　円墳
■装飾・位置　羨道部
　（右側壁・左側壁）後室（天井）
■手法　線刻
■文様　家屋文・木の葉文・平行線
■出土遺物　不明
■その他

岡古墳群第10号墳　墳丘全景



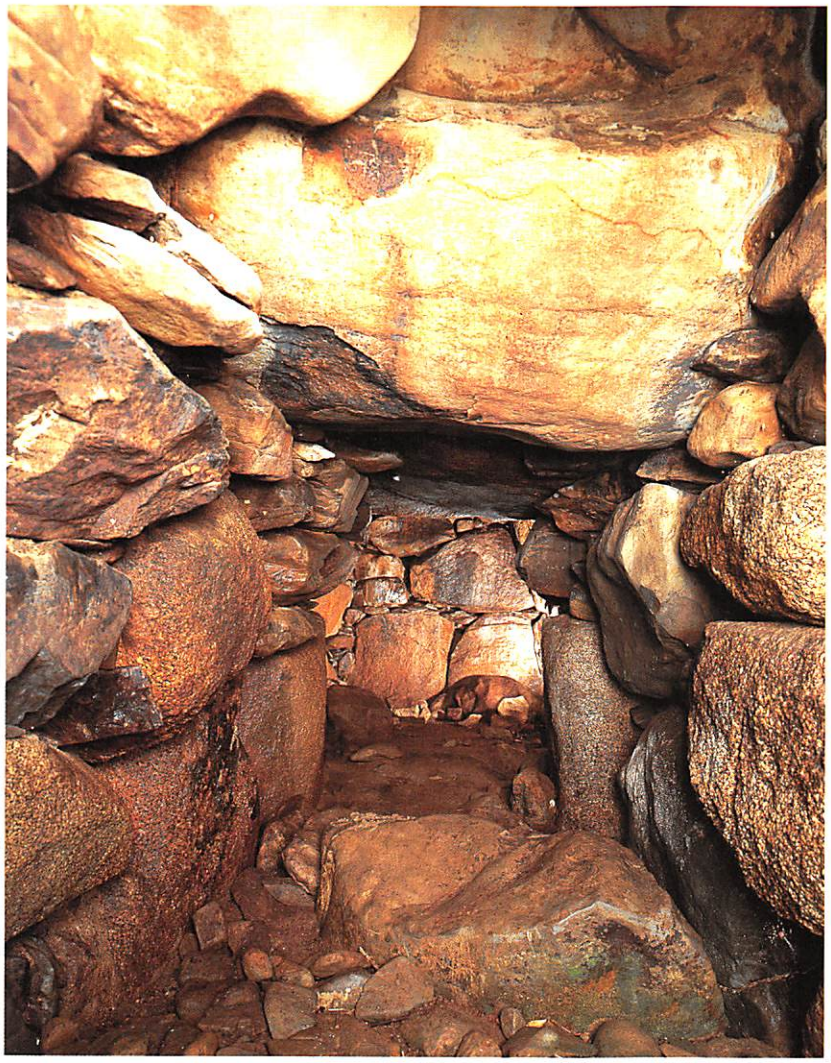
岡古墳群第10号墳　羨道部左側壁“綾杉文・平行線”

70.岡古墳群第11号墳

善通寺市大麻町大字岡

■墳丘　円墳
■装飾・位置　羨道部(右側壁・左側壁)
■手法　線刻
■文様　家屋文・木の葉文
　平行線・格子文
■出土遺物　不明
■その他

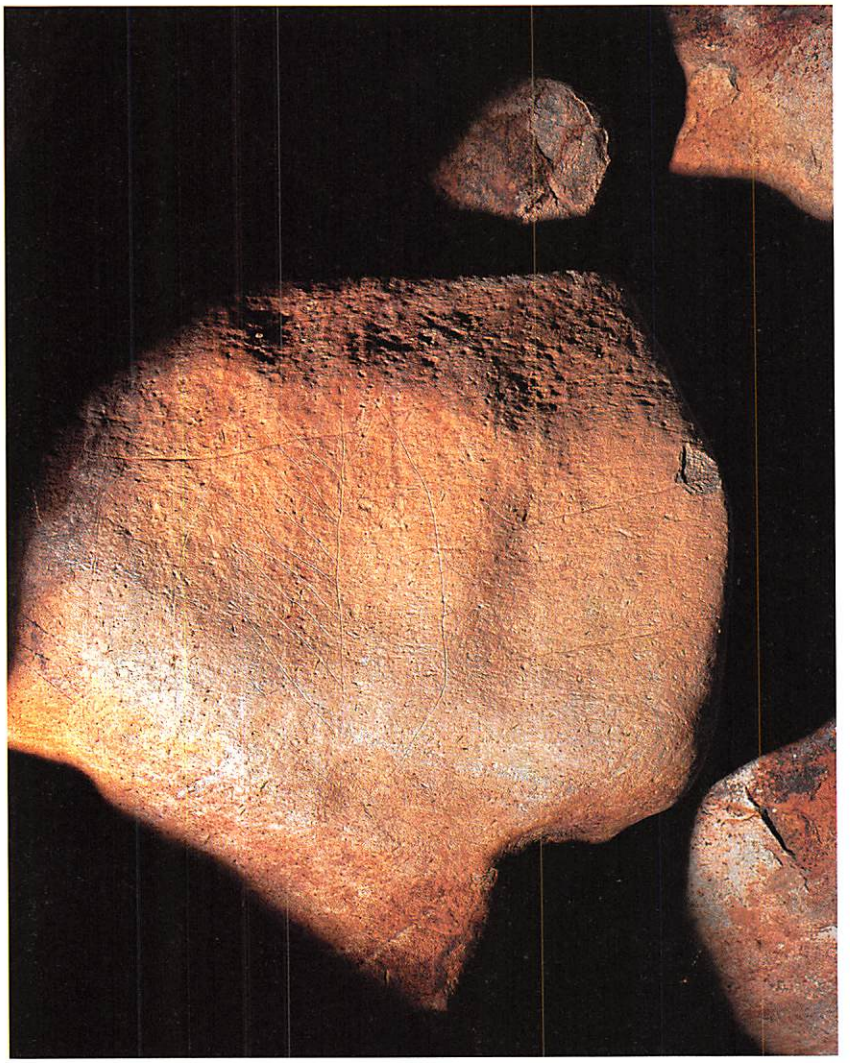
岡古墳群第11号墳　墳丘全景



岡古墳群第11号墳　羨道部より後室を望む

香川県

岡古墳群第11号墳　羨道部左側壁“綾杉文”



岡古墳群第11号墳　羨道部左側壁“木の葉文”

71.岡古墳群第13号墳

善通寺市大麻町大字岡

■墳丘　円墳
■装飾・位置　後室（右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　家屋文・平行線
■出土遺物　不明
■その他

岡古墳群第13号墳　墳丘全景

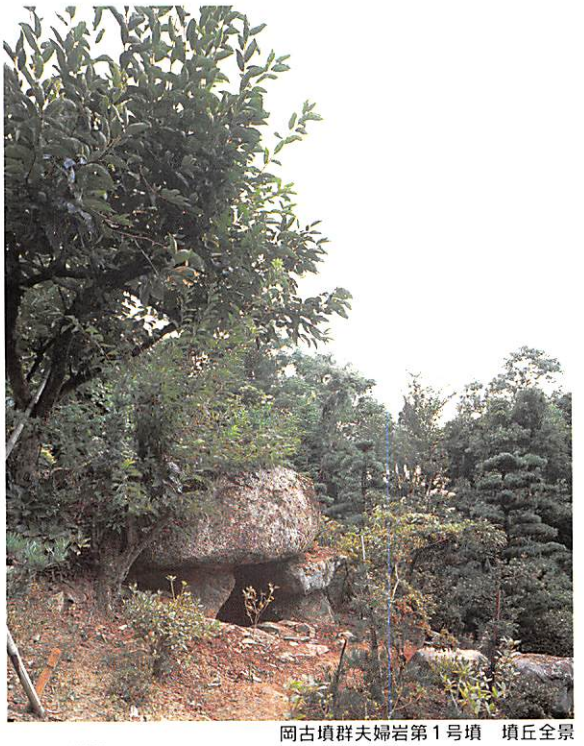
岡古墳群第13号墳　後室左側壁“斜格子文・平行線文”

香川県

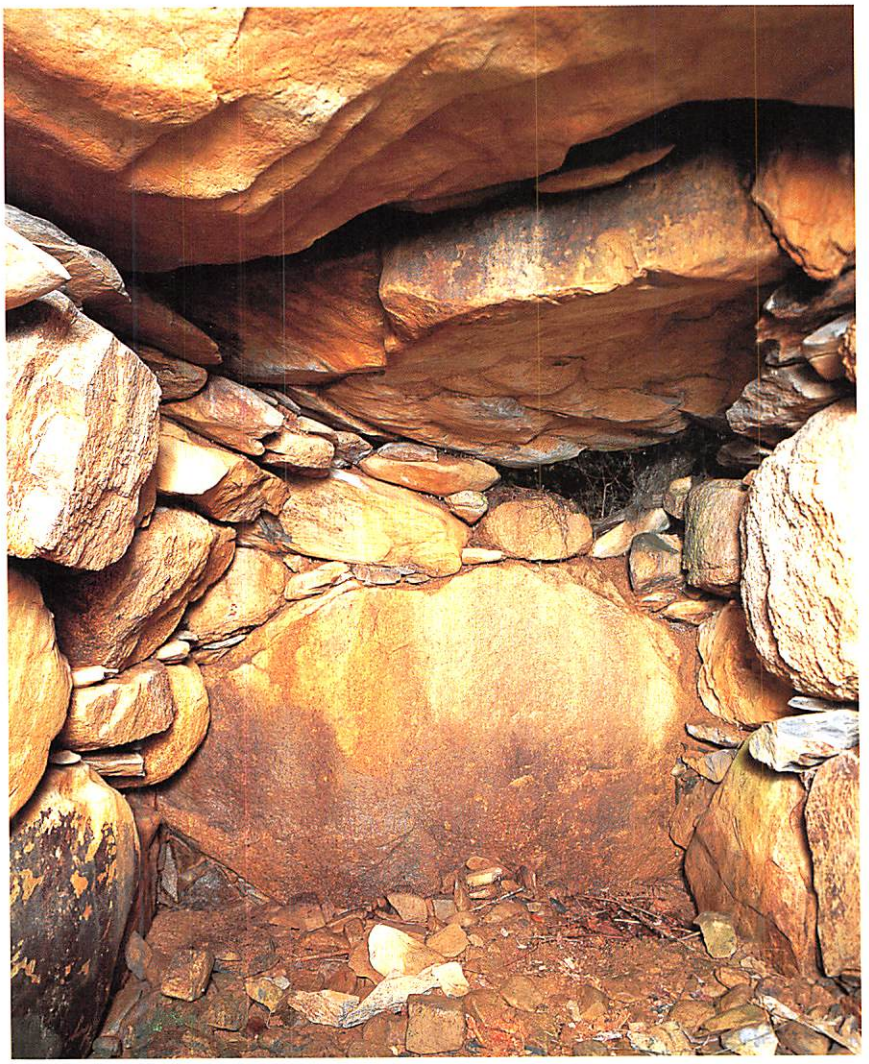
72.岡古墳群夫婦岩第1号墳

善通寺市大麻町大字岡字夫婦岩25611-5

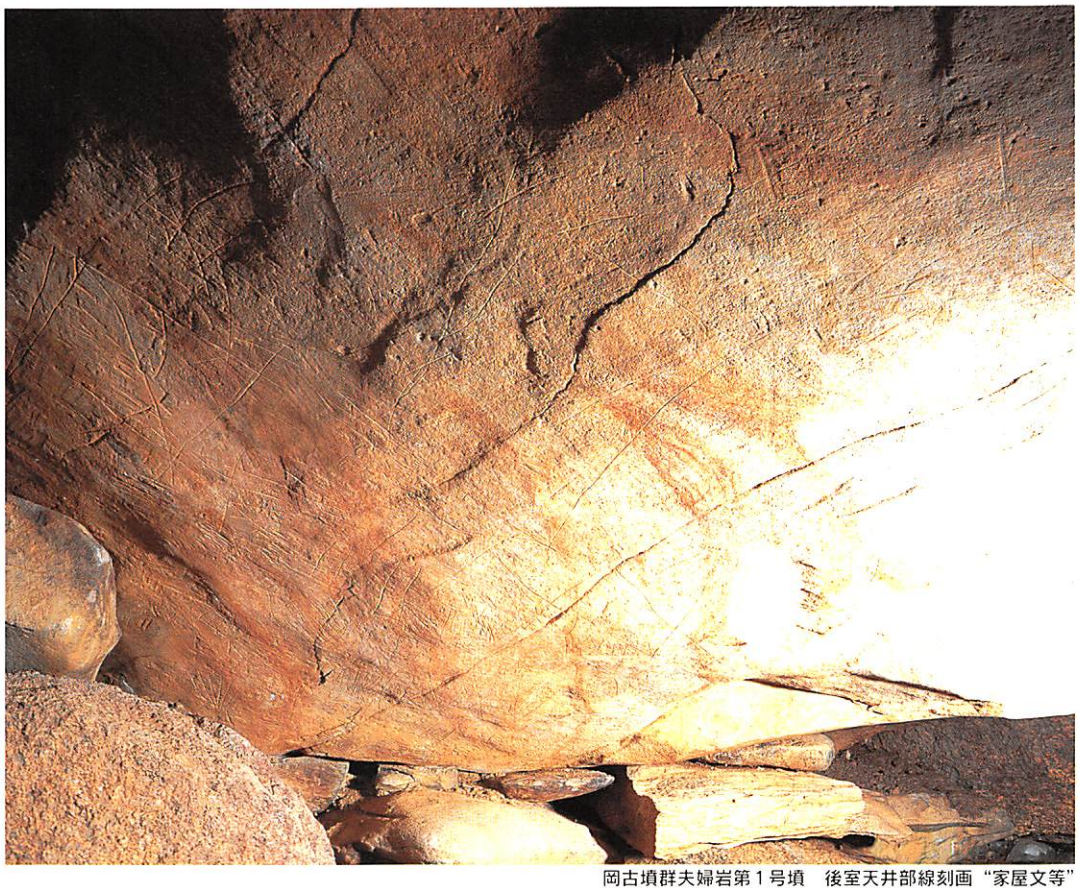
■墳丘　円墳
■装飾・位置　後室（天井部・右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　家屋文・斜格子文・格子文
■出土遺物　不明
■その他



岡古墳群夫婦岩第1号墳　墳丘全景



岡古墳群夫婦岩第1号墳　羨道部より奥壁を望む



岡古墳群夫婦岩第１号墳　後室天井部線刻画“家屋文等”

岡古墳群夫婦岩第１号墳　後室天井部線刻画“格子文”

73.鷺の口古墳群第１号墳

【市指定史跡】

坂出市加茂町

■墳丘　円墳（直径約10.0m）
■装飾・位置　羨道部（右側壁・左側壁）
　後室（奥壁・右側壁・左側壁）
■手法　線刻
■文様　木の葉文・家屋文・船
■出土遺物　不明
■その他　別名：木ノ葉塚

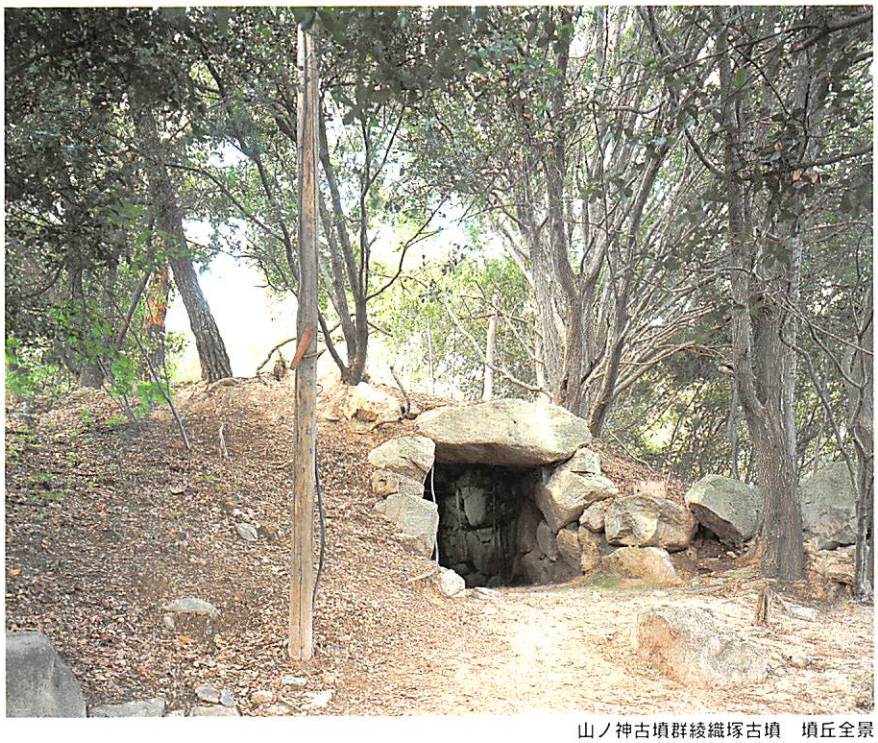
鷺の口古墳群第１号墳　羨道部より奥壁を望む

鷺の口古墳群第１号墳　後室右側壁“木の葉文”

74.山ノ神古墳群 綾織塚古墳【市指定史跡】

坂出市加茂町大字山ノ神

■墳丘　円墳
■装飾・位置　羨道部（左側壁）
■手法　線刻
■文様　木の葉文
■出土遺物　不明
■その他　別名：穴大師古墳



山ノ神古墳群綾織塚古墳　墳丘全景

山ノ神古墳群綾織塚古墳　羨道部左側壁“木の葉文”

香川県

75.山ノ神古墳群第2号墳

坂出市加茂町大字山ノ神

■墳丘　円墳
■装飾・位置　後室（左側壁）
■手法　線刻
■文様　木の葉文・家屋文
■出土遺物　不明
■その他　石室は基底部を除き崩壊

76.揚原山古墳

坂出市

■墳丘　不明
■装飾・位置　不明
■手法　線刻
■文様　樹木・木の葉文・船
■出土遺物　不明
■その他　昭和59年に線刻画を確認

77.醍醐古墳群

坂出市西庄町大字醍醐

■墳丘　不明
■装飾・位置　不明
■手法　線刻
■文様
■出土遺物　不明
■その他　未調査

興昌寺山古墳群第1号墳　墳丘全景

78.興昌寺山古墳群第1号墳

観音寺市八幡町

■墳丘　円墳（直径約20.0m）
■装飾・位置　羨道部（左側壁）、後室（左側壁）
■手法　線刻
■文様　船・木の葉文
■出土遺物　不明
■その他　興昌寺裏山の山頂部に立地

興昌寺山古墳群第1号墳　後室左側壁“木の葉文”

—石室の中の生態学—

かまどうま【竈馬】

直翅（ちょくし）目カマドウマ科の昆虫。体長約2センチメートル。体はエビ形にやや湾曲し、羽はない。全体に褐色を帯び、頭部に細長い糸状の触角がある。後ろ足は強大で、よく飛び跳ねる。台所や縁の下など湿りがちな所にすみ、夜、活動し、野菜くずや昆虫の死体などを食べる。台所のかまどの裏などに多いところからこの名が付く。全国各地に分布。

鳥取県八頭郡郡家町所在　米岡古墳群第2号墳　後室天井部

第4章　自由画風線刻画の描かれた地域

中国地方における装飾古墳の分布は、鳥取県鳥取市から倉吉市にかけて、島根県安来市から出雲市にかけての日本海沿岸、瀬戸内海地方では、岡山市を中心とする周辺に見ることができる。

さらに、四国地方では瀬戸内海に面する香川県地方にのみ装飾古墳が確認されている。

中国・四国地方では、彩色された古墳は特異な装飾技法で、主に線刻画による装飾が多く、彩色された古墳は、鳥取県の梶山古墳、福庭古墳、島根県の穴神横穴墓群1号墓を入れて3基確認されているに過ぎない。

三角文

幾何学文が少ない中国・四国地方において、梶山古墳（国府町）は、同心円文・三角文・魚・曲線が施され、福庭古墳では連続する三角文が見られる。

また、同じく三角文を線刻画で描いている空山古墳群第2号墳、久見古墳群第17号墳、島根県丹花庵古墳について九州地方の三角文のあり方と比較をしてみたい。

通常、三角文は熊本県や福岡県でも独立した文様として描かれていることは少なく、壁面を埋めるためのモチーフとして描かれる場合が多く、王塚古墳（福岡県）・チブサン古墳（熊本県）・釜尾古墳（熊本県）などで見ることができる。

斎藤　忠氏は、『日本装飾古墳の研究』の中で、

A類　三角文を独立して用いたもの

B類　三角文を対角線によって構成したもの

C類　三角文を並列したもの

D類　三角文の並列を複合的に組み合わせたもの

E類　三角文の中に、小さい三角文を配したもの

と5段階に三角文を分類されており、『日本考古学研究2 壁画古墳の系譜』では、それに加えて、C類をⅡ形式に、D類をⅢ形式分けられている。

C類

Ⅰ形式は、単一な並列文によるもの

Ⅱ形式は、並列を重複し繰り返し、自ら菱形文を構成するもの

D類

Ⅰ形式は、3線以上の平行線を描き、それぞれの帯内に並列三角文を配するもの。

Ⅱ形式は、3線以上の平行線を描き、それぞれの帯内に並列三角文を配し、帯の一線の底辺を同一にして背中合わせに対向させ、菱形文を構成するもの。

Ⅲ形式は、それらが乱れて混在しているものと分類されている。

従って、この分類で文様が確認できる、梶山・福庭・空山第2号墳・久見古墳群第17号墳及び島根県松江市の丹花庵古墳の文様について分類を試みる。

梶山古墳は、それぞれが独立した三角文であり、A類に属し、福庭古墳は、並列する単一な三角文として描かれているためC類Ⅰ形式の装飾文様と思われる。

また、空山古墳群第2号墳は、並列する2個の三角文の頂部からその間に、菱形文を形成するように線が伸びている。一見大きな三角形を呈しているようだが、線の筆圧、線刻の順序などから並列する三角文があり、その線が延長され大きな三角文の頂部となったものである。

久見古墳群第17号墳は、今回は実際に見ることはできなかったが実測図等から斜格子文の線が交差し、一部は三角文で一部は菱形文を形成している文様である。斎藤氏の分類によると、B類の対角線によって構成したものが類似しているようである。

これら三角文の構成は、斎藤分類編年では、A類の、単独で描かれる三角文は最も古いとされ、九州では6世紀前半に位置付けられる日岡（ひのおか）古墳（福岡県）があげられる。

このA類にあたる梶山古墳は、築造時期が出土遺物等から7世紀初頭とされ、さらに、空山古墳群第2号墳は発掘調査により古墳時代終末、福庭古墳は石室構造の完成度から同じく古墳時代終末と想定されている。

このことから、九州で描かれる三角文の系譜とはその築造年代の差から、関連付けることはできないようであるが、石室内に装飾を施すという思想は、明らかに大陸から影響を受けた九州からのものと思われる。

梶山古墳に見られる三角文は、左右に独立した

文様として描かれ、同じくその内側にある同心円文とともに、中心の曲線・魚を囲むように描かれる。

あたかも、中央部を挟み神聖なる場所を表現しているともとれる構図となっている。

魚

国府町に所在する鷺山古墳は、石室奥壁中段にダイナミックな約1.2mに及ぶ魚の線刻画があり、梶山古墳の魚（彩色）や、今回は確認できなかったが土下古墳群第229号墳の魚などと、文様が意味するものについて再考する必要があろう。

石室に描かれた魚については、鷺山古墳ではその特徴から「鮭」と解釈されているが、梶山古墳では鯉・鮭・鮎と言われ、中国の故事にあるように、鯉が黄河を遡り竜となる竜門思想とも相まってさまざまな説が出されている。

人物

在地系の横穴式石室の一つである、坊ヶ塚古墳（鳥取市）には、中高天井式石室で構成された石室内に、弓を引く武人像が描かれ、また空山古墳群第10号墳には、手足が省略された人物像と大刀を帯びる武人像が描かれている。

坊ヶ塚古墳の人物像は、頭には帽子をかぶり裾の広がる服をまとい、腰部をベルトで締め左右に大きく足を踏ん張り、やや斜め上に弓を引く姿が描かれる。

島根県地方では、深田谷横穴墓群第1号墓玄室に冠帽を被った人物が描かれている。

また、香川県の宮が尾古墳の人物像には、奥壁に家屋文を取り囲む人々や、船を漕ぐ人、馬に乗る人、両手を広げている人などが見られる。

さらに、後室左側壁に描かれている武人像は、坊ヶ塚古墳・深田谷横穴墓群第1号墓と並び、当時の服装を知る上で貴重な資料である。

船

この地方では、多くの古墳に船をモチーフとして描いている古墳が多い。

鷺山古墳や空山古墳群第15号墳、吉川古墳群第43号墳などに描かれる船は、九州地方で描かれるゴンドラ形の船ではなく、帆を張り櫨を持った構造船であり古墳時代に描かれた文様かどうかの判断は難しい。

香川県の宮が尾古墳では、ゴンドラ形の船が1ヵ所に多く描かれ、船団を組んでいる様子が伺われる。同じように多くの船を描いている構図としては、彩色系の装飾古墳である観音塚古墳（福岡県）の奥壁の文様がある。

木の葉文

木の葉文は、鷺山古墳をはじめ空山古墳群第10·15号墳等に見られ、また、香川県坂出市の鷺の口古墳群第1号墳（別名：木ノ葉塚古墳）、岡古墳群（善通寺市）に多く描かれている。

木の葉文の解釈については、小田富士雄氏により2種類に大別されている。一つは、綾杉状葉脈とこれを取り囲む木葉の輪郭からなる広葉樹を表したもの、もう一つは、綾形状葉文があるものとされている。広葉樹木葉文には、装飾文様としての取り入れられ方に垂直型と上向型とあると区分されている。

木の葉文は、線刻画だけに用いられる文様で、彩色系の装飾古墳には取り入れられていない文様の一つである。

また、この文様は、北部九州地域から畿内地方まで普遍的に見られるため、木の葉の持つ意味や目的を考えなければならないだろう。

鳥

線刻画により描かれる鳥の例は多く、代表的なものに鷺山古墳、空山古墳群第16号墳などの例が上げられる。

この数多く取り入れられている鳥のモチーフは、その種類について多くが水鳥であろうという

意見が出されている。

空山古墳群第10号墳の鳥などは、長いくちばし、前方に緩やかに伸びる長い頸など水鳥の特徴を持ったものが多い。

九州で見ることができる鳥は、その多くが彩色系装飾古墳に描かれ、船の舳先などに描かれるものが多い。

代表的な古墳として、珍敷塚古墳・鳥船塚古墳（福岡県）、弁慶ガ穴古墳（熊本県）の装飾文様が挙げられる。

線刻画では、穴ヶ葉山古墳群第1号墳（福岡県）、伊美鬼塚古墳（大分県）などがあり、特に穴ヶ葉山古墳群第1号墳には、木の葉文と並んで鳥の飛翔しようとする場面が描かれ、動きを示すモチーフとして特徴的な場面である。

家屋文

このモチーフは、今回の対象地域では香川県善通寺市と、島根県出雲市「深田谷横穴墓群」に見られるものである。

この文様は、香川県の例では、1つの古墳に複数描かれている例が多く、放射状に伸びた線が集まった部分に、屋根状に四角であったり、逆台形であったり、線が交差して家屋状に線刻されている。

一見、各地で復元されている竪穴式住居ともとれる文様が施されるが、笹川龍一氏（注2）により、「殯屋（もがりや）」ではないかと提唱されている。

その理由として、善通寺市内及びその周辺地域で同一モチーフをもつ古墳があり、後世の落書きとすると広範囲に及び不自然であること、夫婦岩第1号墳の後室天井石に構築前でないと、描けない場所に同一モチーフが描かれていることから古墳築造時に描かれたものと判断されている。

さらに、この家屋文が石室内部に描かれていることから、その目的を鎮魂・守護・辟邪的な思想があったとしてとらえ、葬送儀礼に関する構造物ではないかとして導き出されている。

善通寺市では、弥生時代の装飾墳墓として知られる仙遊（せんゆう）遺跡の箱式石棺内面に、入れ墨をした人物が写実的に描かれており、古墳時代に盛行する線刻技法がこの時代に確立していたのに注目される。

その他

自由線刻画と違い、先に挙げた三角文などと同様に、九州と関連する可能性がある装飾文様として、岡山県の造山古墳群千足古墳（岡山市）石室が挙げられる。

この古墳は扁平板石積石室であり、その石室内には、石障と呼ばれる仕切り石が立て巡らされ、その内部に浮彫り（彫刻）手法で、直弧文・鍵手文が施されている。

熊本県「井寺古墳」（嘉島町）や福岡県「日輪寺古墳」（久留米市）との共通性があり、3基とも5世紀中頃から末にかけての装飾古墳だけに、その文様や石室形態について、お互いにどのように影響しあっているのか慎重に取り扱いたい。

1973年に広島県で土師埋蔵文化財発掘調査団により6世紀後半築造の大迫（おおさこ）古墳の本調査が実施されている。

その際、赤色顔料を使用した彩色系古墳の可能性があると思われたが、調査の結果、石室内全面に彩色があったことが確認された。

現在、装飾古墳とするには、彩色であるならば塗り分けが確認され、描いてある文様の主題となる、モチーフの確認が必要とされる。

このことから、この古墳については装飾古墳として取り扱うことに疑問があり今回の地名表には含んでいない。

この大迫古墳の例のように、ほぼ全面に彩色を施す例は、あまり横穴式石室では類例を見ない。墓室内（石棺内・土壙墓内）を全面的に彩色する例は縄文時代からあり、弥生時代の石棺墓・甕棺にいたっては膨大な調査例があり、赤色顔料を施す要因は神聖な空間として考えることができよう。

山口県の穴観音古墳は、この地域での装飾古墳最初の確認例のため、今後の類例の増加に期待するとともに、ここで見られる装飾文様のモチーフの広がりに注目したい。

このむつみ村が位置する、山口県北部は日本海沿岸を通して鳥取県や島根県地方との関係を装飾の手法やモチーフとして考えることができよう。

石材について

これら一連の装飾文様が描かれているのには、その石材が線刻に向いているか否かが大きく関わってくる。

九州においては阿蘇に噴出起源をもつ阿蘇溶結凝灰岩の堆積が広範囲に分布し、その石材を利用した装飾文様や、石人・石馬が多く作られている。

鳥取県宍道町を中心とする地方では粗粒凝灰質砂岩（来待石）、香川県善通寺市を中心とする地域では、讃岐岩質安山岩の風化面を利用した線刻を多くの古墳で見ることができる。

注1）斎藤　忠著『壁画古墳の系譜』日本考古学研究2　「第6節 各種要素の組成からなるもの」も併せて引用した。

注2）有岡古墳群（宮が尾古墳）発掘調査報告書、第4章線刻壁画の意味（考察）で笹川龍一氏により詳しく述べられている。

参考文献

国立歴史民俗博物館『装飾古墳の世界』展示図録 朝日新聞社 1993

熊本県立装飾古墳館『福岡県の装飾古墳』展示図録 1997

鳥取県教育委員会『鳥取県装飾古墳分布調査概報』1981

むつみ村教育委員会『穴観音古墳』むつみ村埋蔵文化財調査報告書第1集 1985

朝日新聞社『古墳はなぜつくられたのか』歴史を読みなおす2　1995

大平村教育委員会『穴ヶ葉山古墳群』3　福岡県築上郡大平村文化財調査報告書 1985

加藤和枝『線刻壁画研究ノート①』同志社大学考古学シリーズⅢ「考古学と地域文化」1987

善通寺市教育委員会『史跡有岡古墳群（宮が尾古墳）調査報告』1993

土師埋蔵文化財発掘調査団『大迫古墳』「土師」土師ダム水没地域埋蔵文化財発掘調査報告 1973

島根県教育委員会 日本道路公団『来待石石切場遺跡群』1998

参考文献一覧

乙益重隆編『古代史発掘8　装飾古墳と文様』株式会社 講談社　1974

小林行雄編 藤本四八撮影『装飾古墳』平凡社　1964

斎藤　忠『日本装飾古墳の研究』株式会社講談社　1973

森貞次郎『竹原古墳』　美術文化シリーズ　中央公論美術出版　1968

森貞次郎『北部九州の古代文化』明文社　1976

森貞次郎『装飾古墳』教育社 教育社歴史新書〈日本史〉41　1985

国立歴史民俗博物館 歴博10周年『装飾古墳の世界』展示図録　1993

『線刻壁画研究ノート①－鳥取県における実態と分析－』加藤和江　同志社大学考古学シリーズⅢ「考古学と地域文化」森　浩一編

県史31『鳥取県の歴史』山川出版社　1997

県史43『熊本県の歴史』山川出版社　1999

廣瀬常雄著　森　浩一企画『日本の古代遺跡 8 香川』保育社　1983

野田久男 清水真一共著　森　浩一企画　『日本の古代遺跡 9 鳥取』保育社　1983

小野忠熙著　森　浩一企画　『日本の古代遺跡 30 山口』保育社　1986

脇坂光彦 小都隆共著　森　浩一企画　『日本の古代遺跡 26 広島』保育社　1986

善通寺市教育委員会『史跡有岡古墳群（宮が尾古墳）保存整備事業報告書』善通寺市文化財保護協会　1997

善通寺市教育委員会『史跡有岡古墳群(宮が尾古墳)調査報告－史跡有岡古墳群(宮が尾古墳)保存整備事業に伴う発掘調査報告書－』善通寺市文化財保護協会　1993

建設省松江国道工事事務所 島根県教育委員会『平ラⅡ遺跡・吉佐山根1号墳・穴神横穴墓群』一般国道9号（安来道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書10　1995.5

大谷晃二・林　健亮・松本岩雄・宮本正保『丹花庵古墳の測量調査』島根県古代文化センター「古代文化研究」第6号　1998

土師埋蔵文化財発掘調査団『土師』（大迫古墳）土師ダム水没地埋蔵文化財発掘調査報告書　1972

むつみ村教育委員会『穴観音古墳』むつみ村埋蔵文化財調査報告書第1集　1985

鳥取県教育委員会『鳥取県装飾古墳分布調査概報』　1981

島根県 宍道町教育委員会『宍道町歴史史料集（古墳時代編Ⅰ）』宍道町の横穴墓、横穴式石室集成　1993

島根県教育庁文化課『埋蔵文化財調査センター年俸Ⅵ』平成9年度　島根県教育委員会　1997

気高町教育委員会『山宮14号墳発掘調査報告書』気高町文化財報告第26集　1998

熊本県立装飾古墳館 開館5周年記念特別企画展 全国の装飾古墳シリーズ3『福岡県の装飾古墳』展示図録第10集　1997

熊本県立装飾古墳館 全国の装飾古墳シリーズ4『佐賀県・長崎県の装飾古墳』展示図録第12集　1998

立平　進『鳥形・魚形・籠－信仰の民具の伝播－』「民具マンスリー」第29巻9号　神奈川大学日本常民文化研究所　1996

展示協力機関・撮影協力者一覧

調査協力者一覧
（五十音訓．敬称略）

浅沼政誌
稲田　信
今井和彦
市村　進
大西朋子
大橋雅成
沖　憲明
奥平　徹
落合昭久
加藤卓美
神谷正義
川上　稔
河根裕二
衣笠泰博
久保田昇三
坂本敬司
笹川龍一
眞田廣幸
高橋智也
津川ひとみ
永井　泰
西岡義貴
西尾克己
錦田剛志
根鈴輝雄
林　健亮
原田雅弘
樋口和夫
平川　誠
平木一義
日和佐宣正
牧本哲雄
松田　潔
松本岩雄
宮川　紳
宮本和弘
森　佳樹
森下哲哉
八木谷　昇
山田真宏
米村　博

撮影指導
奈良国立文化財研究所

牛嶋　茂

調査・撮影協力機関名

青谷町教育委員会
出雲市教育委員会
愛媛県教育委員会
岡山県教育委員会
岡山市教育委員会
観音寺市教育委員会
倉吉市教育委員会
気高町教育委員会
郡家町教育委員会
興昌寺
国府町教育委員会
高知県教育委員会
坂出市教育委員会
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
島根県教育庁文化課
島根県古代文化センター
鳥取市教育福祉振興会 埋蔵文化財調査センター
宍道町教育委員会
善通寺市教育委員会
善通寺市立郷土館
東郷町教育委員会
徳島県教育委員会
(財)鳥取県埋蔵文化財センター
鳥取県立博物館
鳥取市教育委員会
徳島県教育委員会
波波伎神社護持会
広島県教育委員会
北条町教育委員会
モニュメント・ミュージアム米待ストーン館
山口県教育委員会
山名寺

装飾古墳撮影／西大寺フォト
ポスター・リーフレット製作／白木メディア株式会社
展示パネル／株式会社 堀内カラー 大阪現像所
有限会社　あうん
展示図録印刷及びデザイン／サンカラー

平成11年度後期企画展

全国の装飾古墳シリーズ　5
『中国・四国地方の装飾古墳』
熊本県立装飾古墳館展示図録第13集

発行日　平成11年10月19日
編　集／熊本県立装飾古墳館
発　行／熊本県文化財保護協会
印　刷／サンカラー

熊本県立 装飾古墳館

11教 熊古
⑥ 002

この電子書籍は、熊本県立装飾古墳館 企画展図録 第13集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、全国の歴史博物館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：中国・四国地方の装飾古墳
発行：熊本県立装飾古墳館
〒861-0561　熊本県山鹿市鹿央町岩原3085番地
電話：0968-36-2151
URL：http://kofunkan.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦2018年6月1日